

天理看護学院 47年の歩み



三代真柱 中山善衛様 御揮毫

平成8年9月1日、新校舎落成披露で御揮毫を頂いた。



学院旗

天理看護学院 学院歌

山本寿太郎 作詞・作曲



1. やま と ぢ の ま な か に い こ いろ あ り
 2. あめ ー つり のち は お な が ー む し り と こ こ の ま な り て
 3. み ど ー は は す が ー し き こ こ の ま な り て



そ び え た ち か が ー よ う い ら か の や ー か た た ー す
 や ま の た の の と ー め そ う こ ろ の ま お ー さ べ め ー ま
 む つ ー み て さ ず ー そ し う こ こ の お ー さ べ め ー ね



く な い も と め て ー よ り く る も の を ー わ
 が び い を と か め て て ー よ り き た も の さ を を ー わ
 な い び い を と か め て て ー よ り き た も の さ を を ー わ



れ れ ら た す け ま ん } か ん ご が ー く せい ー そ
 れ れ ら た す け ま ん } か ん ご が ー く せい ー そ



は て ん り か ん ご が ー く い ん ー ん ー

天理看護学院 学院歌

作詞・作曲 山本寿太郎

- 一 大和路の真中にいこいあり
 聳えたちかゞよういらかのやかた
 救いもとめて寄り来るものを
 われらたすけん 看護学生
 そは 天理看護学院
- 二 あめつち治むるところにて
 山の辺の里ゆかしこの窓辺
 学び求めて寄り来たものを
 われら励げまん 看護学生
 そは 天理看護学院
- 三 緑葉すがしきこの学び
 睦みて携そう掌の修め
 希ひをかけて育くむ業を
 われら研かん 看護学生
 そは 天理看護学院

contents

三代真柱 中山善衛様 御揮毫	2
学院旗	2
学院歌・楽譜	3
旧校舎	6
新校舎	7
第二看護学科閉科式	9
閉校式	10
学院生活	12
真柱様お話	
• 開設式	20
• 新校舎落成披露	24
• 閉校式	28
ごあいさつ	31
歴代学院長・副学院長・教務主任	32
沿革・略年史	34
看護学科／教育課程	36
助産学科／教育課程	45
閉校に寄せて	
• 横山 一郎	48
• 飯降 政彦	49
• 奥村 秀弘	50
• 吉田 修	51
• 太田 茂	52
• 上田 純治	53
• 諸井 博和	54
• 諸井 忠喜	55
• 柏原 貞夫	56
• 植本 洋美	57
• 新納 京子	58

• 河合 幸子	58
• 種田 和清	59
• 海上 美美子	59
• 村田 芳子	60
• 遊田 伊玖子	60
• 高石 理恵子	61
• 柳瀬 由利子	61
• 山本 和恵	62
• 柘植 恭平	62
• 土田 雄三	63
• 米田 耕三	63
• 福井 清三	64
• 泰田 良三	64
• 中 淳伍	65
• 前谷 俊三	65
• 仁尾 雅信	66
• 宮田 元	66
• 渡辺 彰	67
• 井筒 正孝	67
• 澤井 義次	68
• 藤田 良一	68
• 島山 雅行	69
• 松尾 収二	69
• 高橋 律子	70
• 久保 永子	70
• 中村 友美	71
• 横山 富美子	71
• 瓶子 時子	72
• 大田 容子	72
• 梶間 敦子	73

卒業生名簿

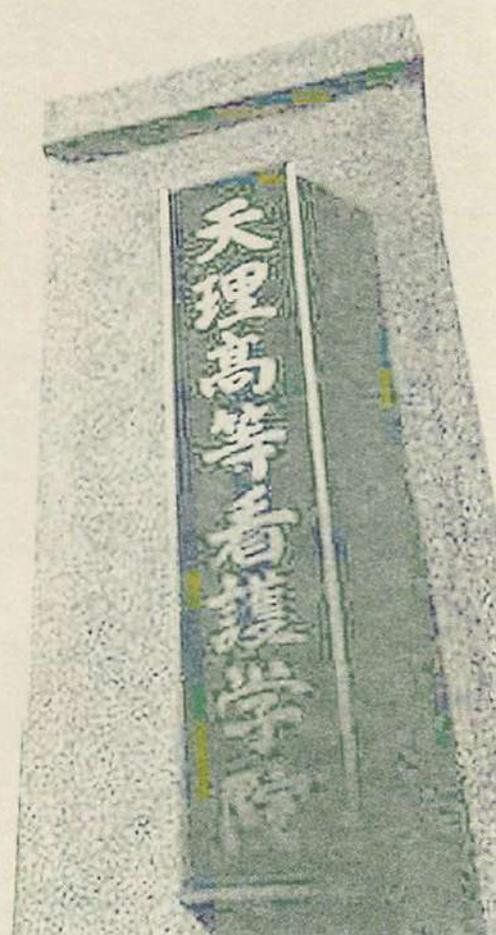
• 第一看護学科 第1期生	78
• 第一看護学科 第2期生	80
• 第一看護学科 第3期生	82
• 第一看護学科 第4期生	84
• 第一看護学科 第5期生	86
• 第一看護学科 第6期生	88
• 第一看護学科 第7期生	90
• 第一看護学科 第8期生	92
• 第一看護学科 第9期生	94
• 第一看護学科 第10期生	96
• 第一看護学科 第11期生	98
• 第一看護学科 第12期生	100
• 第一看護学科 第13期生	102
• 第一看護学科 第14期生	104
• 第一看護学科 第15期生	106
• 第一看護学科 第16期生	108
• 第一看護学科 第17期生	110
• 第一看護学科 第18期生	112
• 第一看護学科 第19期生	114
• 第一看護学科 第20期生	116
• 第一看護学科 第21期生	118
• 第一看護学科 第22期生	120
• 第一看護学科 第23期生	122
• 第一看護学科 第24期生	124
• 第一看護学科 第25期生	126
• 第一看護学科 第26期生	128
• 第一看護学科 第27期生	130

- 第二看護学科 第1期生 …… 132
- 第二看護学科 第2期生 …… 134
- 第二看護学科 第3期生 …… 136
- 第二看護学科 第4期生 …… 138
- 第二看護学科 第5期生 …… 140
- 第二看護学科 第6期生 …… 142
- 第二看護学科 第7期生 …… 144
- 第二看護学科 第8期生 …… 146
- 第二看護学科 第9期生 …… 148
- 第二看護学科 第10期生 …… 150
- 第二看護学科 第11期生 …… 152
- 第二看護学科 第12期生 …… 154
- 第二看護学科 第13期生 …… 156
- 第二看護学科 第14期生 …… 158
- 第二看護学科 第15期生 …… 160
- 第二看護学科 第16期生 …… 162
- 第二看護学科 第17期生 …… 164
- 第二看護学科 第18期生 …… 166
- 第二看護学科 第19期生 …… 168
- 第二看護学科 第20期生 …… 170
- 第二看護学科 第21期生 …… 172
- 第二看護学科 第22期生 …… 174
- 第二看護学科 第23期生 …… 176
- 第二看護学科 第24期生 …… 178
- 第二看護学科 第25期生 …… 180
- 第二看護学科 第26期生 …… 182
- 第二看護学科 第27期生 …… 184
- 第二看護学科 第28期生 …… 186
- 第二看護学科 第29期生 …… 188
- 第二看護学科 第30期生 …… 190
- 第二看護学科 第31期生 …… 192

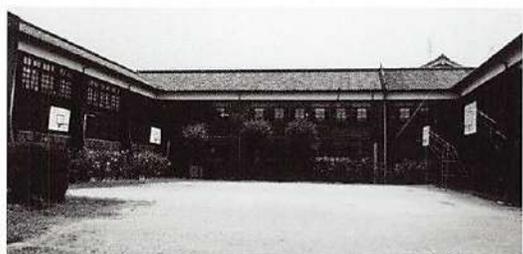
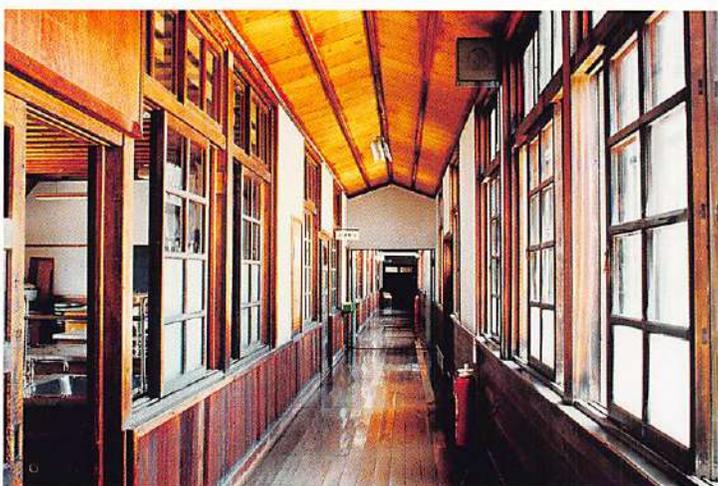
- 第二看護学科 第32期生 …… 194
- 第二看護学科 第33期生 …… 196
- 第二看護学科 第34期生 …… 198
- 第二看護学科 第35期生 …… 200
- 第二看護学科 第36期生 …… 202
- 第二看護学科 第37期生 …… 204

- 助産学科 第1期生 …… 206
- 助産学科 第2期生 …… 208
- 助産学科 第3期生 …… 210
- 助産学科 第4期生 …… 212
- 助産学科 第5期生 …… 214
- 助産学科 第6期生 …… 216
- 助産学科 第7期生 …… 218
- 助産学科 第8期生 …… 220
- 助産学科 第9期生 …… 222

- 天理看護天理学院卒業者数 …… 224
- 同窓会活動について …… 225
- 編集を終えて …… 226



旧校舎



新校舎





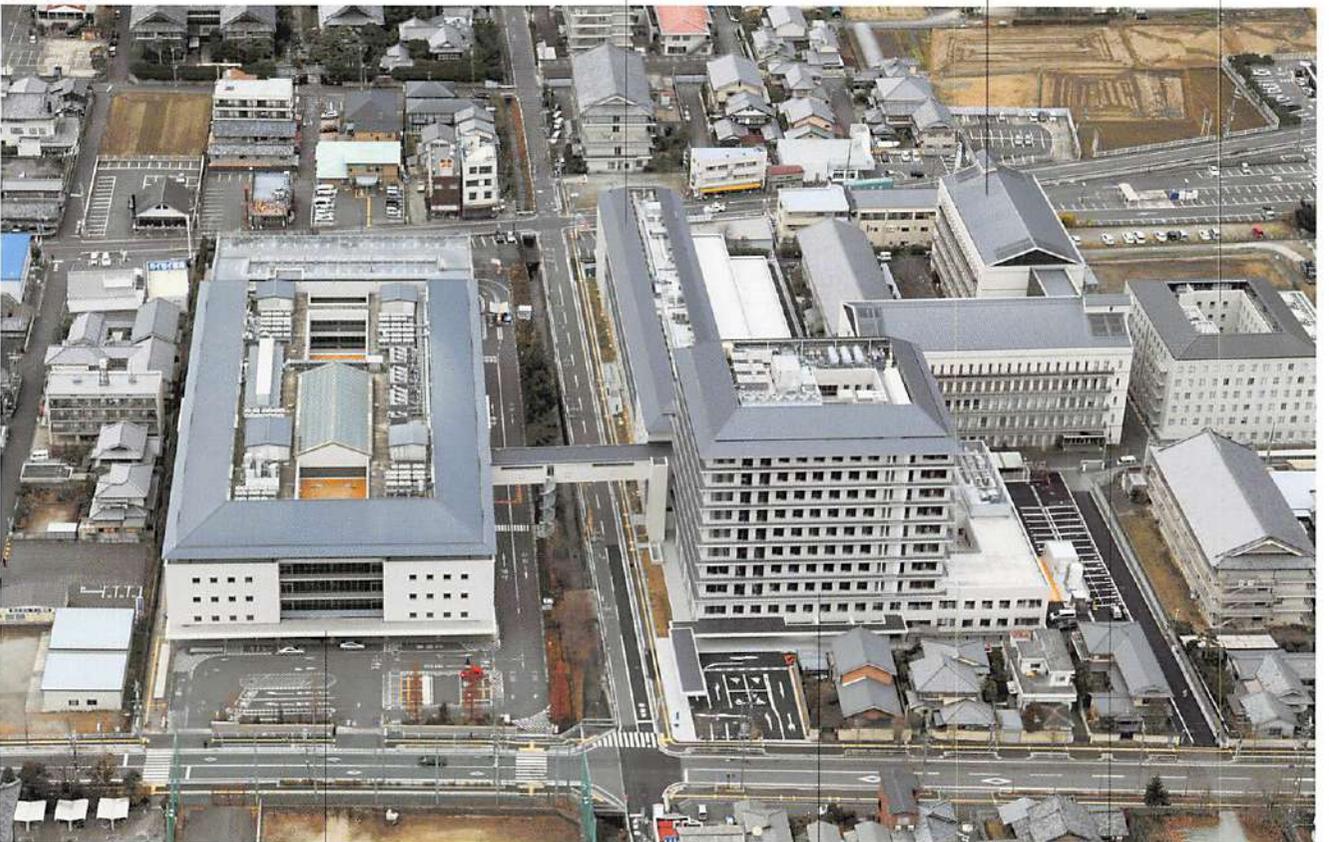
西方より

東方より

天理よろづ相談所病院 西病棟

天理医学技術学校

別所よろこび寮



天理よろづ相談所病院 外来診療棟

天理よろづ相談所病院 東病棟

天理看護学院

天理看護学院 閉校記念誌

第二看護学科閉科式 (平成17年3月8日)



閉校式



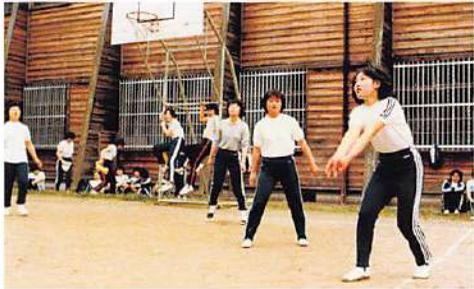


学院生活

1 昭和42年~49年



2 昭和50年～57年



学院生活

3 昭和58年~63年



4 平成元年～4年



学院生活

5 平成5年～11年



6 平成12年～18年



学院生活

7 平成19年～25年



8 助産学科 平成17年～25年



天理高等看護学院・天理衛生検査技師学校 開設式における 真柱様お話

(昭和42年4月6日 於: 憩の家七階講堂)

本日、よろづ相談所の一環として高等看護学院、それから衛生検査技師学校の開設に当たりまして、その第一期生として、ここに学ばれる百人足らずの諸君に、一言私の考えます点をお聞き頂いて、諸君のそれぞれの勉学の上に就いての参考として頂きたい、と、かように存する次第であります。

私は昨年四月、よろづ相談所の中に憩の家を設けました。その時にも申したのですが、医は仁術なりと昔から言われています如く、医は患者を救けるという上に就いての、大切な役割をもっておられるものである。

先程、山本さんのお話の中にも、公共事業としての重要な、主要な部分を占めておるといってお話がありますが、それは人の命を取り扱うという意味から来ることであらうと思います。勿論、その上に就いて、それぞれの持場持場というものがあります。

一つは、それに携わられるのはお医者さんであります。お医者さんの技術が伸びていけばいく程、なくなりかかった命も元通りに治すことが出来るというのが、現在の世界的な常識であらうと思います。

お医者さんの技術は、技術だけの上進ではなくて、生命の延長ということに繋がっているところに、その意味があるものと言わなければなりません。そのために、人の命のために、いろいろと設けられていくのが、設備と申さなければならないのであります。

しかしながら、当憩の家は医学校ではないのであります。医科大学ではないのであります。お医者さんの養成機関ではないのであります。否、その仁術に頼って命の延長を促す、言い換えますと、我々の人生の幸福を願うという患者のために、一つの憩の場と相成ることが、私達の一つの希望である、と、かように昨年も申したのであります。

お医者さんは、その上に就いて、その自分の能力を発揮して頂いて、息の根のあるうちにあらゆる人々の幸福、あらゆる人生の陽気さを取り戻すべく勤めて頂くのである。

おふでさきの中には、このことに就いて、お医者さんは、人体に対する修理肥の役割をする。医者は修理をして下さるお方であり、薬は、それにおく肥に該当するものである、ということが記されてあります。その修理人であるところのお医者さんが、肥であるところの薬を使って、そして人生の幸福を増していく、そこに病院の意義があり、我々の喜びが湧いて来るものと言わなければなりません。

私は、昨年、そのことを強調したのでありますが、その上からお医者さんに付け加えて、或は病室の安逸性、或は機械の整備などということが、病院の、憩の家の一つの命となっている。

これは今日までに於て、既にある程度の設備はなし終えたのであります。只一つ残されていることは、これの運営に於ていかなる態度をとるか。例えば、ここに立派な機械があったと致します。機械があったと致しましても、その用途を誤ったならば、これは何にもならないのであります。正宗の名刀は立派な名器でありましょう。しかしながら、使い方を誤ったならば、これは凶器と相成るのである。

ここに立派なベッドなり、病室なりが設備し得たと致します。しかし四六時中、傍におって見取りをするところの看護婦と申しますか、その人的関係、患者と看護婦との人的関係に於て、心がはだはだであったならば、安らかな憩というものはもち得られない。病人を扱う上に於て、この設備を活用する上に於て、肝心な点は、この機械と、この病室と、お医者さんと、三つのものが一体と相成って適当に運営されるところに、成果というものが発揮される。陽気ぐらしが生まれて来る。憩の家の命が現われて来ると、かように申したのであります。

既に幾人かのお医者さんもおられれば、機械もあれば、看護婦もいる。その上で、今日高等看護学院という一つの付属設備が発せし、衛生検査技師の学校が設けられた。一面に於て、当病院に於ける機械を、完全に持続しながら使っていく技術者の養成であり、当憩の家の精神を、しっかりと患者に示すところの要員の養成である。

先程、山本さんのお話にありました、笑顔と親切という、このモットー、その点に就いては、私は看護学院の皆さん方に、十分、第一の前提として、根本の信念として頂きたいと思うのであります。親切と、そして笑顔、これの基礎の上に、いろいろな課程、決められたところの技術ないし教養を、付設することによって、始めて完全な看護婦としての意味があるものと、お考え頂きたい。

法規によって規定されたところのものの中には、往々にして、この第一の条件を読み込んでしまっておられる場合が多いのであります。当然のことであるとして数えあげられていない場合が多いのであります。しかしながら、この当然なことが忘れられた時には、そのあとに付け加わって来る技術がいかにか上達したと言え、それは人と人との間を取り持つところの人的関係に於て、かもし出すところの看護婦の空気として、私は十分なものであるとは言えない、と、かように信じておる。

技術や規則が第一義であるのではなくて、皆さん方の相手とするのは、精神的にも、身体的にも弱っているところの病人であるということを忘れてはなりません。その上に親切に、そして素直に、お医者さんの言われるように所作を行なう。そこに恐らく高等看護婦としての命があるのではないかということを、私は考えるのである。

また衛生検査の技師となられる諸君に於ても、私は同じことを申したい。諸君は機械を扱うのである。機械を扱うが故に、動もすると人情というものが薄れて来るかも知れません。機械の操作ということに重きを置いたならば、自己の完成ということがおろそかになる場合があります。

法規によつての規則から言うならば、機械の検査ということに重点を置いて検出され、各自の人格の陶冶ということに就いては、余り規則には深く触れていないと思います。しかしながら、諸君も亦人間であり、機械の奴隷ではないのであります。機械の奴隷でない限りは、その機械を人間に都合よく、機械の使命を果たさすべく、人間として機械を操作するということに、重きを置いて頂きたい。

先程申しましたように、自分の人間としての陶冶、これを基礎として、その上に仕込まれているところのものが技術であり、機械の操作である、というようにお考え頂きたい。

私はこの二つのコースの出発に当たりまして、時を同じゅうして出発するが故に、ここに合同の開設式が設けられました。患者というものを、一つの臺として、人間的な付き合いに於て、親切に、笑顔をもってその回復を助長し、機械を操作して、そしてその回復を助成するという面に於ては、技術的には多少の違いはあるが、各人各人の自己の完成ということに更に重きを置いて、自己を完成しながら、しかもその職務に万全を期するのが大切であるということを、先ずお願いしたいのである。

動もすると、技術者は自分の技術に頼って、自分の人間的完成ということ、陶冶ということを怠りがちになります。又看護婦に於てならば、医者である先生の言うことのみを果たせば、それで義務がすんだかの如き、錯覚を起すのであります。しかし、それよりも大切なことは、自分の人格的素養によって、患者との人間的関係が助成され、その間にかもし出されるところの空気が回復の期にあるところの患者、或は病の床に呻吟するところの患者の、精神的にも、肉体的にも、大きな影響があるということを考えて頂きたい。

諸君はよろづ相談所の付設学院ないし学校に学ばれる以上、先ず自分の人格を陶冶して、それによって與えられるところの職務にふさわしいような、笑顔と親切をもって触れ、又一面に於て機械を誤りなく操作する、精密に操作する、迅速に操作する、という技術を身につける。一面に於ては自己の完成への前進であり、一面に於ては機械の操作に対するところの機械の征服である、というような大きな抱負をもって、大きな希望をもって、単なる職業教育を受けるというような面にのみあくせくせず、自分の人生を拡大していくんだというところに興味をもって学んで頂きたい。

学校ないし学院として申しますならば、第一期生というものは、いいにしろ、悪いにしろ、伝統の出発点であります。後に続いてくる人達は、その伝統に知らず識らずに染まっていくというのは、これは人間の常であります。その意味から申しましても、皆さん方に寄せられているところの期待というものは、理想的に大きいものであるということ、を、しっかり心に治めて貰いたい。あえて申しますならば、皆さん方は、その意味に於て責任も重いんだから、しっかりといい伝統の先輩となって頂きたい。

笑顔をもって親切に当たるのが看護婦の、いかなる技術にも先んじた大切な要点であると私は考えます。迅速に、精密に、その機械を操作することによって、データを早く出すこと、これは技術検査を学ばれる方の理想であってほしいのであります。そして立派な伝統ある学校の第一期生としての喜びを、この学校、または学院に残しておいて頂きたい。このことを希望致しまして、開校に当たっての私の挨拶と致します。

どうかしっかりと勉強してくれますようにお願いします。

天理看護学院・天理医学技術学校

新校舎落成披露における真柱様お話

(平成8年9月1日 於:天理看護学院四階講堂)

この度、天理よろづ相談所では天理看護学院と天理医学技術学校の校舎の老朽に伴って、新しい校舎を建築施工いたしておりましたが、滞りなく竣工の運びとなり、本日落成披露にお招きを頂いたわけでありました。この機会に挨拶を求められましたので、思い浮かびますままに両校への私の考えなり希望するところを簡単にお話して責めを果たしたいと思えます。

聞けば、看護学院も医学技術学校も創立三十年を数えるということで、その間には大勢の人材養成に当たって下さった方々のご苦勞をまずお礼を申さなければなりません。また、両校で学んだ後、憩の家あるいはまた他所で勤務した人、また勤務中の人、さらにはやがては勤務する方々に対してはその志と勉学の努力をおねがいを申したいと思うのであります。

考えてみれば、両校とも私はその存在や活動はどちらかといえば非常に地味に見えると思うのであります。人によってはよろづ相談所にそういう学校があったのか、という認識不足の人も私たちのまわりに、しかも身近なところにあるかもしれない。ましてや、両校が信条教育を基底にしているという事実はあまり知られていないであらうと思うのであります。

看護学院も、医技校とこれから申します。看護学院も医技校も専修学校ではありますが、これは言うまでもなく信条教育に立脚しつつ、しかも専門教育をほどこさんがための道だと解しているのであります。ですから、専修学校でありましても、親里にある他の学校と同様、私はたすけ一条の道の上に果たす役割は甲乙がないと、平等であると、同等であると思っているのであります。

話は最初から逸脱しそうになりましたが、この点が学院なり医技校なりの運営ならびに教育に当たっての重要な視点であるということをご承知頂きたいのであります。学生諸君を含めて関係して下さる皆さんが、ここに留意して私の話をもう少し続いて聞いて頂きたいと思えます。

繰り返すことにこれはなりますが、学院と医技校設立趣旨で重要な点は、天理教の

教義に基づく信条教育で人格の形成をたすけつつ、しかも病む人々の医療を補佐する者を養成することです。極言するならば、両校で信条教育を行うことができなくなる事態が起こったとすれば、もはやそれは、よろづ相談所憩の家にこれらを設けた意味は全く半減してしまうと申さねばなりません。

学院や医技校は共に医療現場ではどちらかと言えば、縁の下の力持ち的な仕事を担う者を養成して下さっております。建物に譬うれば、表面にはでないが大切な部分であると申せましょう。建物が大きければ大きいほど、基礎工事に力を入れなければならないのは常識であるように、憩の家が隆盛の道をたどればたどるほど、それを支えられるようにここに関係する人々が、憩の家の教内に於ける役割と期待とをよく理解し、その上から物事を判断して要員の育成に当たって下さることを私は希望したいのであります。

考えてみて下さい。医療は時代の推移と共に医療法も看護法も変わってくる。今日では三十年前には思いも及ばなかったことが、皆さん方の身边に及んでいるでしょう。コンピューターに例を取り上げても30年前と今とでは雲泥の開きがあります。しかしながら、コンピューターを操作するのは人間であります。この点は変わらないのであります。

もし、学院及び医技校の先生方の指導や指導される学生諸君に、人間一人ひとりにふさわしく与った生命に対して畏敬の心というものがなかったら、どんなに最新式の精密計器を備えても、利用如何で憩の家には危機をもたらしてしまうのじゃないかと、私はその点不安に思うのであります。つまり、各人の考え方や一人ひとりの心の持ち方ひとつが、それを未然に防ぐかどうかという道だと申したいのであります。

検査技師の立場に立つて言うならば、物言わぬ物質を相手に毎日明け暮れする仕事もあるでしょう。また、人と接しながら機器とにらめっこをする仕事もあるでしょう。いずれも病気の診断をたすける大切な仕事ではあります。従って、緊張の連続と言えるかもしれません。けれども、自分の心に間隙が生じたとき、データーを読み誤ったり、のデーターを入れ換えて報告してしまうような過ちは起こるはずが絶対ないとは断言できないだろうと思うのであります。

起こるはずがない過ちが生ずる元はどこにあるか。それは機器に対する過信と機械的な動作にあると私は思っているのであります。人間に備わっている感覚よりも、

機器が出す答えの方に重点を置くということは、一面においては大変危険であるようにさえ思われるのであります。

あえて申すならば、人間の心情を軽視するような考え方は、ここではあまり好ましくない考え方だと思うのであります。万が一にも人の生命を左右するような誤りが生ずれば、その人の過ちで終わるのではなくて、私たちの信念からすれば、親神様、教祖にお詫びの申し上げようがないと言わなければなりません。ですから、これを防ぐには常に自分は人の命と人の心を尊重して仕事にかかわっているかということを見問ひ続けながら、与った仕事に精を出して頂きたい。

ついでに、看護する人の立場に立って言っても、一人ひとりの患者の容体を正確に看取り、この人をたすけるための自分の心の持ち方はどうか、自分は何をすることがこの人が少しでもたすかる手だすけになるのか。人間の心の弱さをさらけ出す、身の内にお障りを頂いた者への接し方に自分の態度は親切であるか、誠意を持って接しておるか。機械的に仕事をこなして間違いを侵してはいないだろうか、というような自問は看護にあたる者の初歩的な心得でありましょうが、この初歩的な心得を看護技術修得に優先して、しっかりと身に付けて頂きたいというのが私の願いであります。

また、私は考えました。憩の家をもちたてるのに、親神様から私たち銘々に頂戴している役目を全うする心構えとは何かということ。私は真柱という立場にあって、その役目を果たす努力をしているのであります。ここに列席の方々も憩の家においては、理事長とか世話部長とか、あるいは看護学院長とか医学技術学校長とか病院長とか、さらには看護学院生、医学技術学校生、またその職員など、それぞれが立場を持っている。それは、それぞれが憩の家の理念全うの上に必要な役目を分担していることを意味するのであります。

関係者一同が自分が分担する立場の役割を正確に把握し、全員ひとつ心となって憩の家というたすけ一条の道の中の一つの陽気ぐらしの道場を、親神様の思召にかなうよう、一手一つになって作り出すという心構えでつとめることだと思うのであります。

憩の家に陽気ぐらしを生み出すためには、一言にいえば、各自はそれぞれ密接な連絡をし合うということですが、さらに細かく言えば、根気もいれば忍耐もいれば、親切、気配り、思いやり、たすけ合い、いろいろな心遣いがそれには必要であって、

こういう数々の人間形成を心掛ける者、すなわち成人を目指す者が一手一つとなって憩の家を支えて下さることが、これからも末代かけて続いて行けば、私は創始者の念願は半ば満たされることになると思うのであります。

一手一つとは皆さんには初めて聞く言葉ではなかろうが、一つの目的に向かって全員が同じ考え方で真実込めて行動することです。そこには調和がなくてはなりません。一手一つの調和とは、誰が見ても物事が円滑に運ばれている姿をいうのだと思う。

ご承知のように、ここ親里にはいろいろな学校群あり、修養機関あり、布教伝道機関あり、各会ありで、どれもこれもが陽気ぐらしへと、たすけ一条の道を進める上で必要な分野を受け持っているのであって、その点では憩の家とて同じことである。

更にはこれもご承知のように、憩の家には三つの分野のあることでもあります。それはよろづの事に悩みを持つ人々にたすかって頂きやすいようにという配慮からであります。

学院と医技校はこの中では世話部に所属している。身上部に所属しているのではない。世話部に所属しているというその訳は、世話部というのは、憩の家身上部、別称天理よろづ相談所病院の要員を養成する役目も含めて持つからであります。この上からも、学院と医技校は憩の家設立趣旨に則って、それにふさわしい学生を教育しなければ役目を全うすることにはなりません。

両方とも最初にお話をしたように、本教の信条教育に力を入れながら、加えて看護教育なり医学技術養成なりに当たって頂きたい。そして、それぞれに学ぶ諸君は以上のことを心にわきまえて自らの心を磨き、学んだそれを特技として活かして、たすけ一条の道を堂々と歩んで頂きたいと思えます。

看護学院も医学技術学校も一見地味な学校ではありますが、どうかうまずたゆまず、たすけ一条の道を地道に私たちは歩むごとく、世上の風潮にいたずらに惑わされることなく、関係者一同心を揃えて、校舎が新しくなったということで、心機一転、任務を全うして下さる努力をこれからも重ねて頂けますことを希望して、私の話を終わることにいたします。

ご清聴ありがとうございました。

天理看護学院閉校式における

真柱様お言葉

(平成26年3月14日 於:天理看護学院四階講堂)

本日は天理看護学院の閉校式に出席いたしました機会に、心に思いますことを述べて、ご挨拶といたしたいと思ひます。

先ずは、並河天理市長様はじめご来賓の皆様にお礼申し上げます。公私ともに忙しい中をご臨席くださりまして誠にありがとうございます。

さて、憩の家ではますます高度化、専門化する医療現場の要請に応える人材育成を目的に、天理看護学院と天理医学技術学校を統合して、平成24年に天理医療大学を開校いたしました。以来3年が経過して、看護学院最後の卒業生も無事に巣立ちましたので、いよいよ学校を閉じて、47年に及ぶ歴史に終止符を打つことになったのであります。改めて卒業生や関係皆様のこれまでの努力に敬意を表し、心からおねぎらい申し、且つ、長きにわたって培った伝統と実績を誤りなくしっかりと医療大学に引き継いでいただきたいと思ひるのであります。

お互いに看護学院創設の元一日を尋ね、よって立つ建学の精神を明らかにして今日の日を意義あらしめ、明日へ向かって節から芽の出るご守護をいただけるように、一手一つになって確固とした歩を進めていただきたいと思ひます。

おふでさきに、

にんけんハみなへ 神のかしものや

なんともふてつこているやら (三号 41)

にんけんハみなへ 神のかしものや

神のちうよふこれをしらんか (三号 126)

めへへのみのうちよりのかりものを

しらずにいてはなにもわからん (三号 137)

とあります。

また、おさしづに、

「…身の内かしものや、かりものや、心通り皆世界に映してある。(中略)何程宝ありても、身の内より病めばこれ程不自由はあろうまい。自由自在心にある。」

(明治 21 年 1 月 8 日)

と、あります。

私たちのこの身体はかりものであって、親神様から貸していただいているものと教えられ、その身体を自由自在に使わせていただけるか否かは、私たちの日々の心遣いにかかっていることを教えていただくのであります。

ご承知のとおり、現在の天理よろづ相談所憩の家は、この親神様からのかりものである身体にお障りをいただいた人が、親の膝元で安心して休養し、心身を十分に癒す場所として開所されたのであります。そして内容充実のうえから待望されたのが、病み悩む人々が陽気ぐらしを實踐できるようになるまで、親身になって世話することのできる看護師を自前で養成することでありました。病室や設備が立派なこともさることながら、世話どりする者の人柄が、世話される者の信頼となり安心となることが大切なのであります。

そのうえから、天理看護学院は天理よろづ相談所の人材育成機関として、昭和38年に設立された天理准看護婦養成所に続いて昭和42年に天理高等看護学院として開設されました。単なる職業教育にとどまらず、教祖の教えに基づく信条教育を徹底して、たすけ一条の教祖の親心に沿いきれる看護ようほくを育てるのだという確固たる信念が、准看護婦養成所ならびに看護学院の当初からの教育目標となり、建学の精神となったのであります。そして、育てる者の地道な丹精と育てられる者の努力が相まって、幾多のようほく看護師が誕生し、その人々の地道な働きが憩の家の礎となっているのであります。

おふでさきに、

一寸はなし神の心のせきこみハ

よふほくよせるもよふばかりを (三号 128)

よふほくも一寸の事でハないほどに

をふくよふきがほしい事から (三号 130)

とあります。

「用木」とは本来、建築の用材を意味する言葉ですが、教えのうえでは親神様がお使いになる、この世を陽気ぐらしに建て替えるための陽気ふしんの用材という意味であります。

教祖の手となり足となって、たすけ一条のご用に働くのがその使命であります。親神様は大勢のようほくを一日も早く集めたいとお急き込みになっていますが、建築の用材にも床板や柱といったように、それぞれに違った役割があるように、

いろいろな技術や知識を身につけたようぼくの活動が陽気ぐらしの世の中をつくるためには必要なのであります。

准看護婦養成所に続く天理高等看護学院の開設、さらには天理看護学院への改組、そして医療大学の開設と、看護師養成機関の変遷は医療現場における日進月歩の進歩の反映であります。また、時代とともに厳しくなる医療現場への要請は、最先端の設備を整えた外来棟や新入院棟の新設となり、親の膝元で憩うことを余儀なくされる人々に、余裕をもってより一層憩の家^{つとめ}にふさわしい細やかな世話どりをさしていただくことを可能にしてくれました。それだけにお互いの心の成人が問われると思うのであります。

医学の進歩に適応する高度な看護技術や知識の修得は生易しいことではないと思いますが、憩の家の理念に照らし、伝統に根ざす看護ようぼくとしての資質を、これまで以上に高めていただきたいと思うのであります。

教祖百三十年祭に向かう年祭活動も二年目を迎えております。ようぼく一人ひとりがその使命に対する自覚を深め、それぞれの任務^{つとめ}をまっとうして、ご存命の教祖にお喜びいただこうと申し合わせている句であります。どうかきょうの日が生き節となるように、それぞれの持ち場立場で初心に戻って憩の家創設の理念にふさわしい成人を目指すとともに、看護ようぼくの育成にしっかりおつとめいただきたいと思います。最後に皆様の日頃のご丹精を重ねておねざらい申して、きょうの挨拶とさせていただきます。

学院長 山中忠太郎

ごあいさつ

天理看護学院は、本年3月末日を以て惜しまれながらその歴史に幕を下ろしました。昭和42(1967)年4月に天理高等看護学院として開設以来、これまでに2,822名の卒業生を送り出しました。多くの卒業生が天理よろづ相談所病院のみならず全国各地の医療現場で活躍し、またすでに看護の現場から離れた者も、看護師の経験に加えて学生時代に培った天看スピリットを胸にそれぞれの立場でつとめています。

この47年間で医療はめざましく進歩しました。機械化あるいはIT化と表現されますが、医療現場には手術支援ロボットや最新のCT装置などさまざまな器械が導入されました。これらは検査や治療において、患者さんにかかる負担(侵襲)をより少なくし、より早く回復して退院できるために確かに役立っています。しかしこれらの器械や技術がどんなに進歩しようとも、医療者と患者さんとの信頼関係の構築なしには医療は行えないことには変わりはありません。

医療職の中で、看護師と助産師が最も患者さんに近い位置にいます。ベッドサイドにいく回数、ベッドサイドにいる時間、いずれも看護師が最も多いと思います。患者さんは医師には言えないことでも看護師には言える場合がよくあります。また医師が患者さんに病状や治療方針の説明をしている場面でも、看護師はより患者に近い立場で話を聞き、時には患者さんの側に立って補足的質問をして理解をたずけます。このように患者さんとの距離が短い故に、めいめいの看護師の心の温度が直接患者さんに伝わります。

天理教二代真柱様は、本学院の開校式において「親切と、そして笑顔、これの基礎の上にならぬいろいろな課程、決められたところの技術ないし教養を、付設することによって、はじめて完全な看護婦としての意味がある」と、看護基礎教育における基本的理念をお示し下さいました。笑顔と親切は、相手に助かってもらいたい喜んでもらいたいと心底から思う温かい心がないと表に現れてこないと思います。天理看護学院は、この二代真柱様のお言葉をよりどころに、温かい心をもつ看護師を多数輩出しました。これからは天理医療大学がその役割を担って行くでしょう。

歴代学院長、教職員、臨地実習でお世話になった憩の家をはじめ各施設の指導者の皆さん、そして何よりも看護学生の成長を願って協力して下さいました数え切れない程おおぜいの患者さん。本当に多くの皆さんのお力添えがあって、本学院は卒業生を世に送り出すことができました。ここに改めて関係の皆様へ厚く御礼申し上げます。

● 歴代学院長



山本 俊平
昭和42年4月～昭和46年1月



柏原 貞夫
昭和46年1月～平成5年3月



奥村 秀弘
平成5年3月～平成15年8月



山中忠太郎
平成15年9月～平成26年3月
平成15年4月～平成15年8月:副学院長

● 歴代副学院長



雪永 政枝
昭和42年7月～昭和47年12月



増本 喜枝
昭和60年4月～平成2年3月
昭和42年4月～昭和60年3月:教務主任



海上 芙美子
平成10年4月～平成12年3月
平成6年4月～平成10年3月:教務部長
昭和60年4月～平成10年3月:教務主任



村田 芳子
平成17年4月～平成21年3月



遊田 伊玖子
平成21年4月～平成24年3月



平 葉子
平成24年4月～平成26年3月

● 教務主任



柳瀬 由利子
昭和63年4月～平成5年3月



高石 理恵子
平成5年4月～平成17年3月



大田 容子
平成10年4月～平成26年3月



梶間 敦子
平成17年4月～平成26年3月

昭和42年 2月	厚生省認可
3月	各種学校認可
4月 1日	天理高等看護学院創立 山本俊平 初代学院長就任 増本喜枝 教務主任就任
4月 6日	二代真柱様ご臨席のもと開校式、第1期生定員50名
7月	雪永政枝 初代副学院長就任
46年 1月	山本俊平 学院長退任 柏原貞夫 学院長就任
47年12月	雪永政枝 副学院長退任
49年 4月	増本喜枝 副学院長就任、教務主任兼務
52年 3月	学生寮竣工 第二よろこび寮と命名される
4月	学則一部改正 学生定員を1学年80名に増員
54年 4月	専修学校認可 学院名を天理看護学院に改称
60年 1月	3年課程認可 第一看護学科と呼称、定員50名 従来の2年課程(進学課程)は第二看護学科と呼称、定員50名
4月	高石理恵子 第一看護学科教務主任就任 海上美美子 第二看護学科教務主任就任 第一看護学科第1期生入学
63年 3月	学生寮第二よろこび寮増築
4月	柳瀬由利子 第二看護学科教務主任就任
平成元年 4月	海上美美子 第一看護学科教務主任就任
5年 3月	増本喜枝 副学院長退任 柏原貞夫 学院長退任 奥村秀弘 学院長就任 柳瀬由利子 第二看護学科教務主任退任
4月	高石理恵子 第二看護学科教務主任就任
6年 4月	海上美美子 教務部長就任、第一看護学科教務主任兼務
8年 7月31日	新校舎竣工
9月 1日	真柱様ご夫妻、善司様ご夫妻のお入り込みのもと新校舎落成披露挙行
9月 2日	新校舎使用開始

10年 4月	海上美美子 副学院長就任、第一看護学科教務主任退任 大田容子 第一看護学科教務主任就任
12月	学則一部変更 第一看護学科定員70名、第二看護学科定員30名
12年 3月	海上美美子 副学院長退任
15年 4月	学生寮をよろこび寮と改称
9月	奥村秀弘 学院長退任 山中忠太郎 学院長就任
17年 2月	助産学科認可
3月	村田芳子 副学院長就任 第二看護学科閉科 高石理恵子 第二看護学科教務主任退任
4月	梶間敦子 助産学科教務主任就任 助産学科第1期生入学 第一看護学科より看護学科へ呼称を変更
21年 3月	村田芳子 副学院長退任
3月31日	看護学科全寮制廃止(希望者のみ入寮)
4月	遊田伊玖子 副学院長就任
9月	天理よろづ相談所女子学生寮(別所よろこび寮)竣工
24年 3月31日	遊田伊玖子 副学院長退任
4月	平葉子 副学院長就任 看護学科学生募集中止
25年 4月	助産学科学生募集中止
26年 3月14日	真柱様ご臨席のもと閉校式
3月31日	天理看護学院 閉校

教育理念・教育目的・教育基本方針・教育目標・卒業時の到達目標

教育理念

本学院は天理教の教義に培われた、生かされているよろこび、たすけの心を基本とし、専門職業人としての看護を究め、自ら研鑽を積み、陽気ぐらしの実現に邁進する人材を育成することを目指す。

教育目的

本学院は看護師・助産師となるための必要な知識と技術を教授するとともに、天理教教義に基づく信条教育を行い、もって人間の幸福に貢献し得る看護専門職人^{しよくじん}を育成する。

教育基本方針

本学院は天理教教義に基づいた豊かな人間教育及び看護師となるための基礎教育として看護の心・技・態度を育むものとする。

看護は、人々の健康の保持増進、健康の回復の促進、安らかな死を迎えることを目標とし、人々の生活を整え、自立を目指す活動である。対象であるすべての人の生命と生活を尊重し、対象との人間関係を成立させ、科学的な思考のもと、安全で安楽な看護の実践をすることで、世界の人々の幸福に貢献できる看護教育を目指す。

そのためには、広い視野で社会の変化や価値に対応する力、豊かな人間性と自律性、創造性が必要であり、これらを身につけた看護師を育成することを目指す。

このような人材を育成するために、本学院は、学生自らの経験に基づいて看護の価値を理解、実感できるような状況をつくる。さらに自らの経験から体得した学びを様々な人との相互関係の中で再発見し味わい直す「開かれた学び」の場としての役割を果たす。

教育目標

1. 看護実践に必要な知識・技術・態度を修得し、対象に必要な看護が実践できる基礎的能力を養う。
2. 保健医療福祉チームの一員として、他の人々と協働し、社会の要求に対応できる基礎的能力を養う。
3. 専門職業人としての使命と責任を自覚し、常に自己啓発の習慣を身につける。
4. 宗教情操を育み、豊かな人間性を養う。

卒業時の到達目標

1. 看護の対象を生活者としてとらえることができる。
2. 健康の概念を理解し、健康に関する現象についてとらえることができる。
3. 天理教教義を基盤とし、生命^{いのち}を尊重することができる。
4. 科学的な思考に導かれた判断をもとに対象に応じた安全安楽な看護が実践できる。
5. 看護活動の場において協働できる基礎的能力が身につく。
6. 看護専門職としての自覚をもち、責任ある行動がとれる。
7. 看護を探究し、自らを向上させることができる。

第一看護学科 カリキュラム | 1期生～5期生(昭和60年～平成元年)

●看護学内訳

科目	時間数
物理学	30
化学	30
生物学	30
統計学	30
社会学	30
心理学	30
教育学	30
哲学	45
国語	45
英語	120
音楽	45
体育	60
天理教教義	45
医学概論	15
解剖学	45
生理学	45
生化学(栄養学を含む)	45
薬理学(薬剤学を含む)	30
病理学	45
微生物学	45
公衆衛生学	30
社会福祉	15
衛生法規	15
●看護学	2,795
看護学総論	475
成人看護学	1,690 (1,900)
小児看護学	300
母性看護学	330 (120)
合計	3,695

科目	時間数			備考
	講義	実習	合計	
看護学総論	195	280	475	
看護概論	85		85	看護史及び看護倫理を含む
看護技術	110	120	230	
総合実習		160	160	
成人看護学	520	1,170 (1,380)	1,690 (1,900)	
成人看護概論	30		30	
成人保健	60		60	精神衛生を含む
成人疾患と看護	430	1,170 (1,380)	1,600 (1,810)	
内科疾患と看護	145	435	580	伝染性疾患及び寄生虫疾患、放射線医学を含む
精神科疾患と看護	30	90 (345)	120 (375)	
外科疾患と看護	105	330	435	救急処置及び手術室実習、 麻酔学を含む
整形外科疾患と看護	45	90	135	
皮膚科疾患と看護	15	45	75	
泌尿器科疾患と看護	15			
婦人科疾患と看護	30	45 (0)	75 (30)	
眼科疾患と看護	15			
耳鼻咽喉科疾患と看護	15	90	135	
歯科疾患と看護	15			
保健所等実習		45	45	
小児看護学	120	180	300	
小児看護概論	15		15	
小児保健	30	180	285	保健所等実習を含む
小児疾患と看護	75			
母性看護学	120	210 (0)	330 (120)	
母性看護概論	15		15	
母性保健	75	210 (0)	315 (105)	保健所等実習を含む
母性疾患と看護	30			
計	955	1,840	2,795	保健所における実習は全体を通して 60時間を標準として実施するものとする

(注) 男子学生については、婦人科疾患と看護実習及び母性看護学実習は、精神科疾患と看護の実習とする。
表中時間数の欄の()内は、男子学生の時間数とする。

■ 第一看護学科 カリキュラム | 6期生～12期生(平成2年～平成8年)

科 目	時間数	科 目	時 間 数				
			講 義	実 習	合 計		
基礎科目	人 文 科 学	60	専 門 科 目	基礎看護学	385	385	
	宗 教 学	30		看護学概論	75	75	
	心 理 学	30		基礎看護技術	195	195	
	社 会 科 学	60		臨床看護総論	115	115	
	社 会 学	30		成 人 看 護 学	315	315	
	教 育 学	30		成人看護概論	15	15	
	自 然 科 学	60		成人保健	30	30	
	物 理 学	30		成人臨床看護	270	270	
	情 報 科 学	30		老 人 看 護 学	90	90	
	外 国 語 (英 語)	120		老人看護概論	15	15	
	保 健 体 育	60		老人保健	15	15	
	小 計	360		老人臨床看護	60	60	
専門基礎科目	医 学 概 論	30	専 門 科 目	小 児 看 護 学	120	120	
	解 剖 生 理 学	120		小児看護概論	15	15	
	生 化 学	30		小児保健	30	30	
	栄 養 学	30		小児臨床看護	75	75	
	薬 理 学	45		母 性 看 護 学	120	120	
	病 理 学	105		母性看護概論	15	15	
	微 生 物 学	45		母性保健	30	30	
	公 衆 衛 生 学	30		母性臨床看護	75	75	
	社 会 福 祉	30		臨 床 実 習		1,070	1,070
	関 係 法 規	30		基礎看護		170	170
	精 神 保 健	45		成人看護	} 630	} 630	
	小 計	540		老人看護			
		小 児 看 護	135	135			
			母 性 看 護	135	135		
		小 計	1,030	1,070	2,100		
合 計		3,000					

■ 第一看護学科 カリキュラム | 13期生～20期生(平成9年～平成16年)

		授業科目		単位	時間			授業科目		単位	時間
基礎分野・専門基礎分野	基礎科目	人間の科学		12	330	専門科目 (看護実践学Ⅱ)	在宅看護論		2	60	
		天理教学		2	30		在宅看護概論		1	30	
		生活と身体機構Ⅰ		2	60		在宅看護方法論実習		1	30	
		生活と身体機構Ⅱ		2	60		成人看護学		6	150	
		生命の化学		1	30		成人看護概論		1	15	
		成長・発達と加齢		1	30		成人看護方法論Ⅰ		1	15	
		人間関係論		1	30		成人看護方法論Ⅱ		2	45	
		家族関係論		1	30		成人看護方法論Ⅲ		1	30	
		医療と生命倫理		1	30		成人看護方法論実習		1	45	
		自己表現法		1	30		老年看護学		4	75	
		健康の科学		14	360		老年看護概論		1	15	
		健康学概論		1	30		健やかな老年期をめざす看護		1	15	
		ライフサイクルと健康		1	30		老年看護方法論		2	45	
		健康と性		1	15		小児看護学		4	75	
		心のしくみと健康		1	30		小児看護概論		1	15	
		疾病の成り立ちと回復の促進Ⅰ		2	30		小児の健全な成長・発達をめざす看護		1	15	
	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ		2	60	小児看護方法論		2	45			
	疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ		3	75	母性看護学		4	75			
	健康と運動		2	60	母性看護概論		1	15			
	健康と芸術		1	30	母性看護方法論Ⅰ		1	15			
	音楽	内1科目選択			母性看護方法論Ⅱ		2	45			
	雅楽				精神看護学		2	45			
	絵画				精神看護概論		1	15			
	書道				精神看護方法論		1	30			
	社会・環境の科学		6	150	基礎看護学		2	90			
	生活と環境		1	30	基礎実習Ⅰ		1	45			
	生活と文化		1	30	基礎実習Ⅱ		1	45			
	生活経営論		1	30	在宅看護論		3	135			
	情報と社会		1	15	在宅看護論実習Ⅰ		1	45			
	保健医療福祉システム		2	45	在宅看護論実習Ⅱ		1	45			
	外国語		3	90	在宅看護論実習Ⅲ		1	45			
	英語Ⅰ		2	60	成人看護学		8	360			
英語Ⅱ		1	30	成人看護学実習Ⅰ		2	90				
小計		35	930	成人看護学実習Ⅱ		1	45				
専門科目 (看護実践学Ⅰ)	基礎看護学		17	555	成人看護学実習Ⅲ		3	135			
	看護学概論		2	60	成人看護学実習Ⅳ		2	90			
	看護と人権		1	30	老年看護学		4	180			
	基本的技術論Ⅰ		2	45	老年看護学実習Ⅰ		2	90			
	基本的技術論Ⅱ		1	45	老年看護学実習Ⅱ		1	45			
	看護治療的技術論Ⅰ		2	90	老年看護学実習Ⅲ		1	45			
	看護治療的技術論Ⅱ		2	90	小児看護学 小児看護学実習		2	90			
	健康レベル別援助論		1	30	母性看護学 母性看護学実習		2	90			
	保健指導方法論		1	30	精神看護学 精神看護学実習		2	90			
	ソーシャルサポート論演習		1	30	小計		62	2,070			
	看護過程		1	30	特別講義		1	15			
	看護と研究		2	45	特別活動		1	45			
	事例研究		1	30	小計		2	60			
					合計		99	3,060			

■ 看護学科 カリキュラム | 21期生～24期生(平成17年～平成20年)

教育内容		授業科目	単位	時間	教育内容		授業科目	単位	時間	
基礎分野	科学的 思考の 基礎	科学的思考の基礎	1	30	専門分野	在宅看護論	在宅看護概論	1	15	
		情報科学	1	30			在宅看護方法論Ⅰ	1	15	
		教育学	1	15			在宅看護方法論Ⅱ	1	30	
		研究の基礎	1	15			在宅看護方法論Ⅲ	1	30	
	小計			小計			4	90		
	人間と 人間生活の 理解	天理教学	1	30		成人看護学	成人看護学概論	1	15	
		倫理学	1	15			成人看護方法論Ⅰ	1	30	
		人間発達学	1	30			成人看護方法論Ⅱ	1	30	
		人間関係論	1	30			成人看護方法論Ⅲ	1	45	
		文化人類学	1	15			成人看護方法論Ⅳ	1	30	
		健康と生活	1	30			成人看護方法論Ⅴ	1	30	
		家族社会学	1	30			小計	6	180	
		芸術	1	30			老年看護学	老年看護学概論	1	15
		音楽	内1科目選択					老年看護方法論Ⅰ	1	15
		雅楽						老年看護方法論Ⅱ	1	30
	絵画	老年看護方法論Ⅲ				1		30		
	書道	小計				4	90			
	保健体育	1	30	小児看護学		小児看護学概論	1	30		
英語	1	30	小児看護方法論Ⅰ		1	30				
計	14	360	小児看護方法論Ⅱ		2	45				
専門基礎分野	機能 人体の 構造と	解剖生理学Ⅰ	1	30	母性看護学	母性看護学概論	1	30		
		解剖生理学Ⅱ	1	30		母性看護方法論Ⅰ	1	15		
		解剖生理学Ⅲ	1	30		母性看護方法論Ⅱ	1	30		
		解剖生理学Ⅳ	1	30		母性看護方法論Ⅲ	1	30		
		解剖生理学Ⅴ	1	30	小計	4	105			
	疾病の 成り立ちと 回復の 促進	心理学	1	15	精神看護学	精神看護学概論	1	15		
		病態論Ⅰ	1	30		精神看護方法論Ⅰ	1	30		
		病態論Ⅱ	1	30		精神看護方法論Ⅱ	1	30		
		病態論Ⅲ	1	30		精神看護方法論Ⅲ	1	30		
		病態論Ⅳ	1	15	小計	4	105			
		病態論Ⅴ	2	30	計	37	1,005			
		回復論Ⅰ	1	15	専門分野	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	
		回復論Ⅱ	1	30			基礎看護学実習Ⅱ	2	90	
	回復論Ⅲ	1	30	小計		3	135			
	小計	15	375	在宅看護論		在宅看護論実習	2	90		
	社会福祉	1	30			小計	2	90		
	生活者の 健康	ソーシャルサポート	1	15		成人看護学	成人看護学実習Ⅰ	2	90	
		公衆衛生学	1	30			成人看護学実習Ⅱ	2	90	
医療概論		1	15	成人看護学実習Ⅲ			2	90		
関係法規		1	15	成人看護学実習Ⅳ			2	90		
医療安全管理		1	30	小計		8	360			
小計		6	135	臨地実習	老年看護学	老年看護学実習Ⅰ	1	45		
計	21	510	老年看護学実習Ⅱ			2	90			
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1			30	老年看護学実習Ⅲ	1	45	
		基礎看護技術Ⅰ	2			60	小計	4	180	
		基礎看護技術Ⅱ	1		45	小児看護学	小児看護学実習	2	90	
		治療検査の補助技術	2		60		小計	2	90	
		症状に対する援助技術	2		45	母性看護学	母性看護学実習	2	90	
		看護過程Ⅰ	1		30		小計	2	90	
		看護過程Ⅱ	1		30	精神看護学	精神看護学実習	2	90	
		看護の探究	1		30		小計	2	90	
		小計	11	330	計	23	1,035			
										合計

■ 看護学科 カリキュラム | 25期生～27期生(平成21年～平成25年)

教育内容		授業科目	単位	時間	教育内容		授業科目	単位	時間
基礎分野	科学的思考の基礎	科学的思考の基礎	1	30	専門分野Ⅱ	老年看護学	老年看護学概論	1	15
		情報科学	1	30			老年看護方法論Ⅰ	1	30
	人間と生活・社会の理解	教育学	1	15			老年看護方法論Ⅱ	1	30
		宗教学	1	30			老年看護方法論Ⅲ	1	30
		倫理学	1	15			小計	4	105
		人間発達学	1	30		小児看護学	小児看護学概論	1	30
		心理学	1	15			小児看護方法論Ⅰ	1	30
		人間関係論	1	30			小児看護方法論Ⅱ	2	45
		文化人類学	1	15			小計	4	105
		健康と生活	1	30		母性看護学	母性看護学概論	1	30
		家族社会学	1	30			母性看護方法論Ⅰ	1	15
		保健体育	1	30			母性看護方法論Ⅱ	2	60
	英語	1	30	小計			4	105	
	天理教学	1	15	精神看護学		精神看護学概論	1	15	
計	14	345	精神看護方法論Ⅰ		1	30			
機能 人体の構造と	解剖生理学Ⅰ	1	30		精神看護方法論Ⅱ	1	30		
	解剖生理学Ⅱ	1	30		精神看護方法論Ⅲ	1	30		
	解剖生理学Ⅲ	1	30		小計	4	105		
	解剖生理学Ⅳ	1	30	計	22	585			
	解剖生理学Ⅴ	1	30	在宅看護論	在宅看護概論	1	15		
回復の促進 疾病の成り立ちと	病態論Ⅰ	1	30		在宅看護方法論Ⅰ	1	15		
	病態論Ⅱ	1	30		在宅看護方法論Ⅱ	1	30		
	病態論Ⅲ	1	30		在宅看護方法論Ⅲ	1	30		
	病態論Ⅳ	1	30		小計	4	90		
	病態論Ⅴ	1	30	看護の統合と 実践	総合科目Ⅰ	1	30		
	病態論Ⅵ	1	30		総合科目Ⅱ	1	30		
	回復論Ⅰ	1	15		総合科目Ⅲ	1	15		
	回復論Ⅱ	1	30		総合科目Ⅳ	1	30		
	回復論Ⅲ	1	30		小計	4	105		
	回復論Ⅳ	1	30	計	8	195			
小計	15	435	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	45			
健康支援と 社会保障制度	社会福祉	1		30	基礎看護学実習Ⅱ	2	90		
	ソーシャルサポート	1		15	小計	3	135		
	公衆衛生学	1		30	成人看護学	成人看護学実習Ⅰ	2	90	
	医療概論	1		15		成人看護学実習Ⅱ	2	90	
	関係法規	1	15	成人看護学実習Ⅲ		2	90		
	医療安全管理	1	15	小計		6	270		
	小計	6	120	老年看護学	老年看護学実習Ⅰ	1	45		
計	21	555	老年看護学実習Ⅱ		2	90			
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1		30	老年看護学実習Ⅲ	1	45	
		看護学概論Ⅱ	1		15	小計	4	180	
		基礎看護技術Ⅰ	2	60	小児看護学	小児看護学実習	2	90	
		基礎看護技術Ⅱ	2	60		小計	2	90	
		治療検査の補助技術	1	45	母性看護学	母性看護学実習	2	90	
		看護過程	1	30		小計	2	90	
		対象論	1	30	精神看護学	精神看護学実習	2	90	
		看護技術演習	1	30		小計	2	90	
		計	10	300	看護の統合と 実践	在宅看護論実習	2	90	
		専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論		1	15	総合実習	2
成人看護方法論Ⅰ	1			30		小計	4	180	
成人看護方法論Ⅱ	1			30		計	23	1035	
成人看護方法論Ⅲ	1			30	合計	98	3015		
成人看護方法論Ⅳ	1			30					
成人看護方法論Ⅴ	1			30					
小計	6			165					

■ 第二看護学科 カリキュラム | 1期生～23期生(昭和42年～平成元年度)

●看護学内訳

授業科目	時間数	授業科目	時間数			備考	
			講義	実習	合計		
基礎科目	物理学	45					
	化学	30					
	生物学	30					
	統計学	45					
	社会学	30					
	心理学	45					
	教育学	30					
	哲学	45					
	国語	45					
	英語	90					
	音楽	45					
	体育	45					
	天理教教義	45					
小計	570						
専門科目	医学概論	15					
	解剖学	30					
	生理学	30					
	生化学(栄養学を含む)	45					
	薬理学(薬剤学を含む)	30					
	病理学	45					
	微生物学	30					
	公衆衛生学	30					
	社会福祉	15					
	衛生法規	15					
	●看護学	1,645					
	看護学総論	285					
	成人看護学	930 (1,060)					
	小児看護学	210					
	母性看護学	220 (90)					
	小計	1,930					
	合計	2,500					
			看護学総論	135	150	285	
			看護概論	60		60	看護史及び看護倫理を含む
			看護技術	75	150	225	
			総合実習				
			成人看護学	415	515 (645)	930 (1,060)	
			成人看護概論	15		15	
		成人保健	60		60	精神衛生を含む	
		成人疾患と看護	340	515 (645)	855 (985)		
		内科疾患と看護	30	200	315	伝染性疾患及び寄生虫疾患、放射線医学を含む	
		精神科疾患と看護	75	45 (190)	75 (220)		
		外科疾患と看護	30	150	225	救急処置及び手術室実習、麻酔学を含む	
		整形外科疾患と看護	15				
		皮膚科疾患と看護	15	30	60		
		泌尿器科疾患と看護	15				
		婦人科疾患と看護	15	15 (0)	30 (15)		
		眼科疾患と看護	15				
		耳鼻咽喉科疾患と看護	15	30	75		
		歯科疾患と看護	15				
		保健所等実習		45	45		
		小児看護学	90	120	120		
		小児看護概論	15		15		
		小児保健	30	120	195	保健所等実習を含む	
		小児疾患と看護	45				
		母性看護学	90	130 (0)	220 (90)		
		母性看護概論	15		15		
		母性保健	60	130 (0)	205 (75)	保健所等実習を含む	
		母性疾患と看護	15				
		計	730	915	1,645	保健所における実習は全体を通して60時間を標準として実施するものとする	

(注) 男子学生については、婦人科疾患と看護実習及び母性看護学実習は、精神科疾患と看護の実習とする。
表中時間数の欄の()内は、男子学生の時間数とする。

■ 第二看護学科 カリキュラム | 24期生～32期生(平成2年～平成10年度)

授 業 科 目		時 間 数	授 業 科 目		時 間 数		
					講 義	実 習	合 計
基 礎 科 目	人 文 科 学	60	専 門 科 目	基 礎 看 護 学	240		240
	宗 教 学	30		看 護 学 概 論	60		60
	心 理 学	30		基 礎 看 護 技 術	105		105
	社 会 科 学	60		臨 床 看 護 総 論	75		75
	社 会 学	30		成 人 看 護 学	225		225
	社 会 学	30		成 人 看 護 概 論	15		15
	自 然 科 学	60		成 人 保 健	30		30
	物 理 学	30		成 人 臨 床 看 護	180		180
	情 報 科 学	30		老 年 看 護 学	60		60
	外 国 語 (英 語)	105		老 年 看 護 概 論	15		15
	保 健 体 育	45		老 人 保 健	15		15
	小 計	330		老 人 臨 床 看 護	30		30
専 門 基 礎 科 目	医 学 概 論	15	専 門 科 目	小 児 看 護 学	90		90
	解 剖 生 理 学	60		小 児 看 護 概 論	15		15
	生 化 学 (含 栄 養)	30		小 児 保 健	30		30
	薬 理 学	30		小 児 臨 床 看 護	45		45
	病 理 学	90		母 性 看 護 学	90		90
	微 生 物 学	30		母 性 看 護 概 論	15		15
	公 衆 衛 生 学	15		母 性 保 健	30		30
	社 会 福 祉	30		母 性 臨 床 看 護	45		45
	関 係 法 規	15		臨 床 実 習		720	720
	精 神 保 健	30		基 礎 看 護		90	90
	小 計	345		成 人 看 護		} 450	} 450
				老 年 看 護			
		小 児 看 護		90	90		
		母 性 看 護		90	90		
		小 計	705	720	1,425		
合 計							2,100

■ 第二看護学科 カリキュラム | 33期生～37期生(平成11年～平成16年度)

		授 業 科 目		単 位	時 間			授 業 科 目		単 位	時 間
基礎分野・専門基礎分野	基礎科目	人間の科学		6	180	専門科目 (看護実践学Ⅱ)	専門分野	在宅看護論		3	60
		天理教学		1	30			在宅看護概論		1	15
		生活と身体機構Ⅰ		1	30			在宅看護方法論		2	45
		生活と身体機構Ⅱ		1	30			成人看護学		4	90
		家族関係論		1	30			成人看護概論		1	15
		医療概論		1	15			成人看護方法論Ⅰ		1	15
		自己表現法		1	45			成人看護方法論Ⅱ		1	30
		健康の科学		12	285			成人看護方法論Ⅲ		1	30
		健康学概論		1	30			老年看護学		3	75
		ライフサイクルと健康		2	45			老年看護概論		1	15
		健康と性		1	15			健やかな老年期をめざす看護		1	30
		心のしくみと健康		1	30			老年看護方法論		1	30
		疾病の成り立ちと回復の促進Ⅰ		1	15			小児看護学		3	75
		疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ		2	45			小児看護概論		1	15
		疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ		2	45			小児の健全な成長・発達をめざす看護		1	30
		健康と運動		1	30			小児看護方法論		1	30
		健康と芸術		1	30			母性看護学		3	60
		音楽	内1科目選択					母性看護概論		1	15
		雅楽						母性看護方法論Ⅰ		1	15
		絵画						母性看護方法論Ⅱ		1	30
		書道						精神看護学		2	45
		社会・環境の科学		4	105			精神看護概論		1	15
		生活と文化		1	30			精神看護方法論		1	30
		情報と社会		1	30			基礎看護学		3	135
保健医療福祉システム		2	45	基礎実習Ⅰ		1	45				
外国語		2	60	基礎実習Ⅱ		2	90				
英語		2	60	在宅看護論		2	90				
小 計		24	630	在宅看護論実習		2	90				
専門分野	専門科目 (看護実践学Ⅰ)	基礎看護学		10	345	成人看護学		3	135		
		看護学概論		1	30	成人看護学実習		3	135		
		看護と人権		1	30	老年看護学		2	90		
		基本的技術論		1	45	老年看護学実習		2	90		
		看護治療の技術論Ⅰ		1	30	小児看護学		2	90		
		看護治療の技術論Ⅱ		1	30	小児看護学実習		2	90		
		健康レベル別援助論		1	30	母性看護学		2	90		
		看護過程Ⅰ		1	30	母性看護学実習		2	90		
		看護過程Ⅱ		1	45	精神看護学		2	90		
		看護と研究		1	45	精神看護学実習		2	90		
		事例研究		1	30	小 計		44	1,470		
								特別講義		1	15
								特別活動		1	30
								小 計		2	45
						合 計		70	2,145		

教育理念・教育目的・教育方針・教育目標・卒業時の到達目標

教育理念

本学院は天理教の教義に培われた、生かされているよろこび、たすけの心を基本とし、専門職業人としての看護を究め、自ら研鑽を積み、陽気ぐらしの実現に邁進する人材を育成することを目指す。

教育目的

本学院は看護師・助産師となるための必要な知識と技術を教授するとともに、天理教教義に基づく信条教育を行い、もって人間の幸福に貢献し得る看護専門職人を育成する。

教育方針

本学科は、天理教教義に基づいた豊かな人間教育及び助産師としての基礎教育を基に、助産に対する心・技・態度を育むものとする。

すべての助産活動における実践は、科学的根拠を幅広く応用するものである。したがって、女性の一生における性と生殖をめぐる健康に関する課題に対して、専門的な知識と技術を駆使した支援ができる能力を養う。

また、時代背景や社会のニーズに応じた保健活動に貢献できる教育を目指す。

教育目標

1. 助産活動の基礎となる専門知識・技術を習得し、実践できる能力を育てる。
2. 地域社会における助産師の役割を理解し、他職種と連携・協働して活動できる能力を育てる。
3. 専門職人としての自覚をもち、自己研鑽できる態度を養う。
4. 天理教教義を基盤とし、助産師として必要な心を育てる。

卒業時の到達目標

1. 妊産褥婦、新生児の助産過程の展開ができ、個別的なケアが実施できる。
2. 原則に基づいて正常分娩の介助が安全・安楽に実施できる。
3. ライフサイクル各期における健康生活のための援助ができる。
4. 正常からの逸脱が判断でき、助産師が行う救急処置が指導のもとで実施できる。
5. 母子保健医療福祉チームの一員として、助産活動ができる。
6. 周産期における医療安全の確保と医療事故への対応を理解し、事故防止に対する基本姿勢を身につける。
7. 周産期における災害対策の基本的姿勢を身につける。
8. 母子保健に関する国際的問題に関心を持ち、助産師としての使命を自覚できる。
9. 生命や自然の力を尊重し、思いやりや感謝の心を態度に表すことができる。
10. 助産師としての職業倫理に基づいた、責任感を身につける。

■ 助産学科 カリキュラム | 1期生～7期生(平成17年～平成23年度)

教育内容	授業科目	単位数	時間数
基礎助産学	助産学概論	1	30
	人間の性・生殖	1	30
	妊娠・分娩・産褥の生理	1	30
	新生児・乳幼児の生理と成長・発達	1	30
	母子の健康科学	1	30
	親子の心理・社会学	1	30
	助産研究	1	30
	小計	7	210
助産診断・技術学	助産診断・技術学総論	2	60
	助産診断・技術学Ⅰ(妊娠期)	1	30
	助産診断・技術学Ⅱ(分娩期)	1	30
	助産診断・技術学Ⅲ(産褥・育児期)	1	30
	健康教育演習	2	60
	小計	7	210
地域母子保健	地域母子保健	1	30
助産管理	助産管理学	1	15
	小計	2	45
指定外科目	助産と宗教	1	15
	合計	17	480
助産学実習	助産基礎実習	1	45
	助産診断・技術学実習Ⅰ(妊娠期)	2	90
	助産診断・技術学実習Ⅱ(分娩期)	3	135
	助産診断・技術学実習Ⅲ(産褥・育児期)	2	90
	地域助産ケア実習	2	90
	助産管理実習	1	45
	合計	11	495
	総合計	28	975

■ 助産学科 カリキュラム | 8期生～9期生(平成24年～平成25年度)

教育内容	授業科目	単位数	時間数
基礎助産学	助産学概論	1	15
	人間の性・生殖	1	30
	妊娠・分娩・産褥の生理	1	30
	新生児・乳幼児の生理と成長・発達	1	30
	母子の健康科学	1	30
	親子の心理・社会学	1	30
	助産研究	1	15
	小計	7	180
助産診断・技術学	助産診断・技術学総論	2	60
	助産診断・技術学I(妊娠期)	1	30
	助産診断・技術学II(分娩期)	1	30
	助産診断・技術学III(産褥・育児期)	1	30
	助産診断・技術学IV(周産期の異常とケア)	1	15
	健康教育演習	2	60
	小計	8	225
地域母子保健	地域母子保健	1	30
助産管理	助産管理学I	1	15
	助産管理学II	1	15
	小計	3	60
指定外科目	助産と宗教	1	15
	合計	19	480
助産学実習	助産基礎実習	1	45
	助産診断・技術学実習I(妊娠期)	2	90
	助産診断・技術学実習II(分娩期)	3	135
	助産診断・技術学実習III(産褥・育児期)	2	90
	地域助産ケア実習	2	90
	助産管理実習	1	45
	合計	11	495
	総合計	30	975

閉校に寄せて



公益財団法人 天理よろづ相談所 理事長
横山 一郎

平成26年3月14日をもって47年間の歴史を刻んできた天理看護学院が閉校することとなった。学校名が消えるということに一抹の淋しさはあるが、天理医療大学への移行という発展的閉校であり、時代の流れに添った前進の姿であることを喜びとしたい。

同学院の設立母体である、天理よろづ相談所病院(憩の家)は、奈良県のみならず、全国的に名の知られた高度な医療を提供する医療機関である。医療の質は様々な局面から評価される。

まず、医師の力量、医療にかける温かい思いが、なによりも大切である。加えて、患者に常に接する看護師の能力と優しさ、薬剤師、検査技師の能力、医療事務に関わる職員など数多くの要素が病院の質を決める。その中でも、常に患者と接し、適切な治療と心の安らぎを与える看護師の存在は非常に重要である。天理看護学院はまさに、看護技術の習得のみならず、教祖の「この屋敷に帰って来る者は一人として喜ばさずには帰されん」と仰せになったおたすけの心を信条教育を通して教育し、優秀な看護師を送り出して来た。

こうした教育を受けた看護師が「憩の家」に勤務し、「笑顔と親切」をモットーに、医師を助け、患者に優しい看護を提供して、患者さんに

喜ばれている。まさにこれこそが、「憩の家」が全国に質の高い病院として認識される大きな要因になっている。

歴代の学院長を始めとする教職員の方々の「立派な看護ようほく」を育てるという強い意志と情熱が天理看護学院を支え、実績を挙げたのである。

また、看護学院生は2年次において、戴帽式という他では見られない厳粛な儀式を経験し、教祖のたすけ一条の親心のこもる「お灯り」とナイチンゲールの看護の心を象徴する「ナースキャップ」を戴くのである。大きな節目の行事である。

この後、いよいよ病院での実習が始まり、先輩の看護師に指導を受けつつ、実際に患者さんに接し、看護の技術を磨いていくのである。この実習に際して「憩の家」という大病院が、その実習の場として提供されてきたことは、天理看護学院の他校には少ない学習環境である。この実習を通して一流の看護師として巣立つべき、看護の技と心を身につけることが出来たのである。

天理看護学院は今、幕を引き、医療大学に引き継がれていくが、卒業生、或いは関係者の方々は、母校で学んだ喜びと大きな誇りを持って、看護の道を歩んで頂きたいと願って止まない。



受け継がれるべき天理看護学院の精神

前表統領 天理大学 学長
飯降 政彦

「憩の家」の評判は、創設以来すこぶる良い。それは、高度な最先端医療を施す医師の存在はもちろんのこと、また事情部講師の適切な対応もさることながら、病棟に一際存在感を示している看護師の方々の心暖かく思いやり深い看護やお世話取りの賜物である。その看護師は、大半が天理看護学院の卒業生、または天理准看護婦養成所の出身者で、看護の知識とともに、おちばで信条教育を受け、テクニカル面でも、また心の面でも十分に鍛えられた方々で、病棟にはいつもきびきびとした所作と笑顔があふれている。

私は表統領時代、天理看護学院の卒業式に毎年招かれて出席した。最初はおちば管内の学校における卒業式の一つとして義務的に出席したが、同学院の卒業式は、非常に惹きつけられ、以後時間をつくっても出席しようと思うようになった。おちばの学校にもいろいろな卒業式があるが、この卒業式はいちばん涙が多い。その涙は、さまざまな困難にぶち当たりながらも、それを克服して今の自分があるという念い。さらに共に苦学した友人、苦難の中を導いてくださった恩師、背後から支えてくれた親、保護者、教会の会長さんなど、3年間で絆を深めた人々への思いが交錯して、たくさんの涙が流れる。そういう

清々しい涙に触れ、私自身の心も大きく揺さぶられる思いがした。

加えて、この卒業式に匹敵するぐらい厳粛で、心引き締まる式がもう一つある。「戴帽式」である。これは文字通り、ナースキャップを身につける戴帽の式で、看護師の鏡とされるナイチンゲールの精神が籠ったものであるとともに、おちばにおいては、ご存命の教祖のお住まいから頂戴したお灯かりを、学院生それぞれが手にする蠟燭に点すという儀式が加えられている。これこそ、お道のよふほくとして教祖の御心を我が心に重ねて、これから事に当たっていこうという決意を表すものであると実感した。

現代の医療現場は、非常に高度で最新の医学知識が必要になる。また、大変ストレスも多い職場であるが故に、絶えず知を蓄え、心を尽くし、そして身体も丈夫でなければつとまらない。このような中で、看護師の役割は今後ますます重要になってくる。

天理看護学院の創設以来の教育は、天理医療大学に受け継がれていくが、同学院で培われてきた伝統、そこに流れる精神をしっかりと反映されることを心から期待して止まない。



「私と天理看護学院」

公益財団法人 天理よろづ相談所病院 身上部長・総長
奥村 秀弘

私は平成5年3月11日付で看護学院長として着任し、以来平成15年8月迄10年間、海上副学院長、大田、高石、両教務主任を始め学院の教職員の方々の御協力により、元気に勤めさせていただきました。

この10年間をふりかえてみますと、一番嬉しかった事は、何と言いましても新校舎の完成であります。

学院へ赴任いたしまして校舎を巡視いたしました折、校舎があまりにも老朽化がひどく、200名を超える学生達が学習するには危険ではないかと思ひまして調査いたしますと、消防署からも、もし火災が発生すれば30分で全焼する、又強い地震が発生した場合には崩壊の危険性が高いと指摘されていたとのことであります。このような事から、もし授業中に強い地震が発生したらと考えますと、至急対策が必要と考えました。早速当時の中田世話部長に御相談し、その実情を常務会、ならびに理事会でご説明させて頂き、校舎の改築の必要性を強く御願ひし、平成6年2月2日の理事会で新校舎建築が許可された時の喜びと安堵は今も忘れることはありません。その後新校舎完成迄、色々な問題が発生し、海上副学院長と一緒に苦労した事も、今はなつかしい思い出となりました。その新校舎が、天理医療大学に移管されることになりました。

しかし、約30年の永きに亘り、あの木造の旧校舎で毎日毎日、廊下を雑巾がけし、又台風の際は窓ガラスに目張りをしたり、何時も廊下が黒光りするほど磨いていただいた事を思い出します。このように大切に使用して来た旧校舎を一部だけでも保存出来ないだろうかという声が、主に卒業生の方々から起り、竹中工務店をお願いして、玄関に旧校舎の階段の一部を保

存することが出来ました。今でも磨り減った階段の手摺を見ますと、この木造校舎が30年という永い間、学院を支えて来てくれたという思いがいたします。又この話を聞かれた中村一雄画伯や、先年亡くなられた有名な写真家の西川猛先生が、旧い木造校舎をすばらしい油絵や写真として残して頂きました。又その様子が朝日新聞の奈良版に2回大きく掲載されました。これらは学院の三十年誌にも頂戴いたしました。

しかし、一番うれしかった事は、前真柱様が新校舎落成披露にお入りこみを頂いた事であります。看護学院も医学技術学校にとりまして、開校以来真柱様のお入りこみ頂くのは初めてであり、大きな喜びでありました。当時の真柱様は只今の前真柱様であり、又現真柱様を始め、まさ奥様、はるえ奥様、御四方をお迎えして新校舎落成披露が出来た事は、何事にも変えがたい喜びでありました。又前真柱様はお言葉の中で、今迄は別々の学校であったが、元来看護学院も医学技術学校も共に憩いの家の唯一の要員養成機関である、即ち憩の家にとって必要な人材を養成するたった1つの学校であり、両校は今後1つの学校として合併するという事をお述べになりましたが、これは両校の将来の進むべき道をお示しいただいたと思うのであります。

看護学院も医学技術学校と一緒に、平成24年度より天理医療大学看護学科、ならびに臨床検査学科として昇格いたしました。天理教の信条教育に培われて来た、47年というすばらしい永い歴史と伝統を、是非天理医療大学に引き継いで頂きたいと願うのであります。



天理看護学院閉校に際して 「終わりではなく始まりです」

天理医療大学 学長
吉田 修

今日、天理よろづ相談所病院が日本の医療機関のトップクラスにあることは多くの人々がひとしく認めるところです。それは「最高レベルの医の技と心」で診療が行われているからです。その大きな支えが看護職者であることもまぎれのない事実です。「天理よろづ相談所病院の看護師さんたちは優しく親切で素晴らしい」という声は、患者さんや家族の方々、医師をはじめとする医療関係者からよく聞く声です。その多くの看護師、助産師を育成してきたのが天理看護学院です。ここまでに看護学院を育て上げた歴代の学院長、教職員、その他多くの関係者の皆様に心から敬意を表します。

平成24年4月に発足した天理医療大学の理念は「人に尽くすことを自らの喜びとする」としましたが、これは天理看護学院の教育理念をそのまま継承したものであり、天理教の教義に基づく信条教育の理念でもあります。

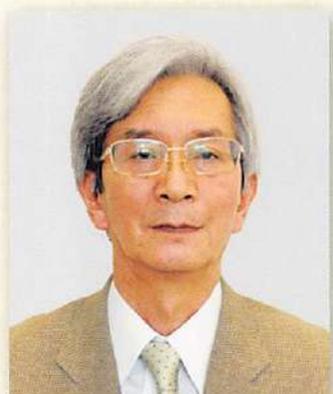
「人間は社会的動物である」といわれます。人間は社会を構築し、その中で生きています。そのために必要なのは利他の精神であり、人間の遺伝子にも備わっているものです。でなければ人類は大昔に滅亡しています。「人に尽くす」とは取りも直さず究極の利他のことです。

「天職」とか「人に尽くす」という言葉はいまや死語に近いという人もおられますが、そのような社会であってはなりません。この理念は「生命への畏敬」に基づいたものでもあり、超高齢社会となってもまだ高齢化が進んでいる日本にこそ、いや高齢社会である先進諸国すべての国でなくてはならないものです。わけても医療職に就く人はこの理念を自己の信念として持っていたいただきたいと考えます。

天理看護学院はその果たした輝かしい業績を歴史に刻んで閉じることになりますが、これを終わりではなく始まりであると考えていただきたい。「天理看護学院は天理医療大学としてその理念と伝統を引き継ぎ発展する」と考えていただきたい。また近い将来、天理医療大学の看護学科の卒業生が天理よろづ相談所病院に看護師として勤務することになりますが、天理看護学院卒業の皆さんは母校の後輩として指導してやっていただきたいとお願いいたします。

重ねて歴代の学院長、教職員、そのた多くの関係者の皆様にこころから敬意と感謝の意を表し、天理医療大学の教職員は全員が一致協力してその理念と伝統を引き継ぎ発展させることをお約束いたします。

閉校に寄せて



公益財団法人 天理よろづ相談所病院 院長
太田 茂

天理看護学院は、昭和42年4月に天理高等看護学院として創立後、昭和54年に天理看護学院と改称し、従来の2年課程を第二看護学科とし、新たに3年課程の第一看護学科を加え、さらに平成17年4月には助産学科を開設し、看護師、助産師養成にあたってこれらしました。

平成26年3月までに、第一看護学科、第二看護学科から、それぞれおおよそ1250名、1500名が卒業し、助産学科からは77名が卒業されますが、その卒業生のほとんどの方が天理よろづ相談所病院で働いておられます。

天理よろづ相談所病院は、天理よろづ相談所の身上部として、事情部、世話部とともに、親切と笑顔をモットーにして、病める人たちの身体、心、社会生活にわたる全人的包括医療の提供に努めています。

天理看護学院の卒業生は、多くの患者さんから親切な看護婦さんとして高く評価されています。当院のモットーを体現しながら、日々の看護にあたる看護師、助産師の姿勢は天理看護学院の信条教育の賜物と考えております。

また、当院に勤務している多くの卒業生は、日々の看護にあたるのみならず、自己研鑽を怠らず、学会発表などの研究活動、認定看護師などの資格獲得などに努め、内外から高い評

価を得られておられます。このような卒業生の向上心は、天理看護学院の教育方針、実践によって齎されたものと拝察しております。

さらに、当院に勤務している卒業生は、日々の看護業務に止まらず、院内の感染対策、緩和ケア、地域連携などの分野において、他職種と共同して、重要な組織横断的病院活動を担われ、当院にとって不可欠な存在になっています。このような積極的に病院運営に関わる姿勢も天理看護学院で培われたものと推察しております。

閉校にあたり、このように多くの優れた人材を育て、当院に送り出して頂いた歴代の学院長、教職員の皆様に、改めて、心からの謝意を表します。



公益財団法人 天理よろづ相談所 世話部長
上田 純治

私は平成24年3月1日付をもって教会本部より天理よろづ相談所に出向、世話部の御用に携わっております。天理よろづ相談所開設の目的は、天理教の信仰に基づき、親神の子どもであるすべての人々の幸福を望む上から設置されたもので、単に病気を治療するに留まらず、人々の心身の救済を希求し、陽気ぐらし世界の実現に寄与するのです。そのなかにおいて世話部の養成係は医療に携わる人材育成、つまり医療ようぼく育成のため、学生の扶育や、寮の生活などに、側面から指導や援助を行っています。

そのようなことから私は天理看護学院や寮の行事等にも立ち会い参加する機会を得てきました。ここにその幾つかを挙げてみますと、平成24年5月10日の戴帽式。天理看護学院最後の戴帽式は私にとって立ち会えた初めての機会でありました。この神々しく清楚で静寂な儀式に、看護学生67名の立派な成長した姿を見ることができました。

また毎月、別所よろこび寮では月次祭が執り行われていますが、私が出席した平成25年4月15日は、おやさと1号館の男子学生40名を含め160名余の学生が集い執り行われました。鳴物を入れて、座りつとめはおつとめ奉仕者で勤め、ておどりは全員でさせていただき、その後私から教話を取り次がせていただきました。寮生一同で月次祭を毎月陽気につとめさせていただくことは大変意義

深いことであります。また、平成17年開設の助産学科には、平成24年度、25年度入学の学生に「助産と宗教」というテーマで講義をさせていただいたことがあり、90分間の持ち時間、どのような話をすればいいだろうかと大変迷った末、私のことも6人のお産についてのいろいろな話、ご守護いただいたことや、をびや許しについてお話いたしました。一番緊張したことは教務主任の先生が学生と一緒にいられたことでした。その他、夏のこともおちばがえりの救護ひのきしん、全教一斉ひのきしんデー参加、学院祭(天医祭)など学校の勉強以外の多くのことを経験され学生それぞれが大きく成長されたと感じるのであります。また、年に数回実施された学生育成懇談会においては、学院、寮の先生方が我が事として学生達のことについて真剣に話をされており、なんと幸せな学生達だろうと思わずにはいられませんでした。

この素晴らしい天理看護学院が閉校されることは大変淋しいことではあります。天理看護学院と天理医学技術学校は、天理医療大学の医療学部看護学科と臨床検査学科に引き継がれます。既に平成24年度より天理医療大学が開学しておりますが、天理看護学院の精神も天理医療大学にしっかり引き継がれ素晴らしい医療従事者、医療ようぼくが輩出されることを期待いたします。



公益財団法人 天理よろづ相談所 元世話部長
諸井 博和

この度、天理看護学院は天理医学技術学校と共に閉校の運びとなりました。以前より、大学への移行は避けて通れないものと聞かせてもらい、それなりに理解をしていたつもりですが、やはり寂しさは禁じ得ません。

私の「憩の家」看護師のイメージは、“行いも、言葉も、芯がありながらも優しく、行届いている、病院には無くてはならない世話取り方”であります。その一人ひとりがこの道の信仰者であることから言えば、教祖のお心を深く心に載して通ることのできる働き場に居る人達であるという事も思います。その看護師を育ててきたのが看護学院でありました。

看護学院について特に思い出すことは、二つあります。

一つは、入学試験の面接で会った一人の娘さんのことです。信仰心篤い親御さんの元で明るくしっかりと育てられた娘さんに接し、成程、こうした心栄えの人達が憩の家を支えてきてくれたのかと、大変嬉しく力強く感じ、益々使命感を持つ明るい心栄えの看護師が育ってくれるように、と思った時のことです。

今一つは、看護学院で先生方に教祖のお心についてお話をさせていただいた後の談じの場で、信仰ある看護師を育てる思いを、あらためて

共有できたと感じた時のことです。

「憩の家」は、昭和41年に病院の本体がおやさとかたに入るに際して、二代真柱様が「憩の家」と命名なされました。“病む人に、身も心も元気になってもらい、他日よふきぐらしが出来るように、医療の手を尽くし、心に力を持ってもらえるよう、手を心を添える”と、その思いを分りやすく聞かせていただいています。そのために、病院で患者さんたちの手助けのできる看護ようぼくを育ててきたのが本校でありました。

憩の家開所に先立つ昭和38年に開所したのが天理准看護師養成所、そしてそこを巣立った人を更に正看護師として育ててもらうために昭和42年に設立されたのが、当看護学院でありました。時の流れの中で、二科が閉科されたのが8年前、そしてこの度、学院の本体を閉じることになりました。

人材育成のタスキは、天理医療大学に総て託されます。いかに信仰心を大切にする看護師を育ててゆくかが、大きな課題でありましようが、憩の家設立の主旨を、今後立派に発揚し続けるため、大学と「憩の家」が一体となって、益々人材の育成を為されんことを祈念し、一言閉校にあたっての文とさせていただきます。



公益財団法人 天理よろづ相談所 前世話部長
諸井 忠喜

今回の記念誌発刊に伴い、いつ頃から世話部長としてその任にあったのかを調べてみました。私の古い手帳には、平成23年1月から翌年の2月29日に学院の予定が記されてあります。世話部長として在任期間はわずか1年余りのことであり、歴代の部長としては実に短い期間でありました。手帳には卒業式や入学式をはじめ、戴帽式、新生入生に対する特別講義、謝恩会、運営審議会、入学試験の判定会議など様々な予定が書かれてあり、あらためてその時々思い出が私の頭の中を走馬灯のように駆け巡ってまいりました。

公益財団法人である天理よろづ相談所の事業目的に、「医学医術の向上のための研究及びその成果の普及並びに医療従事者の養成など…」と記載されており、言わずと知れた当学院は、医療従事者の養成に欠かせない機関として、長年、憩の病院運営を維持していく上に必要不可欠な部門でありました。その功績は実にすばらしく、学院の卒業生の大半は憩の家に勤められ、今も学院の理念即ちお道の信条教育を以て、看護よふぼくとして日夜勤めて下さっておられるのであります。

冒頭で申しました新生入生に対する特別講義の中で、私は特にその点を主眼として講義を

持たせてもらったことを今は懐かしく思います。「どういう点が他の学校と違うのか」「当学院の目指すところは一体どういう点か」更には「なぜ毎日、朝の参拝をするのか」など、その目的は医療従事者を育てる上に信条教育を重点においた学校であり、天理教教理に基づいた人材「よふぼく」の育成にあるのであります。

財団法人天理よろづ相談所の創立に伴い、昭和42年4月から一貫して、学院の教職員はもちろん卒業生一人ひとりがこうした理念を養って勤めて下さったからこそ、全人医療の草分けとしてどこにも負けない今日のような立派な医療機関に成長することができたと感じるのであります。

今、あらためてその役割は天理医療大学に移されました。その建学の精神は、「人に尽くすことを自らのよろこびとする」というお道の信条教育を基調としており、とても頼もしい限りであります。当学院は閉校されるもその精神はこれからも長く伝承され、お道の教義に培われた、生かされているよろこび、たすけの心を基本とした陽気ぐらし実現に邁進する人材育成にあることは言うまでもありません。



閉校にあたり思うこと

天理看護学院 元学院長
柏原 貞夫

昭和41年4月1日、西右2、3棟の竣工にあたり、二代真柱様は、この施設を「憩いの家」と命名され、病む者が心身ともに憩える場となるよう指示され、更に「患って居る人達を「親切」に扱っていただきたい、この親切を第一のモットーとして考えていただきたい」と、総ての従業員に明確にご指示されました。

一般に病人にとってたよになる人といえば、医師は勿論であるが、毎日温かく看取ってくださる人を最もたよとするところです。病院の「質」を決める要素として、医師の質は当然ですが、看護の質は最も大きな決め手となると、私は信じています。

この学院は、昭和42年4月に開設され、憩いの家院長であられた山本俊平先生が学院長を兼務され、色々な困難の中を着々と発展を遂げつつありました。

昭和46年4月に、かなり突然に学院長を受けよのお話があり、当時の私は憩いの家開院以来の諸問題の解決に懸命の努力をしている時で、大切な看護教育の責任の重大さにたじろぐ思いでした。

とにかくお引き受けしたうえで、学制の変化に応じてこの学院を運営するにあたり、「親切をモットー」とする看護婦を育てることを第一の目標に据え、そのうえに高い学識を兼ね備えた人材を育成することを第二の目標としました。

思うに、「親切」なる徳目は病む人を扱う場所でその実践を最も要求されるのに、世間一般では看護サービスの一部として理解されている実態を見るにつけ、二代真柱様の求められる「親切」は世情一般の接客サービスのものを指しておられるなどは決して考えられないことであり、その「親切」とは、何かをしてあげるのではなく、させていただくでも不十分であり、それは常に相手の立場になって考え、そうせざるを得ないという心の動きに由来するものではなからうか。そこには自己中心を克服し、我欲を捨てた心情に根ざすものとの考えに至るとき、これは大変な自己変革を迫る重いお言葉ではないかと、改めて胸を打たれました。

その後、教職員、学生ともども一体となって、発足初期に

特有な困難、不自由に立ち向かい突き進んだ姿は涙ぐましいことでした。これはひとえに学生全員が、既に天理独特の看護婦教育を受けた向学心に燃える若人達で占められていたからでした。

まもなくこの学院の教育が、関西はもちろん、関東にまで聞こえ、見学者が各所から訪れるようになりました。それらの訪問者がまず驚くのは、物静かな環境にある古い木造校舎で、しかもその建物が隅から隅まで磨き上げられていることでした。このことは、学生諸君の自発的行動に端を発し、ついには学院の修行の一つにまで発展した賜(たまもの)でした。

また、戴帽式の灯は、式直前に学院長をはじめ学院幹部そろって神殿に参拝し、お灯りをお供えし、おつとめをしたものを元火として学生一人ひとりに「親切の心の種」として戴くこととされたこと等、当学院独特な数々の教育が行われました。在職中は、卒業生全員が国試合格はもちろんのこと、特別な事情のある者1~2名を除き、全員がさらなる修行の場を求めて憩いの家の看護に参加して下さったことは、学院の誇りでもありました。

最後に増本喜枝先生について触れさせてください。先生は若くして学院の創設に参加され、以来、教務主任、副学院長の重責を担われた方で、特に親切な看護の深い意味に感動され、それを看護教育のうえに実行に移され、学生から絶大な信頼を得ておられた方です。

この学院は、この先生なしでは語れない存在でした。生涯独身を通され、その高潔な人格は定年後学院を去られた後も卒業生の語りぐさとなりました。

この度この学院の灯りが消されることになったことは、24年の長きにわたり学院長を兼務ながら務めさせていただいた者にとっては堪え難いことでもあります。このことが正しかったか否かは、今後の憩いの家の歴史のなかで明らかになるでしょう。しかし、学院が存在した事実と、高き志を持って学んだ多くの人の美しい心の輝きは、憩いの家の歴史のなかで大きな光となって不滅の輝きを続けること、固く信じています。



「天理看護学院の閉校に思う」

公益財団法人 天理よろづ相談所病院 看護部長
植本 洋美

閉校記念誌の原稿依頼を頂いたのは、1科27期生が「立教176年こどもおちばがえり」の最後の「救護ひのきしん」に励んでいる頃でした。来年からはその役割も天理医療大学の学生さんが引き継ぎます。学院行事が一つひとつ過ぎゆく中で、天理看護学院の閉校（平成26年3月）が刻々と迫ってくるのを実感しています。

私が入学した昭和49年は木造二階建ての校舎で、床や階段が磨き上げられピカピカでした。その「輝き」を保つことを、先輩から伝えられました。また、ご就任の海上美美子先生は、生涯学習の必要性を熱く語られました。卒業後、先生・先輩方のご指導を胸に、看護職を続けることができ心から感謝しております。

平成24年4月、看護部長を拝命し、多くの方々を支えられて二年目を迎えました。今年は教祖130年祭へ向かう三年千日の最初の年で、来年（平成26年2月予定）は新入院棟開院です。平成27年は学院閉校に伴い、卒業生のない厳しい年になりますが、憩の家の看護を提供できる人材（看護ようばく）を育てることが、私達の使命でもあります。基礎教育と卒後教育の連携は重要課題です。憩の家の勤務者はもち

ろん、同窓生のお力もお借りしてこの節を乗り越えたいと思っています。

私達の母校である天理看護学院がなくなることは寂しいことですが、脈々と受け継がれてきた「看護の精神」を宝に、また、一人ひとりの力を発揮しやすい環境を整え、憩の家のますますの発展に寄与して参りたいと思います。

公益財団法人 天理よろづ相談所病院 元副院長兼看護部長 新納 京子

天理看護学院は平成26年3月末を以って閉校されると聞き、感無量のものがあります。

開校から47年間という長きに亘り御尽力くださいました学院長はじめ諸先生方、職員の皆様方に心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

私は幸せなことに天理よろづ相談所病院で2度に亘る勤務の機会を与えていただきました。開院当初の8年間と20年後でした。

初期の看護部は「学業と仕事」を両立させながら進学を目指していた2部生と、やがて2年課程を終えて看護師として勤務に就いた若さ溢れる彼女達と、新病棟の開設に携わったりしながらの多忙な毎日を送りました。笑顔と親切をモットーに、どの職場も明るさに満ちていました。

20年後再び臨床に戻った私は、中間管理者として責任を担っている卒業生が仕事と家庭を見事に両立させながら業務を遂行している姿の立派さに、深い感銘を受けました。そして学院の創立当時の教育理念が引き継がれていることを実感しました。

今日の超高齢少子社会にあって看護師の果たす役割はますます重要になっており、チーム医療におけるキーパーソン役をはじめ施設内外への対応に、職場からも社会からも多大な期待がよせられています。

今後も卒業生の皆様には、47年に亘り脈々と受け継がれてきた教育の成果を臨床や在宅等多方面に発揮されご活躍されることを祈っております。

最後になりましたが、在職中の終始変わらぬご支援に心から厚く御礼申し上げます。

公益財団法人 天理よろづ相談所病院 元看護部長 河合 幸子

昭和42年に天理高等看護学院が創設され次の年には学院一期生50名の臨床実習が各科で開始された。当時は明治生れの看護部長をトップに大正戦中派の看護婦主体の人員構成で看護体制は三交代制であったが日勤帯では午後3時半には准看二部生が全員登校しスタッフは一段と少なくなり又深夜勤は看護婦1名二部生(3~4期)が睡眠時間もそこそこに出勤している状態であった。

夜勤帯は各科多忙になる時間は異なるが二部生は実によく動き仕事を覚え真剣に勤務していた。

看護用木として自分達の役割を学校又寮生活の中で十分に教育を受け素直に学びとり臨床の現場で一生懸命の態度に熱い気持ち伝わってきた。

いま一期生は実習の真っ只中、後に続く後輩も天高二部生活を共に経験し不自由な生活や17才

には重すぎる苦勞を乗り越えて看護学院一期生として奮闘している姿をまのあたりに見てこの用木の子供達が高看進学を早く決め向学心に燃え昼間に勉強出来る幸せを経験して欲しいと願った。また来年(S44年)一期生が卒業を迎える時を看護婦は皆待ちわびていた。新卒看護婦として病棟に配属された日の喜びは今も鮮やかに心に残っている。

天理看護学院同窓会の皆さん学院は平成26年3月を以て閉校となります。このニュースを知らされた時の驚きと悲しさ言いようのない寂しい複雑な思いが去来しました。

昨年(平成23年)天理医療大学が創立され、大学制度の中で看護学科が新設された。今後増々進歩する医学と医療内容のめざましい変化に伴走出来る看護用木の誕生を祈念し天理看護学院の発展的閉校に感謝申したい。

私が校医の任に当たって12年になりますので、47年の歴史のうちの最終4分の1を担当したことになります。

私は天理大学の保健担当もしていますが、比較するわけではありませんが看護学院は将来医療者を目指す学校ですので、保健的な自覚があるのか保健上の問題は少なかったように思います。

しかし昨今の問題としてメンタルの関わる支障は少なからずありました。これも本人の自覚と教員の先生方の助言、助力で何とか乗り切ることが多かったのですが、中には途中で学業断念というケースもあり残念に思うこともありました。

また、病院の健康管理室に在籍ということで子どもおちばがえりの救護に関係しましたが、例年看護学院生は救護の主力として活動していただ

きました。丁度看護二科が廃止となった時期で、今まで救護員の半分は看護師資格を持っていましたが全員非資格者の救護に変わりました。

1年目は見学、2年目は中堅として、3年目はリーダーとして当たっていただくという心づもりをしていましたが、長年の伝統で先輩から後輩への伝達も緊密で、思っていた以上にスムーズに救護が運び毎年ありがたく思いました。

こうしたおちばがえり救護での出来事は懐かしく思い出されます。

今回の閉校で伝統は医療大学に受け継がれますが、卒業生の皆様は学院時代のことを思い出として、また糧として医療に邁進していただくことを信じています。

天理看護学院 元副学院長 **海上 美美子**

47年間に亘る看護基礎教育の歴史(3年課程、2年課程、助産課程)の幕を閉じることになりましたが、当時は全寮制で信仰心も厚く、お互いを認め合う、よい伝統をつくってきました。

この伝統ある天理看護学院の終焉を迎えるにあたって、発展的閉校とはいえ、一抹の寂しさを禁じえません。

学生たちは、課程は異なってもお互いが協力し合い、教職員と繋がり、中には親子や兄弟や姉妹も入学し、歴史を繋いできました。さまざまな学校行事では、教職員、学生の垣根を越えて、本音で語り合ったことが思い出されます。

これからも、学院の伝統と誇りを受け継いでいってほしいのです。

27年間の在職中、私は卒業時の到達目標に

掲げた、自己教育力を育てることを大切にしてきました。それには、自己効力感(自分が有能であるという実感)と自己肯定感(自分は価値があるという実感)がなければ自己評価そして他者評価もできない。

卒業生には、自律した人間になって欲しいと願うからです。自己効力感・自己肯定感をもてないと、仕事をすると、自分に対する批判にも心を開いて耳を傾け、自分の失敗は快く認めると、自分に対する正しい判断もできなくなります。ましてや患者さんや家族を正しく理解することも。自律した人間として誇りを持って仕事に取り組んでほしい。

今、自分が病んで自立できない自分を見て、せめて自律できる自分でありたいと願うからなのです。

天理看護学院 元副学院長 村田 芳子

天理看護学院が誕生した昭和42年は、私がよろづ相談所に入職した年でもあり、同時代を切磋琢磨し、同じ使命を担う者として歩んで参りました。この度の閉校はその歳月を思う時、感慨深いものがあり、寂しさは否めません。

昨今、人々の保健医療、福祉への要求期待は増大するばかりです。専門職として質の高い看護を提供するためには、大学への移行は必然の潮流であったかと思えます。

看護ようほく達は、教祖(おやさま)のみ教えである「修理 肥」を実践する場所としてお与えいただいた憩の家で「笑顔と親切」の教訓をごく自然に身につけ、でき得る限りの最良の看護を施し、患者さんの命に輝きを与え、その使命を果

たし続けた47年間でありました。その精神の源は、学院在学中に学院長はじめ教職員の厳しくも暖かい愛情によって培われたものであると確信しております。

ここに真柱様が「よろづ相談所の歩み」(S61年発刊)に御寄稿下さいました序文の一部を引用させて頂き、皆様の心に明かりを灯していただければ幸いです。「更に向後も、建物が変わり、人が変わり各称が或いは変わっても、天理よろづ相談所が存在する限り、医療機関である身上部も、悩みの相談機関である事情部も、又、世話部も共に相携えて、開設の趣旨に基かねばならぬのは自明である」

天理看護学院 前副学院長 遊田 伊玖子

天理看護学院の閉校は二科1期生として淋しく感慨深いものがあります。

しかし時代は流れ、開校から46年が経過、1期生は半世紀を超える年齢となり、その間看護用木としての多くの業績を残し、既に看護の道を終えられた方も多いことでしょう。

天理看護学院の閉校に合わせて平成24年には天理医療大学の開校、今後の医療を担う医療用木の育成と変化しています。将来を見据えて二科、一科、大学へとそれぞれの移行期に並行教育の中で、看護ようほくの伝統は未来へと確実に受け継がれることを願っております。

学生時代を思い起こせば、昭和42年4月学院開設式での二代真柱様のお言葉を胸に、期待と不安を抱き学院生活が始まりました。1期生50名のうち45名は天理准看護養成所卒業生でした。養成所において学業とおみちの精神を身につけ、協調性と役割意識を持った行動が出来て

いました。養成所で培われた看護ようほくの精神は学院においても発揮、クラス全体の力となり1期生としての役割を果たし、後輩に受け継がれた事と思っております。

今は亡き木造校舎は、かつて奈良師範学校であった由緒ある校舎を補修された建物。

歩けば軋み、雨風の影響も受けてきましたが、まっすぐ伸びた風情ある廊下、丸くなった階段の手すりの感覚は心地よく、校舎に沈む夕日の輝きは美しく、辛い心を癒してくれました。思い出深い校舎も30年の月日で老朽化が激しく、平成9年新校舎建設に当たり奥村総長(前学院長)は由緒ある校舎の保存に奔走していただき、写真、絵画、校舎の一部をオブジェとして新校舎の玄関ロビーに飾られ、木造校舎を知る卒業生には宝物となりました。

奥村総長の御苦勞と学生への温かい思いやりに感謝申し上げます。

天理看護学院 元第二看護学科教務主任 高石 理恵子

昭和50年5月から平成17年、第二看護学科の閉科までの長い年月を天理看護学院で看護基礎教育に携わらせて頂きました。

今でも、卒業生に出会うと一瞬にして学生時代に戻り、楽しかったことやしんどかったことの話で盛り上がることもしばしばです。

臨地実習に出る前の背部清拭(技術テスト)を思い出します。最初は「できた、できない」に集中して取り組み、2、3回位繰り返し実施すれば、「合格」が出せるまでになります。そのような中、合格したA学生が「もう1回見て下さい」と近寄ってきました。その熱心さに打たれて「じゃ、もう1回やろう」と。こうなると実施者、評価者の枠を超えて看護師役の学生と患者役の学生そして私が一体になって、どうすれば患者さんにとって気持ち

の良い元気を出してもらえる清拭になるかを求めて取り組んでいたように思います。

簡単に妥協しないで追究しようとする「どこまでも相手に寄り添うところ」が「看護」に繋がっていくことを私に気づかせてくれた大きな教育経験の一つです。

教員として学生に看護を教え、育ててきたというよりも、看護を「学ぶ学生」と「私」とのいろいろな関わりの中、自分を磨くことや自らの仕事の「標識(しるし)を高くする」こと、人を大事にすることなどを共に学んでいたのです。

看護よふほくに導き育ててくれた天理看護学院に「ばんざい!」

天理看護学院 元第二看護学科教務主任 柳瀬 由利子

二科の閉科から9年。昭和42年から続いた天理看護学院が無事その役目を終え、平成26年3月に閉校との事。誠に感慨深い思いです。

私は二科一期生としてお育て頂き、一科開設時は学院の専任教員でした。夜遅く迄準備に追われた日々を懐く思い出します。学院30年史で柏原先生が述べられたように、一科開設に当っては諸先生、諸先輩の深い親心とご苦勞がありました。結果、一科と二科は仲睦く寄りそい、競い合い、学び「笑顔と親切、底なしの親切」の心を持って巣立って行きました。今、卒業生各自(おのおの)が憩の家の看護を支え、又、各地で活躍して下さる姿は、同窓生として誇りに思います。

時の流れと共に学舎(まなびや)や教育のあり

方は変わります。しかし、私達が育てられたように、親里(おやさと)でこそ身につく看護師の信条教育「教祖(おやさま)の手足となる看護用木」を育てる思いや情熱は消えてはなりません。行事ある都度に皆で歌った「おうた」やまさかやいばらぐろもがけみちも……これがたしかなほんみちである。このお詞(ことば)にどれだけ励まされた事でしょう。学院の看護用木を育てる心、灯(おあかり)が、天理医療大学看護学科に受け継がれ、ほんみちを歩み続けて頂けると信じます。学院の歴史すべてに感謝の花束をそえて、ありがとうございました。関係職員の皆さま長い間お疲れさまでした。

天理看護学院 元実習責任者 山本 和恵

47年に亘り多くの看護ようほくを育成されました。

私が67病棟から異動になったのは、昭和55年、それから15年お世話になりました。

臨床から教育現場への環境の変化にはしばらくは馴染めませんでした。しかし、学生の勉学の姿や、増本先生、海上先生、諸先生方の学生に対する誠実で真剣な関わり、情熱を感じるにつけ自分のすることがある。頑張ろうと思い始めました。

教員会では自分の臨床経験の未熟さを気づかされ、学生にどう伝えていけばよいのか悩みました。学院では単なる職業教育ではない教育をされ、私自信育てて頂きました。先生方は学院全体が良い教育環境であるように、校舎の隅々まで注意深く見られており、学習教材の

選び方、扱い方、学習者の生活態度すべて臨床看護の基礎になる部分を熱心に教育しておられました。何もわからない私にも丁寧に教えて頂きました。

私も教材担当、講義、実習を経験し第一看護学科設立準備もさせて頂きました。一科の学生は二科の学生から学校生活、看護の経験を学ぶ機会となり、両科仲良く学んでいる姿は本当に嬉しかったです。

良心を鍛え、大切なもの(命)を大切に扱う心、技を伝えることが微力ながらお手伝いできたことを誇りに思います。私にとっても学院は第2の母校です。学びを受け継いでいきたいと思います。ありがとうございました。

天理看護学院 元事務責任者 柘植 恭平

私が憩の家に奉職して最初に配属されたのは、後に天理医学技術学校と改称された、天理衛生検査技師学校でした。開校を間近にした昭和42年春まだ浅い頃で、以来、長年に亘り教育事務に携わることになりました。

天理看護学院へ異動になったのは、三年制課程が併設された昭和60年の新学期早々のことでした。いささか不安はあったものの、何かしら誇らしげに勇んで着任しました。先生方にあたたかく迎えられましたが、その教育に注ぐ情熱の激しさや妥協を許さぬ厳しさに、凡庸な私は畏怖の念を抱かざるを得ませんでした。

不案内な環境のなか、試行錯誤を重ねつつ、ひたすら走り続けました。時には、古色蒼然たる

校舎を徘徊し、気を鎮め心を修め、やがて気付けば、学院の人となっていました。日ごと成長する学生の逞しさには、随分励まされました。あの神々しい戴帽式では、一人ひとりから、感動と勇気を与えられました。水上安全法の講義の本島キャンプは、準備から後始末まで心を寄せ合った教職員と学生の絆を強め、信頼はますます高まりました。

学院は、私の航路を指針し、接岸に導いてくれました。八十路のいま、順風満帆です。

学院よ、ありがとう。我が心に永遠たれ!

卒業された皆様のご健勝とご多幸を祈念すると共に、ご指導ご鞭撻いただいた方々に、心よりお礼申し上げます。

一笑顔の旅立ち

おやさとちばの学び舎(まなびや)に

あつき思いのこの修養(おさめ)

いく年月(としつき)も忘れまじ

春 大和路はさくら花

青春のいぶきときめきて

夏 おちば帰りの灯籠と

笛の音(ね)なつかしひのきしん

秋 読書の窓辺山の辺の

柿、銀杏いろどりで

青垣山に月あがる

冬きたりなば身をしめて

菅平スキーと国試あり

今日巣立ち行く愛(いと)し子よ

友の情(なさけ)と師の諫(いさ)め

きづなの糸を強くして

親の思いを大切に

癒しの心さわやかに

看護の微笑み(ほほえ)美しく

華(はな)を咲かせてよろこびを

笑顔と親切永久(とこしえ)に!

花の第二よろこび寮

参拝の朝、凜(りん)とした 祈りの尊さを学ぶ

寮内の そっと気配り思いやり

そこに師 友の 情(こころ)あり

ふるさとの 香りとどいて 父母の恩

実習の 患者の微笑(ほほえみ) 思い出し

今宵(こよい)やすらぎ ねむりつく

常々の もとめて あまえた気持から

言葉をあたえ 笑顔にあたえ 小さいながら力をあたえ

欲しいと もとめる ことよりも

あたえて よろこぶ 親ごころ 知る

よき友の

「はい」という 素直さを見て わがまを反省し
「わたしがします」という

ひのきしんの 心 芽生える

すべてが たすけあい はげましあつて 規律あり

信仰の場を あたえてくれた 第二よろこび寮

人生またとない学寮生活 今 巣立つ

明日からは病(や)む人の為

癒(いや)すこと 護(まも)ること そして学ぶこと

みがけ 勇(いさ)め ほがらかに!!

卒業お芽出とう

愛しき看護学生のみなさんへ

天理看護学院 元事務責任者 米田 耕三

私の看護学院の卒業式が憩の家の7階講堂で開催された折の事です。

私は司会と言う大役を与えられました。

式も順調に進んで祝電披露になりました。ところ、私は大失態をしてしまいました。それは、私の前任者の桑山信之氏からの祝電でした。彼は急性白血病で憩の家に入院中でした。私は彼の祝電披露の途中で感極まりまして絶句し、言葉が出ませんでした。会場のご父兄やご来賓の皆様が一斉に私に注目し、私は戸惑いましたが何とか続ける事が出来ました。

桑山氏はその後お出直しされました。

式が終って、私は中田世話部長にお詫びを申しますと「感涙していたなー」と言われました。お側で当時学院長の奥村先生にも笑われました。教務部長の海上先生にもお詫びしましたが「あなたらしくて良いのではないか」と言われました。私にはなさけなく反省ばかりでした事を思い出しました。

今年度で看護学院からの卒業生は最後になりますが、看護・医療ようばくとして天理医療大学が開校され心からお祝い申し上げます。

天理看護学院 元事務責任者 福井 清三

私が天理看護学院に異動になった経緯は当時の学院長で後の病院長、現在は奥村秀弘総長が当時の武谷比古根事務長に誰か学院に回してくれとのことで私に話が来たと聞いている。これが奥村総長との出会いで現在に至っている。私が天理看護学院に就任した時は42歳で前任者は一回りも上の先輩であった。学生たちはその先輩と比べて若い私を兄と慕ってくれた。また、先生方や職員とも馬が合って3年間は本当に有意義で楽しかった。学生たちと土曜日の午後からソフトボールで遊び、それらがいつの間にかクラブとなり市民大会にまで参加するほど熱心なチームとなった。奥村学院長がそんな学生たちに飲み物などを振る舞われ、たまにバットを持って打席に立たれた時もあった。そのメンバーたちとは今年に1回バーベキューで親睦を図っている。

就任後間もなくしてカリキュラムの変更があり海上副学院長等と遅くまで書類づくりに励んでいたことが

思い出される。県庁の医務課に提出した書類の不備を指摘され何度も海上先生と日参したことは今でも忘れることができない。夕食も取れないときなどは、管理人の實平さん夫婦が帰りに寄って下さいと食事やお茶を用意していただいていた時などは本当に有難く今でも感謝の気持ちでいっぱいです。そんな實平さん夫婦は故郷のブラジルに帰られて元気に過ごされている。一昨年学院の教職員や同窓会などでお世話になった實平さん夫婦を天理に招待すべくカンパで航空券を送って同窓会を開催した。多くの関係者が集まり實平さんのご主人は来られなかったが楽しいひと時が送れた。

このような天理看護学院が時代の流れとはいえ閉校になるのがとても寂しい気もするが、天理看護学院の「人に尽くすことを自らの喜びとする」精神は天理医療大学へと引き継がれることを確信する。我々関係者一同は看護師育成のため全力で応援したい。

天理看護学院 元事務責任者 泰田 良三

私が天理看護学院で勤務させていただいたのは、平成十三年四月から十九年五月までの約6年間でした。第一看護学科十五期生から十八期生まで、第二看護学科三十四期生から最後の期生三十七期生まで、さらに第二看護学科閉科と助産学科新設に伴い看護学科十九期生から二十三期生まで、また助産学科一期生から三期生まで、事務方の私はそれほど多く学生達と関わりがあったわけではありませんが、入学式、戴帽式、卒業式と様々な思い出があります。また冬季体育実習や夏季教育実習、学院祭など澁淵とした学生達の姿をふっと思い出すことが少なからずあります。

その中でも最も印象に残っていることは学生達の真剣な祈りの姿です。教会本部神殿での参拝の姿です。朝、学校参拝の始まる前、授業や臨床実習の後、ただ一人の時もグループの時もありましたが、皆真剣で懸命ともいえる姿や態度を見るにつけ天理看護学院の礎は看護教育や学力だけではなく、学生一人ひとりが患者さんに寄り添いそれが真剣な祈りに結びついてこそだと強く感じたのは私一人だけではないと思います。開設以来半世紀にわたりこのような多くの学生達を大所高所から支え、励まし、導かれた歴代の天理よろづ相談所理事長をはじめ世話部長、病院長、学院長にあらためて敬意を表する次第です。

天理看護学院 元事務責任者 中 淳伍

私は天理看護学院の勤務は11か月です。在職期間の最後でした。教育現場で事務業務となるのですが、毎日新しい経験で今までの体験の通用しないことが多く、心が揺れる中、前向きに燃えるものがありました。それは学生がよく勉強をしてまわっていることでした。「看護師国家試験合格」という全員同じ目標があり、教祖様の看護用木になる信条教育であります。山中学院長のもと教職員の先生方の指導・教育の熱心さには感動を覚えています。

教祖のもとで元気に学ぶこと等を感謝する朝の参拝が実施されていますが、天理教管内学校で学んでいない私はその「朝勤め」が新鮮で信仰の原点に戻れました。退職後自分で決めた日数で参拝を続けています。

多くのすばらしい看護師を輩出した天理看護

学院がこのまま存続してほしい気持ちがあり、新聞紙上等で天理看護学院閉校、大学へ受け継がれることを知ったときは心の中に複雑なものを覚えました。何故か古代ギリシャの哲学者ヘラクレイトスの言葉「万物は流転する」が頭に浮かんだのです。歴史を振り返るとき、制度、組織等は変遷しています。

「昔はよかった」という考えがいっぱいですが「社会の変化について行かねば」と思い直しました。

今後大学へ理念や実績が踏襲され「大きな看護用木」が育って行くことを願っています。

天理看護学院 元非常勤講師 前谷 俊三

昭和41年4月、天理憩の家が新設され、私は外科医として赴任しました。少し遅れて天理看護学院が開校し、病院の診療の間に学院での講義を担当することになりました。それから四十年余りの歳月が流れた今、心身の老化は否めず、物忘れに悩まされています。ただ、若かりし頃の学院での思い出のほうに断片的にせよ、最近の記憶よりも鮮明に脳裏に残っています。

それは幽門狭窄で嘔吐が続くとどのような結果を招くかという講義のときでした。私が胃液のことをガストリックジュースと言うと、静かだった教室に一瞬ざわめきが生じました。美味しい果汁と汚い吐物とが何故同じジュースと呼ばれるのかという当然といえば当然の疑問です。咄嗟の答として私は両方とも生物から出るカリウムの多い液体であり、ドイツ語でも両者はザフトという

共通の言葉で呼ばれると答えました。しかし後から考えれば、これはキスの慣習と同じく日本と欧米との文化の違いに根ざすものと考えてに至りました。同時に学生の感性の鋭さに感銘を受けた次第です。

患者の看護に当たっては、科学的知識が不可欠です。しかしそれだけでは十分とはいえません。特に患者中心の医療の時代においては、患者がどのような医療を求めているかを察知する感性を磨くことを決して疎かにすべきではありません。

天理看護学院 元非常勤講師 仁尾 雅信

昭和56年から学院で「国語」の授業を担当しました。私は平安朝文学が専門ですので、所謂「古典」を教えました。学生の皆さんが一番厭な時間だったと思いますが、情操教育の一番の基幹は古典にあるとの信念で無茶な授業をしました。四月五月は皆さんほかーんとした目をしての受講でしたが、六月半ば頃からうってかわってその目が輝いてきます(勿論、一部の学生には大切な栄養源の睡眠時間)。この急激な目の変化は大学の学生にはないので、私のひそやかな楽しみでした。文法などよりも古文の流れの面白さ、解釈の多様さの面白さ、作者の意図を探ることの面白さ、こういうことに重点を置いたと思います。

十一月は課外授業の明日香方面の散策。長谷寺では特別にお願いして、方形の磐石の上に立った十一面観音像の足下を拝観しました。また、大正大学の学生修行僧に解説をお願いすると、若い女学生相手ですので、案の定生き生きと多くのことを語ってくれました。もう一つの楽しみは、学生さん達手作りの昼食弁当。炊本弁当を手直したもので、実に「愛」のスパイスが効いていました。私のアルバムにはこの課外授業の写真が貼ってあります。写っているみなさんも、もうそれなりのお年なのでしょう。

学院が閉校になるとのことですが、内も外も装いを新たにしての再出発、おめでたいことです。

天理看護学院 元非常勤講師 宮田 元

はじめて天理看護学院の講義をもたせていただいた時、校舎はまだ古い木造であった。磨き上げられた階段を上って二階の教室に入るとき、いつも身の引き締まる快い緊張感を感じたものであった。私は最初宗教学の授業を担当し、しばらくして宗教学の科目が天理教学に替わった。教室では、最初と最後に礼の挨拶があり、大変気持ちのよかったことを覚えている。当時、私は天理大学の教壇に立っていたが、大学生と比べて明るく熱意のある皆さんの態度にほれほれしたものである。その意味では、私は大変楽しく授業をさせていただいたと今も感謝している。ただ少し困ったのは試験のときである。教えたことがどれだけ正しく理解されているのか、教え方はよかつ

たのか、答案をみては採点に苦労したこともあった。皆さんには看護の専門科目の国家試験が待ち受けているとも聞いていたが、常に熱心に忙しく実習や試験に取り組む姿には敬意を表していた。

新校舎が出来上がってからは、入学式、卒業式にもよく参列させていただいた。戴帽式では厳かななかにも感動と喜びの一齣を見せていただいたこともよい思い出となっている。

47年間にわたって、明るくやさしい数多くの看護ようほくを輩出してきた天理看護学院が、今回新しく天理医療大学へと生まれかわる中で、長年培われた天理看護学院のよい伝統が末永く受け継がれていくことを心から願ってやまない。(25. 10. 7記)

私の人生の恩人であるお二人の先生への感謝の念と共に天理看護学院(以下学院)の思い出を振り返る。

私は、昭和47年から39年間の憩の家在職中、身上部、事情部にも配属されたが、27年間は世話部に在籍した。

世話部福祉相談員の勤務中は、医療ようほく養成には毎夏全国で行われていた看護師予備試験を手伝う程度であったが、平成6年ごろから学院の運営業務にも携わった。

中田武彦世話部長(当時)から暖かいご教導を賜る中で、随伴して学院と寮の行事等にも数多く出席した。

入学・入寮式で予備試験出張時に出会った新入生を見つけたよるこびや戴帽式、卒業式での大きな感動を再三与えて頂いた。

しかし留年、退学となった扶育生に役目として

会うときの、悲しく残念な思いも何度か体験した。

平成元年、私の理の親でもある社会福祉学界の泰斗大久保昭教天理大学長(当時)の命を受けて、畏れ多いと思いつつ学院での講義を後継させて頂いた。

毎年のように制度改革が行われた医療福祉の激動・激変の時代にあって、講義に苦慮することが多かったが、退職までの23年間、何とか役目を果たせたのは、教員諸先生方と賢明な学院生諸子のお蔭と感謝している。

憩の家開設の際、天理准看護婦養成所生徒が「憩の家に魂を入れるのは私たちだ」との気概をもって邁進していたと聞く。この看護ようほくの熱き想いが天理医療大学に連綿と受け継がれ、新入院棟の完成を吉祥として憩の家の弥栄を祈る。

天理看護学院 非常勤講師 井筒 正孝

以前私は、天理教の月刊誌『みちのとも』に、「ナース一年生諸君!」という標題のエッセーを載せました。次のような書き出しです。

「年に数回、若くて健康で、それゆえに美しい娘さんたちに授業する光栄に浴している。学校の名は天理看護学院。いまは立派な新しい校舎になったが、古い木造校舎のときも廊下は鏡のように光っていた。授業態度も抜群だ」。

私は中学でも高校でも大学でも教壇に立った経験がありますが、あの廊下の輝きと生徒のマナーの良さは、本当に格別でした。

試験には必ず「あなたが患者さんから学んだこと」という問題を加えました。以下、その答案から二つほど……。

まず、実習で耳にした、目の不自由な患者さんの言葉。

「以前入院していた病院では、薬を渡すとき、顔も見ずに台の上に置くだけでした。ここ(憩の家)では、飲みやすいように切り口をつけて渡してくれます。その心遣いがとてもうれしい」

次に、出産に立ち会った生徒は、
「おぎゃあと誕生の瞬間、感動して涙が出ました。なにがなし母に感謝をしたくて、その夜、家に電話をしました。お母さん、ありがとう。言葉が詰まって声が出ませんでした。」

「医の倫理」を担当したのですが、教えられたのは私の方でした。得難い体験でした。まったく感謝しかありません。

天理看護学院 非常勤講師 澤井 義次

天理看護学院では創設以来、これまで長年にわたって、数多くの優れた看護よふほくを輩出してこられました。天理よろづ相談所「憩の家」病院は、日本を代表する病院の一つとして、各方面から高い評価を得ていますが、そうした社会的な評価を病院の現場で土台から支えてきたのは、天理看護学院に学んだ数多くの看護よふほく、検査技師であったと言えるでしょう。

その天理看護学院において、私も10年ほど前から、天理大学宗教学科研究室の中島秀夫先生と宮田元先生の後を受けて、「天理教学」の講義を担当する機会を与えていただきました。講義を担当させていただくようになって、私は天理看護学院の学生のみなさんの真摯な受講態度

にとっても感銘を受けました。私の講義では終始、この道の信仰において、教えの台といわれる「かしの・かりもの」の教理を中心として、おたすけ話も織り交ぜて、いまここに生きていることの根源的な意味を講義させていただきました。

学生のみなさんは熱心に聴講してくれました。学生のみなさんの応答からも、この道の教えの素晴らしさ、信仰の有難さをたとえ少しでも深く学んでもらえたのでは、と思っております。天理看護学院が平成26年3月に閉校されるとのことですが、たとえ閉校されたとしても、これまで蓄積された学院の伝統は、今後とも世代を越えて語り継がれていくことでしょう。

天理看護学院 非常勤講師 藤田 良一

昭和42年の開院以来、47年間にわたり、高い資質をもった素晴らしい学生さん達を受け入れ、生命を守る第一線の看護師を多く養成し、社会に送り出してこられた学院にたいし敬意を表したいと存じます。

天理看護学院で保健体育の非常勤講師としてお世話になって10年。微力な私がお役に立てた事を嬉しく思っております。

多くの学生さん達は親元を離れ、おちばでの看護用木を旨とし、堅い自覚と高い知識の習得に全力を注ぎ、資格獲得に邁進されている姿を見る時、教える側の私も毎回緊張しながら授業に取り組んでまいりました。体育活動を通して目的をチーム・ワークの育成に力を置きながら学生さんの中には運動の得意、不得意な人もおりますの

で、不得意な人にはゲームの雰囲気盛り上げる役割をしてもらい、得意な人にはゲームを引っぱりお互い楽しい授業に仕上げていく努力をしました。

授業で身につけたチーム・ワークを医療現場で役立てばこの上ない喜びであります。ストレスの多い職場に於いても自己の健康管理が必要であり、余暇の時間を利用して運動に親しみ勤務意欲の再生産に結びつけてもらいたいと思っております。

天理看護学院の閉院は大変残念であります。今迄築き上げてこられた実績と精神は必ず末永く引きつがれて行かろうと強く信じております。卒業生諸君の今後共の活躍と幸多き事を念じつつ感謝の一文といたします。

天理看護学院 非常勤講師 畠山 雅行

昭和42年に創設された貴院が、平成26年3月に閉校されます。ここに開校ご準備から今日まで関係されました皆様のご苦勞に心より敬意を表します。平成14年度から25年まで「公衆衛生学」を担当させていただきました。10年を超える講義を実施し500人以上の看護学生さんたちが看護のようばくと育たれました。すばらしいです。私も「人を教え育てる事」を学ばせていただきました。卒業生は各地で活躍されたいへん嬉しく思います。

卒業生の方がこの記念誌を読まれると思いますので、講義を思い出してください。

さて、「公衆衛生学」とは何でしたか?覚えていますか。2つあります。①健康増進と②感染症対策です。違う表現で言うところ「危機管理」です。

「終了テスト」は以下のようなものでした。

元気に試験を受けましょう。1)今年の公衆衛生上(医療・福祉・産業保健を含む)の事件について意見を述べよ。2)グループ発表した内容の1番

重要なポイントを簡潔に述べよ。3)グループ発表の中から最も良かったテーマを1つ選び、その理由を述べよ。4)グループで実施した健康「final」プランについて実施率と努力したポイントを述べよ。5)と6)省略7)奈良に結核を広めない会 ATAC in NARA (感染症対策:奈良医療センターで毎月開催)に参加したい人 8)エイズ文化フォーラム(横浜県民ホール:平成25年8月2日3日4日開催)(京都は同志社大学良心館:平成25年10月5日6日開催)に参加したい人9)公衆衛生の講義に対する感想・印象に残った事を書いてください。お疲れさまです。

発表1位と健康プラン1位グループは表彰があります。

懐かしいですね。今も7)8)は公衆衛生の実践活動として続いています。ご関心があればご参加してください。

最後に、伝統を次に引き継がれて、皆様の今後のますますのご活躍・ご発展をお祈りいたします。

天理看護学院 非常勤講師 松尾 収二

20数年間の長きにわたり非常勤講師として臨床検査の留意点、データの読み方等を講義させて頂きました。微力ながら、臨床検査を看護に活用して欲しいこと、鵜呑みではなく考える看護を心がけて欲しいこと、等を訴えながら講義を続けたつもりです。1年生への講義でしたので、教えるのに苦勞しましたが、人に伝えることの難しさを知り、私自身が勉強になりました。

私が、看護学院のみなさんともっとも身近に接したのは、平成24年4月の医療大学の開学以降、同じ学舎でともに過ごした2年間でした。学生委員長をつとめていましたので、大学生に、いわゆる天理の良さを伝えるのに苦心しました。しかし、伝統ある看護学院の学生の皆さん

が仲良くされ、挨拶や掃除もきちんとされていたので、大学生もそれを手本とするよう指導しました。新入生の歓迎会をやって頂き、また3校(大学、学院、医技校)合同の天医祭も牽引して頂き、大変、嬉しく感謝致しております。大学生たちが看護学院の学生さんを“先輩”と呼んでいたことが、皆さんに育てて頂いた何よりの証だと感じました。

大学になっても天理看護学院の伝統は引き継いでいきたいと存じます。そして、卒業生のみなさま方が、天理医療大学を母校と思って頂けるよう、一生懸命つとめたいと存じます。先輩として、今後ご助言ご指導、よろしくお祈り申し上げます。

天理看護学院 非常勤講師 高橋 律子

この度、天理看護学院が平成26年3月の卒業生をもって閉校されますこと、正直申し上げて大変残念でなりません。私も奈良県助産師会も、助産科の開設当初より助産教育に幾分関わらせて頂きました。貴校の学生は助産師職へのモチベーションも高く、卒業生の奈良県下への就職率、定着率はともに他校と比較して多いと聞いておりました。卒業生の何人かは奈良県下の臨床現場に身を置きつつ、当会の一員として助産師職能の向上に力を貸して頂いております。又会運営についてこれまで教務の先生方には、様々な側面での一方ならぬご協力を頂きましたこと、厚くお礼を申し上げます。

天理看護学院の大きな特徴としては宗教的

バックボーンがあります。そのことは教育理念にも反映され、更に教務の先生方のパーソナリティと合わさって大変ヒューマンで温かな助産師教育をなさっておられました。

社会全体が地殻変動のように大きく変化しつつある現代にあつて、新たな家族の始まりに深くかかわる助産師の役割は、今後一層重要となっていくものと思われれます。天理看護学院で学生たちの中に醸成された助産ケアの核の部分は、母と子の二つのいのちの守り手としてだけでなく、「人が人たる所以」である対象の「思いや感じる心」の部分に目を向ける助産師として育っていくものと確信致します。

天理看護学院 非常勤講師 久保 永子

『看護師になる』という自覚と誇りを育てた天理看護学院

「この病院の看護師さんは、本当にやさしい人が多い。やっぱり宗教が根底にあるからなのかな…」これは、天理よろづ相談所病院の外来を訪れたり入院したことのある患者さん達からよく聞く言葉です。私自身が緊急手術で入院した時、妹が癌を患って長期入院した時に、そんな患者さん達の言葉を実感しました。多くの看護師さんが多忙な業務の中でも、優しさや思いやりを持って接してくれました。本来、誰もが有しているはずのこの資質ですが、効率だけを重視する現代社会においては、この資質が評価されることは少なく、埋もれたままにしてしまっている人も多いはずで

私が看護学院で「人間発達学」の授業を担当したのは、10年ほどでした。例年、授業が始まった頃の

学生達は、青年期に特有の大人を小馬鹿にしたような態度や斜に構えた態度で授業を受けており、他者へのやさしさや謙虚さなどはどこ吹く風といった風情でした。

しかし、実習に出て臨床現場を知るようになると、学生達が患者さんだけでなく、他者に対しても何と誠実な態度を取るようになることか、その変貌ぶりには驚くばかりでした。天理看護学院で過ごす日々と、病院で働く先輩達の姿を目の当たりにすることが、学生達の『看護師になる』ことへの自覚と誇りを育てたのでしょう。

すでに看護師として立派に働いている学生達の姿を見る時、「人間発達学の授業は、学生達の『看護師になる』という思いを育てることの一端を担えたのだろうか」、看護学院の閉校を目前にしてそんなことを考えました。

天理看護学院 元第二よこび寮主任 **中村 友美**

退職後8年が過ぎ今や八十路を歩む日々、過ぎ越し方を辿る追憶の散歩道で、楽しみ乍ら心の糧を拾う中、第二よこび寮の追憶は、それ迄に経験したことのない意義深さを感じ、感慨無量の16年でした。それは正に信仰の力と信仰の大切さの体験を通して学び、尚且つ自らの人生を大きく拓けることが出来た大切な機会だったからです。又我が生きるも我が為すも我が力ならずと心の底から自覚出来た時には、自ずと適切な人々のお与えがあり、各人各様の働きに満ちた和気藹々の日々に連なる光景を目の当たりに出来た喜びは、今尚貴重な宝として蘇るのです。しかし乍ら此処に至らせて頂いたのは、お地場に住わせて頂き、深い信仰に基づいた方々のお導きとお支えがあったからで、特に直属の長で在られた、今は亡き中田武彦先生のご懇篤なるご支援は筆舌に尽し難く、そのご

恩は決して忘れることは出来ません。中でも寮構内の植樹から犬猫の飼育に及ぶ自然環境へのご配慮は、時折々の花を愛で、鶯や蛭や蛙までもが寄り来る命の園となり、一方大切な職員についてのご配慮も献身的な行き届いた方々の選任にあずかり、これを支えに大切な定員280名の20才前後の子女との寮生活と看護用木育成の一端に携われたことに改めて感謝を捧げ、看護用木各位の末長い輝きとご活躍を心よりお祈りいたしたいと存じます。

天理看護学院 元よこび寮主任 **横山 富美子**

私は、21期生入学の年に、よこび寮主任に着任しました。看護の臨床経験は有りましたが、学生の生活面を支える任務は初めての事で戸惑うばかりでした。心身を病める方々へのお世話取りは看護者も心身共に健康でなくてはならないと常日頃から心しておりましたので、学生にも自らの生活をしっかりと築き相手を思いやる心を持って欲しいと諭した様に思います。

着任した一年間は看学生の始業前の朝の本部参拝に同行しました。半年程過ぎたある日、不注意で階段を踏み外して捻挫をしてしまいました。いっしょに居た学生がとても心配して手を差し伸べて下さいました。怪我は大事に至りませ

んでしたが、相手を思いやる心を養って下さっていると嬉しく思いました。

寮生活では不自由な事が有ったでしょうが、友人同志の助け合いの中でチームワークの大切さを学び得た事でしょう。医療・看護はチームワークが大切です。寮生活の中で得た人間性と学院で身に着けた知識・技術をしっかり実践に生かしておられる中で、これからも立派な看護用木として活躍の場を広げ、より成長し続ける事を祈念申し上げます。

天理看護学院 別所よろこび寮主任 瓶子 時子

昭和42年天理高等看護学院第二看護学科が開校され、昭和60年に第一科看護学が開校。平成21年に現在の新しい寮に移行するとともに名称も別所よろこび寮となり、閉校までの寮生総合計2,656名の学生が寮から巣立ったことになる。

私は平成21年9月20日に新しく移設された別所よろこび寮で初めて寮生と関わらせていただき、正直人数の多さに圧倒される日々でした。全てが個室になり、旧よろこび寮での生活パターンが抜けきらない学生は、新しい寮則がなかなか受け入れられず、たいして難しくもない、厳しくもない寮則、当たり前のことが当たり前に出ない学生に唖然とする日々でした。しかし言わなければ解ってもらえないのであれば言うほかに、心を鬼にして言い続けてきました。漸く4年目にして8割近

くはルールが守れるようになってきたと思われる。人間は忘れることもある、間違ふこともあるのは誰しも分かっているが、それらを少しでも少なくするには自分はどうしなければいけないのか、決められたルールをしっかりと身につけないと同じ間違いを何回も起こしてしまうことになる。医療の現場で【うっかり】は許されることではない。日々の生活が全ての基本となるので、寮生活の中で、当たり前なのが当たり前のように生活を送ること、己に厳しく、目配り、気配り、思いやりのできる医療従事者に成長してくれることを願って寮生と関わって来ました。これから社会に出て、医療の現場でそれぞれご活躍のことと思います。厳しかった寮生活かもしれませんが、何かの時に思いだして頂き、お役に立つと、とても嬉しく思います。

天理看護学院 看護学科教務主任 大田 容子

天理看護学院が47年の歴史に幕を閉じることとなりました。昭和42年開設以来、二代真柱様の設立の理念を旨に、先人の先生方の看護よふほく育成への強い信念があつての歴史であつたと感じざるを得ません。

私は29年間の長きに渡り、母校で看護教育に携わらせて頂きました。2年課程、3年課程両課程での運営、4度のカリキュラム改正、学院初めての戴帽式、木造から新校舎への引っ越し、数々の学校行事、3年課程の定員増、全寮制の廃止など、思い出はつきません。

顧みて、いつも根底に恩師より受けた「技」へのこだわり、おやさまの心で患者に寄り添う姿勢、人間性豊かに成長しようとする向上心を大切にして、個々の学生と向き合ってきたように思います。教鞭をとる

傍らで困難に出会ったときは真摯に向き合えば必ず道は開けることを信じ、教職員と共に邁進してまいりました。

卒業時の成長した姿や多くの卒業生たちが「看護に向き合う基本的な姿勢を教わった」と語ってくれたことは大変励みになりました。純真な気持ちで入学してきた学生達がどんな看護の色に染まるのかを考えると、教育の大切さを痛感したものです。微力ながら、閉校を迎えるまで勤めることができましたのも、親神様の御守護を感じずにはいられません。そして、当学院の看護教育を支えご協力頂いた多くの関係者の皆様、ともに歩んでくれた学生の皆様に心から感謝申し上げます。

卒業生の皆様が天理看護学院の卒業生であることに誇りと自信をもって、それぞれの持ち場、立場で大きく羽ばたかれますことを心からお祈り申し上げます。

閉校を迎えた今、感謝の気持ちでいっぱい
です。

助産学科立ち上げから閉校まで尊い役割を
与えていただき、神様にお礼を申し上げる日々
でした。学生たちは志が高く常に祈りと感謝の
気持ちを持って勉学に励み、分娩実習に臨む
時には、神殿に向かい手を合わせる姿に「をび
やゆるし」を道あけとされた、おやさまの手足と
しておつとめさせていただき助産師の誕生に身の
引き締まる思いでした。

助産学のカリキュラムも時代と共に変わりつ
つありますが、他校にはない「助産と宗教」の
科目を掲げて「助産師ようほく」を育てさせてい
ただいたこと、行事では「いいお産の日-てん
り」を地域の皆さまと共に創り上げたことなど、
この上ない喜びを感じています。

この間、入学・卒業した助産学生は77名で、

1名の落後者もなく羽ばたいてくれました。

先生方や実習指導者ほか、多くの方々から
親身になって育てていただき、助産師としての
知識・技術以上に、人としての心を育てていた
だいたように思います。私も本学院卒業生であ
り、恩師から学んだ厳しくも温かい看護の心、
そして看護学科から併せて26年間の教員生
活に於いて、上司や同僚だけでなく学生の皆
さんから育ててもらった様々な出来事は、信仰
心で養われた愛情を肌で感じとることができ、
全てが宝物であることに改めて感謝申し上げ
ます。そして、この素晴らしい天理看護学院の
伝統が受け継がれ、更なる発展を心よりお祈り
致します。

● 学院長

山本 俊平 昭和42年 4月～昭和46年 1月
 柏原 貞夫 昭和46年 1月～平成 5年 3月
 奥村 秀弘 平成 5年 3月～平成15年 8月
 山中忠太郎 平成15年 9月～平成26年 3月

● 副学院長

雪永 政枝 昭和42年 7月～昭和47年12月
 増本 喜枝 昭和60年 4月～平成 2年 3月
 海上芙美子 平成10年 4月～平成12年 3月
 山中忠太郎 平成15年 4月～平成15年 8月
 村田 芳子 平成17年 4月～平成21年 3月
 遊田伊玖子 平成21年 4月～平成24年 3月
 平 葉子 平成24年 4月～平成26年 3月

● 教務部長

海上芙美子 平成 6年 4月～平成10年 3月

● 教務主任

増本 喜枝 昭和42年 4月～昭和60年 3月
 海上芙美子 昭和60年 4月～平成10年 3月
 柳瀬由利子 昭和63年 4月～平成 5年 3月
 高石理恵子 平成 5年 4月～平成17年 3月
 大田 容子 平成10年 4月～平成26年 3月
 梶間 敦子 平成17年 4月～平成26年 3月

● 専任教員

畑尾 操 昭和41年11月～昭和48年11月
 正木 節子 昭和42年 1月～昭和48年 1月
 浅田 庚子 昭和42年 6月～昭和46年 6月
 鎮守 條子 昭和44年 4月～昭和45年 3月
 岳山 實子 昭和44年 4月～昭和45年 1月
 山中ゆきの 昭和45年 4月～昭和45年10月
 青木香寿枝 昭和46年 1月～昭和47年 5月
 西 貞代 昭和46年10月～昭和48年11月
 岡本 清子 昭和47年 6月～昭和51年 8月
 田邊 揚子 昭和47年 8月～昭和50年11月
 大山富美子 昭和48年 7月～昭和52年 6月
 海上芙美子 昭和49年 4月～昭和60年 3月
 高石理恵子 昭和50年 5月～昭和60年 3月
 上垣 七巳 昭和51年 4月～昭和56年 5月
 木村 順子 昭和52年 3月～昭和55年 6月
 村本 緑 昭和52年 4月～昭和55年 3月
 中村 絹子 昭和52年10月～昭和55年 3月
 柳瀬由利子 昭和54年 2月～平成63年 3月
 古川 文子 昭和54年 6月～昭和58年 8月
 河村 妙子 昭和55年 4月～昭和58年 3月
 山本 和恵 昭和55年10月～平成 7年11月
 宮近スイ子 昭和56年10月～昭和62年 3月
 田山 廣子 昭和58年 4月～昭和59年 3月
 志賀真理子 昭和58年 4月～昭和60年 3月
 山田満智子 昭和60年 1月～平成 2年 3月
 生島 祥江 昭和60年 1月～平成 2年 3月
 大田 容子 昭和60年 4月～平成10年 3月
 高橋登久枝 昭和61年 1月～平成 3年 3月
 下田 桂子 昭和61年 4月～平成元年 3月

西澤とも子 昭和61年 4月～平成 2年 3月
岡本恵理子 昭和62年 4月～平成 8年12月
梶間 敦子 昭和63年 4月～平成17年 3月
古川 文子 昭和62年 6月～平成 6年 8月
前田ひろみ 平成 2年 4月～平成11年 3月
坂本 幸子 平成 2年 8月～平成 8年 9月
藤井 善子 平成 3年 4月～平成 7年 3月
大野ひとみ 平成 4年 4月～平成 7年 6月
本林 美幸 平成 4年 4月～平成 9年 3月
鈴村美穂子 平成 4年 6月～平成 6年 3月
近藤 昭栄 平成 5年 4月～平成26年 3月
園田久美子 平成 6年 4月～平成 6年10月
八尾喜代子 平成 6年 9月～平成10年 3月
田中 京子 平成 7年 5月～平成 8年 2月
西浦 智子 平成 7年11月～平成26年 3月
菊地三千代 平成 7年11月～平成14年 9月
中村喜代美 平成 8年 4月～平成25年 3月
中川 知恵 平成 8年 4月～平成26年 3月
菊地真喜子 平成 9年 4月～平成16年 5月
平成19年10月～平成26年 3月
乾 俊子 平成 9年 4月～平成 9年 6月
高橋安紀子 平成 9年 4月～平成26年 3月
鶴井智佳子 平成 9年 8月～平成25年 9月
篠原 優子 平成 9年10月～平成13年 3月
伊藤 咲 平成10年 4月～平成24年 3月
土田 共子 平成10年 4月～平成17年 5月
芝地聖代子 平成10年 4月～平成25年 3月
藤林 理賀 平成11年 4月～平成21年 3月
上田恵美子 平成11年 4月～平成13年 3月
鶴巻 智恵 平成11年 4月～平成25年 3月

白山美佐子 平成12年 4月～平成20年 3月
藤本 孝久 平成13年 4月～平成20年 9月
平成22年 1月～平成26年 3月
阪本喜代子 平成13年 4月～平成26年 3月
福田 優子 平成14年 4月～平成19年 9月
藤本 美春 平成14年 8月～平成19年 9月
大木 笑子 平成15年 4月～平成26年 3月
西澤 治子 平成17年 5月～平成26年 3月
中川 利子 平成19年 4月～平成24年 3月
松井 利江 平成20年 4月～平成24年 3月
石橋かず代 平成21年 4月～平成24年 3月

歴代職員・現職員在籍期間

● 事務責任者

馬場 実 昭和42年 4月～昭和44年 7月
土田 雄三 昭和44年 4月～昭和51年 5月
須貝 忠夫 昭和51年 4月～昭和61年 3月

● 課長

泰田 良三 平成13年 4月～平成19年 5月
中 淳伍 平成19年 6月～平成20年 4月
梅原 清春 平成20年 3月～平成25年 3月

● 係長

土田 雄三 平成 3年 8月～平成 4年 4月
米田 耕三 平成 4年 5月～平成 6年 4月
平成 7年12月～平成10年 3月
桑山 信之 平成 6年 5月～平成 8年 9月
福井 清三 平成10年 4月～平成13年 3月
東田 孝行 平成23年 7月～平成26年 3月

● 主任事務員

柘植 恭平 昭和60年 5月～昭和 3年 8月
東田 孝行 平成16年 4月～平成23年 6月
小森 智明 平成24年 2月～平成26年 3月

● 閉校時在籍職員

係 長 東田 孝行
主 任 小森 智明
事 務 員 吉岡 清訓
技能助手 山本 雅史
用 務 員 山本富美子

卒業生名簿

● 第一看護学科 ●

● 第二看護学科 ●

● 助産学科 ●



第一看護学科 第1期生

昭和63年3月11日卒業 (39名)

伊藤 多重子
伊藤 見里
伊藤 佳志子
磯尾 元江
市橋 育子
井上 よし子
柴野 幸子
枝松 昌枝
大塚 三枝子
梶原 睦子

片山 早苗
金ヶ江 利香
川瀬 晶代
北村 文香
小池 久美子
小出 裕子
小林 広美
佐藤 よし子
阪口 悦子
屬 佳子

沢 慰子
菅沼 あけみ
菅原 ようこ
杉田 真由美
田代 小百合
多田 喜代子
高橋 美紀
竹内 晶子
竹葉 弘美
津川 よしみ

中神 由紀子
畑中 聖子
三谷 祐子
宮脇 佳代子
安江 美紀
山川 知佐子
渡辺 ひとみ
内山 文子
丸山 恵子



天理看護学校第1看護学科第1期生入学記念 (昭和60年4月6日)

1科1期生



ピカピカの廊下 市松模様の床の古い校舎。
まだ 心の中にあります。



学院で育ててもらった事を誇りに思います。
ありがとうございました。



輝く1科1期生になれて良かった！



第二よりどり第 卒業記念 第一看護科1期生 353.1.12



早い門限 多いレポートに苦闘した日々。



卒業後3年・同窓会



卒業後15年・同窓会



第一看護学科 第2期生

平成元年3月11日卒業 (33名)

伊藤 咲	川岡 利江	野村 加奈	石川 恵子
伊藤 美加	佐々木 早苗	馬場 亮子	中藤 恵美
一倉 恭恵	榊原 道恵	藤原 三千代	佐々木麻衣子
魚住 珠江	鈴木 由美子	前川 とも子	
大北 幸代	芹口 華奈	三宅 由美	
太田 冷子	竹田 幸美	山中 美幸	
加納 美保	壺阪 千秋	山本 陽子	
柏田 真由	手塚 未央	吉見 千鶴	
片寄 澄子	西浦 智子	和田 増美	
叶井 陵子	西本 仁美	城戸 美江	

3年間通った学院の雰囲気、私の脳裏にやきついています。
看護ようぼくとして育ててくれた母校に感謝の思いです。

島田道恵（旧姓：榊原）

ミシミシと鳴る階段
閉まらない窓
ピッカピカのトイレ
お世話になりました。
的場美幸（旧姓：山中）

キャンプ・学院祭、等
行事が多し、看護学校？
今日は何の日・季語時候、
知らなかった常識・・・
今も出先で廊下や床に
直接鞆が置けません。

西浦智子

学院での学びがあったから
こそ、私の中に看護とは？
と自分に問いかける心が
根付いている。

学院の3年間は

私の宝・・・

田上由美（旧姓：三宅）

厳しい学院を卒業できたのは
仲間がいたから・・・

学院での学びが

今の看護の原点です。

八木由美子（旧姓：鈴木）



天理看護学院第1看護学科第2期生入学記念（昭和61年4月7日）

学院の思い出 閉校への思い

1科2期生

同じ目標を持った仲間だからこそ、辛くても頑張れた。
1科2期生は私の一生の宝物です。相原華奈（旧姓：芹口）

楽しい事ばかりでなくどちらかと言えば辛かった学生時代。
だから、今を生きているのでしょう。思い出は盟友と共に
消えませんが。岩田未央（旧姓：手塚）

楽しかった時、辛かった時いつも近くには友達がいた。
遠く離れている今でも声を聴くと距離が一基に縮まり、昔に
戻れる。友達のおかげで自分が自分らしくいることができた
場所。学院はそんな大切な場所である。加納美穂

泣いて、笑って過ごした
看護学校がなくなるのは
本当に淋しい
岩永泰恵（旧姓：一倉）



第一看護学科 第3期生

平成2年3月9日卒業 (38名)

明石 京子
井口 和美
伊藤 ゆかり
猪原 真理子
氏家 ひろみ
大浪 知恵
大西 麗子
岡 優子
木原 千穂
小池 由里

神山 佳苗
小林 宮子
近藤 ひろみ
篠原 優子
白水 三千代
高田 幸恵
田島 万弓
田島 由美
田邑 千代
土田 共子

徳留 紀子
徳光 佐和子
中村 千代美
橋本 敬子
濱田 展枝
濱本 とし子
藤岡 雪子
藤本 陽子
益岡 千佳
光畑 久仁江

山北 真理子
山口 久美子
山口 未央
山田 扶佐子
山田 妙子
吉岡 かな子
吉岡 朋子
五日市 陵子



看護学院の思い出といえば、ろくにシャワーに入れなかった本島の訓練や、レポートに追われた実習など、苦しかったことしか思い出されません。それでも、劇団三期(みき)を立ち上げて、自分たちが楽しみつつ、学院祭や謝恩会を盛り上げるなど、本当に元気いっぱいめでげないクラスでした。先生方は泣かされたでしょうが・・・(笑)

今の私たちがあるのは、天理看護学院のお陰です。ありがとうございました。

3期生役員 高田幸恵



第一看護学科 第4期生

平成3年3月9日卒業 (36名)

石岡 弥生
遠藤 ゆきみ
小笠原 芳恵
小川 典子
加藤 敬子
加藤 真由美
久保 陽子
糸 尚子
小森 敬子
佐々木 順子

下和田 清美
内匠 喜久子
千原 ひとみ
長岡 真喜子
西川 千里
橋本 知江子
秦 章子
畑中 良子
林 尚子
原田 綾子

坂東 真弓
樋口 真由美
広瀬 継恵
福井 久美子
福田 美和
鮎田 華名子
保科 明子
正井 麻子
松尾 あおい
村上 久恵

室之園世津子
山田 幸子
山中 定子
吉田 洋子
米田 倫子
和佐野 嘉代



天理看護学院第1看護学科第4期生入学記念 (昭和63年4月6日)

学院の階段の壁に旧校舎の写真が飾っており、暫くの間立ち止まって見ていると懐かしい思い出がよみがえってきます。入試の時とても綺麗な窓ガラスや廊下が魅力的に見えて入学したのですが、「自分で磨くのか、しまった!」と思っても後の祭り。でも皆と一緒に、ハアハアと息を吹きかけ新聞紙で磨き、あらゆるところを拭き、中庭にはローラーを引き、シーツはピンッと張る・・・今思えば無駄口をたたきながらでも楽しい作業でした。朝礼での3分間スピーチ、本島のキャンプでは、シャワー45秒やなぜか無くなるスプーンを必死で捜索、泳いだ後の生姜湯。学院祭での屋台メニュー作り。渡り廊下の「すのこ」の音。シマシマの三角巾をしてお初実習、緊張しながらの印鑑押し。ナースキャップしたまま着替えてる子。小児科では「みどかん」と呼ばれてましたよね。そして、たまに悔し泣き。私たちはおとなし過ぎる4期生ね～！なんて言われてました。現在看護に携わっている人はもちろん、そうでない人も、この学校で教わったことが人生に活かされているのではないのでしょうか。まさに三つ子の魂百まで。看護師の卵から羽ばたくまで、厳しくもとても温かく育てていただいた先生方・関係各位の方々に深く感謝いたしております。(幹事：小笠原)





第一看護学科 第5期生

平成4年3月10日卒業 (43名)

石倉 陽子
 石渡 友子
 井爪 智恵
 乾 俊子
 内田 雅子
 江本 真美
 小川 真理子
 上林 多歌子
 川口 明日香
 河村 真理子
 黒澤 直美

駒谷 登志
 小山 和美
 坂田 笑子
 迫野 美幸
 重富 陽子
 杉野 夫美
 高橋 薫
 高橋 由美子
 滝沢 美香
 竹村 淑恵
 橘 久美子

田村 明子
 中田 宣代
 西浦 陽美
 野村 悦子
 八田 小百合
 原 里美
 平岩 そよ子
 前野 加代子
 松下 道子
 松野 紀子
 三澤 佳子

水岡 三佐子
 水田 智子
 水元 里佳
 向井 さち
 向井 昌子
 恵 さゆみ
 八木 雅美
 雪岡 理恵
 龍 弘美
 山本 佳子

私たちは、平成元年4月、第1看護学科5期生として入学しました。今思えば、個性的な面々の集まりでした。先生たちからも、新人類と呼ばれるほどでした。規則が厳しい寮生活、ほとんどが初めて親元を離れ、不安だらけの慣れない生活が始まりました。1つしか違わないのに、同室の2科の23期生が随分大人に見え、また、色々教えてもらいました。眠い目をこすいながらの朝の掃除、順番待ちの洗濯機、並んだ公衆電話、みんなで観たテレビドラマ、食堂に集まったのグループワーク、色んな思い出が残った寮生活でした。

学院では、看護師になる決意を新たにのぞんだ戴帽式、過酷なキャンプ、みんなで練習した実習室、目を閉じれば、今でも懐かしい木造校舎が浮かんできます。楽しくもあり、時には厳しく、辛いこともあった3年間でしたが、多くの友達や、先生、家族に支えられて、平成4年3月、無事卒業することができました。学院での3年間は、看護師としての勉強だけではなく、人としても私たちを成長させてくれました。学院が閉校になるのは寂しいですが、学院で学んだことは、これからも看護師として私たちの中で生き続けます。

1科5期生の声

- ・ 母校が閉校になること大変寂しく思います。学院での3年間、今思えば、充実した日々を遅れました。学院での体験がずっと役立っています
- ・ その人の心に寄り添って心と身体、環境が健康に向かうために助けさせて頂くこと、女性・母・妻・看護師として基本にあると思います。学院で学べた事、みんなに出会えた事を心から感謝しています
- ・ 学院でみんなと一緒に学べたことが、看護の原点になっています
- ・ 学院での生活は、厳しく、楽しく、人生最高の思い出です
- ・ 看護に関してだけでなく、大切なことを教えて頂きました。よき友に出会い幸せです
- ・ 学院で学んだ3年間、先生、5期生との出会い、憩の家で勤務した5年間、おちぼで過ごした時間は大切な宝物です
- ・ 人に支えられていることを実感した3年間でした。よき友、よき恩師に出会えたことは、何よりの財産です
- ・ いつも楽しい仲間に出会えて、充実の3年間でした。時には喧嘩もしたし、悩みもしたけど、一生の友達を得ることができました。人生で一番勉強し、努力した3年間でもありました

担任の海上先生、梶間先生、大田先生、諸先生方、私たち5期生を卒業まで導いてくださり、ありがとうございました。心から感謝いたします

第1看護学科5期生



第一看護学科 第6期生

平成5年3月11日卒業 (40名)

石崎 緑
石原 聖代子
市川 倫恵
伊庭 寛子
今口 範子
岩井 麻実子
岩出 弘美
植谷 めぐみ
裏野 公美
円城寺 佳子

大垣 美菜子
大友 なおみ
香川 俊子
川村 香保理
川村 容子
神田 英子
岸野 多喜恵
坂井 ふみよ
坂下 圭美
菅沼 美保

高柳 佐知子
滝川 由美
滝本 薫
田邊 薫
月井 希美
寺澤 絵理
内藤 須美子
長尾 旬子
長谷川 知子
畑中 よし子

袋谷 みゆき
藤井 みずき
升本 洋子
丸山 みどり
宮澤 加寿代
森本 佐恵
山下 供子
山田 恵理子
柳光 かおる
武田 太郎

天理看護学院 1 科 6 期生

古いのにピカピカだった校舎を思い出します。時間に追われて大変だったけれど、勉強をはじめ人生でのいろいろなことを学ばせていただきました。天理看護学院がなくなるのは残念ですが、大学になってからも頑張っしてほしいと思っています。 岡坂みゆき

学院が閉校するということがとてもさみしく思います。あの木造校舎がなくなってしまう時も同じ思い出でした。思い出は数々ありますがあの木造校舎のピカピカした廊下、木枠の窓、青春そのものの風景です。 今西洋子

学院の思い出ではキャンプと寮生活！貴重な体験をさせてもらいました。木造校舎は綺麗に掃除されていました。ペーパーバッグ活躍していましたね。 磯田ふみよ

神奈川で看護師を続けています。看護学生時代の3分間スピーチ、本島キャンプ、19時の門限など貴重な思い出です。海上先生、水野先生をはじめ同期の仲間感謝しております。 齊心絵里

厳しく大変なことが多かったけど、今ではその大変なことが良い思い出。キャンプは特にしんどかったけど今ではいつでも笑える共通のネタに♪振り返ると反省や後悔も多くて。専門的な授業についていけなかった。偉大な先生方の授業をもう一度受けたいです。 中西美奈子

学院時代は毎日が辛く大変だったけど、一生の友人と出会えた私に人生の一番の宝物です！ 森佐知子

ひたすら眠気と戦う日々、実習のレポート大変でした。でも振り返るともっと勉強しておけばよかったと思います。学院の校舎も古いけど味のある校舎でした。 長野美保

学院生活も寮生活も笑い涙とほろ苦さがぎゅ〜っと詰まった3年間でした。思い出すとすぐにあの時のピュアな気持ちになれる大切な時間でした。1科6期のメンバーが一番の宝物です。 油谷英子



第一看護学科 第7期生

平成6年3月8日卒業 (37名)

浅利 忍
飯田 三賀
家本 和美
上田 紀子
大国 静恵
大久保 利恵
大西 美香
大橋 佳子
小畑 敦子
魁生 裕子

金川 美栄
喜多村 奈美
金谷 幸代
酒井 理恵
櫻井 香織
篠原 知恵子
篠原 由歌理
清水 陽子
鈴木 円
多田 佐知子

田中 美果
中尾 文
仲野 てるみ
西岡 典枝
能田 美恵子
野中 美里
橋本 真理子
橋本 有美
樋木 夕夏
藤田 真紀

松岡 愛
松永 優子
丸尾 紀子
矢田 陽子
米澤 万寿美
米光 由紀恵
亘鍋 眞喜子

1科7期生



さくちゃん

しえ～



あやちゃん



ま～ちゃん



陽子



優子

い～ちゃん

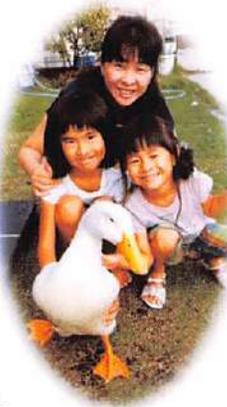


みかりん



ようこりん

よしこちゃん



ますみちゃん



てるみ



あさりちゃん



仲良しグループ





第一看護学科 第8期生

平成7年3月7日卒業 (34名)

伊藤 和美
 岩城 晴美
 大浦 ゆかり
 大北 陽子
 大西 和美
 岡田 裕美子
 尾山 小夜加
 桂 路代
 甲谷 多恵子
 斉藤 久子

佐藤 晴美
 島上 千絵
 清水 佑史子
 但馬 道代
 田中 丈子
 田中 みき
 鶴岡 砂織
 富田 智子
 野口 富有子
 野見山 優子

林 理絵
 日置 いく子
 増子 紀子
 松重 奈美
 萬木 愛
 水野 友貴
 森本 由佳理
 山崎 千恵
 渡邊 順子
 和田 真裕美

和田 由紀
 石橋 祐子
 清水 美恵
 松本 理恵

～1科8期生～

島崎 晴美

大分で看護師を続けています。家庭と仕事の両立、毎日頑張っています。母校がなくなるのは寂しいですが、大学になっても看護ようぼくらの精神がうけつがれていくことを、信じています。

同級生の皆様の御健康をお祈りします。

西川 路代(旧姓:桂)

昨年13年ぶりに、現場復帰しました。学院で学んだこと、先生方のお言葉を今でも思い出します。天理看護学院で学んでよかったと思います。

松村 明美

すっかり広島の人になってきました。

唐沢 久子

一科8期生は、先生方に“前代未聞”とよく言われていました。先生方は本当に厳しかったのですが、私が卒業できたのは根気よく育ててくださった先生方のおかげです。皆様、本当にありがとうございました。木造の校舎がとても懐かしいです。

段原 祐子(旧姓:石橋)

木造の学院が大好きでした。それが無くなったのも寂しかったけれど、学院がなくなるのはもっと寂しいです。卒業生の心に、学院で学んだことが残り、大学になってもそれが引き継がれることを願います。

ありがとうございました。

井上 奈美(旧姓:松重)

天理看護学院で学んだ3年間は、現在の基盤となっています。卒業生であることを誇りに思います。

大塚 沙織(旧姓:鶴岡)

学院に育てて頂き、大切にすべきことを教えていただき、今こうして他院働いてみると、そのことをとれありがたく感じています。今でも大切な友と思い出を看護を与えてくれた学院。

ありがとうございました。

山崎 知恵

八期はいつ会っても、その期間を感じさせない絆があるなと思います。いつまでも『仲間だ!』って感じ。寮生活と学院生活は、いつまでも宝物です。

橋本 いく子

学院を卒業して、早18年が経ちました。途中ブランクがあったものの、今も看護師を続けています。母校が閉校するのは寂しいですが、時代と共に新たな第一歩を踏み出すことに大きな期待をしております。

大北 陽子

北九州で看護師を続けております。天理を離れて思い出すことは、天理看護学院や寮生活の中で厳しくも温かく素晴らしい教育をして頂いたこと、友達との楽しかった思い出です。天理看護学院の閉校は寂しいですが、医療大学としてのさらなる発展を願っております。天理看護学院ありがとう。

有川 由佳理(旧姓:森本)

まさかの私が、卒業してからも天理に根付いてしまいました。側で、学院の変化を見てきましたが、見違えるほど立派になっています。木造の学院を、新聞で掃除しながら笑っていた頃が本当に懐かしいです。これからも看護ようぼくとして、精進させていただきます。

みんなで、また会おうね!



第一看護学科 第9期生

平成8年3月5日卒業 (28名)

青木 里美
浅野 加奈代
有山 貴代
今城 厚美
植村 直美
片山 央子
加藤 未絵
加藤 美和
河合 直美
川久保美代子

河崎 麻由子
工藤 真希子
佐藤 佳代
芝波田小百合
清水 美幸
田中 育代
田中 淳子
田中 英行
丹下 亜佐子
筒井 希久子

仲井 友貴
中澤 貴子
中村 智美
長谷川恵利子
坂東 知子
藤本 美春
本田 紀子
山田 友紀

一科九期生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

時が経つのは早いもので、天理看護学院を卒業してからもう十六年がすぎました。

皆で期待や不安を抱きながら、天理よろづ相談所病院に入職しましたね。

二～三年過ぎから一人・二人・・・と仲間が退職していき、今では田中くんと竹本の二人のみとなりました。寂しくなっていました。

現在、田中くんは38病棟の主任として後輩たちの育成に毎日がんばっています。

私はというと、手術室のお局様として日々、病める人々の力となるべく頑張っています。

風の噂では、九期生の仲間も、様々に頑張っているようです。

結婚し子供が生まれ、専業主婦で家族のために頑張っている人、地元に戻って病院や



老人施設で働いている人、まだ勉学に励んでいる人、人生いろいろ、生き方もいろいろです。今この瞬間、同じ様に頑張っている仲間がいるということが私の一番の財産だと思っています。

病院の様子もいろいろと変化しました。白川分院・外来棟が新しくなり、来年には入院棟も新しく出来ます。新しい病院で看護用木として頑張らせて頂けること、楽しみにしています。

今は皆バラバラですが、いつかもう一度一緒に憩の家で働くことが出来たらいいなと夢んでいます。

竹本 小百合



第一看護学科 第10期生

平成9年3月11日卒業 (41名)

青木 登茂美
浅井 麻由
浅利 奈津子
池口 奈奈恵
揖澤 節子
一ノ名 由恵
伊藤 裕美
伊藤 美和子
太田 弥生
奥田 教子
小野 圭子

小野 真澄
香川 京子
片岡 倫代
川崎 正代
近藤 早苗
齋藤 真奈美
境 美佳子
杉本 江利子
高橋 明子
滝川 祐子
武田 加奈

土田 秋子
堂領 淳子
鳥居 慶子
中尾 典子
中島 壽恵
西川 麻由子
早川 素美
速水 政子
原田 加奈子
平岡 絵美子
藤本 里恵

古瀬 奈緒子
松田 亜由美
森 知予子
森本 真樹
森山 朋美
横山 智子
吉井 康代
吉村 めぐみ

1科10期生の皆さんお元気ですか♪

私たちが平成9年に天理看護学院を卒業し、16年がたちました。長いようで短い16年でしたね。

今年1科27期生が最後の天理看護学院生として、臨床実習に来ています。あの頃の私たちのように、必死で勉強したり、レポートを深夜までかかって書いたり***実習が終わればこっそり部屋にお酒を持ち込んで、打ち上げをしているのかも知れません***

天理看護学院の頃を振り返ると、木造の旧校舎が思い出されます。ピカピカに光る木の廊下や和式トイレ、木枠の窓****新校舎への移転は大変でしたが、真新しい校舎で一番に学べた学生になりました。

学院の先生方には看護のことはもちろん、礼儀など人間としての基本を学びました。学院で学んだことは今でも生かされているのではないかと思います。



SOTUGYU



JUMP



JISSHU



TAIBOUSIKI

皆さんがそれぞれの土地で、それぞれの立場で元気に過ごされることを祈っています。



第一看護学科 第11期生

平成10年3月11日卒業 (51名)

青木 悠子
 安部 直美
 安部 広美
 荒木 理栄
 有江 奈美
 有竹 香代
 安藤 春美
 池野 美幸
 井澗 幸子
 市位 恵美
 市川 智子
 今村 友紀

岩崎 登美子
 鍵田 まり子
 梶谷 ますみ
 風本 春奈
 加藤 美由紀
 川島 礼子
 楠田 みどり
 黒田 茂明
 澤本 知佐
 穴戸 陽子
 雫 亜希子
 清野 早苗

田中 志津子
 田原 理恵子
 千原 真奈美
 土田 百代
 道迫 真里子
 中下 淳子
 中西 美和
 西村 理佐
 能登 朱美
 林 明子
 林 容子
 東家 たまき

東屋 智子
 福地 真砂美
 藤井 みき江
 藤田 真澄
 星 明美
 本多 有希子
 松本 佳可
 峰平 静香
 宮田 さちよ
 村川 未佐子
 森下 恵
 矢上 友香

山田 恭子
 山田 有希子
 吉野 日奈子

~11期生の近況~ 

<p>川田(有江) 奈美</p> <p>地元天草でケアマネやっています。</p> <p>日々悩みながら業務にあたっています。利用者さんの気持ちに寄り添い、今の仕事に自信が持てる様頑張っています！</p>	<p>本多(田中) 志津子</p> <p>67病棟で頑張っています。2年前にアルバイトに変更し子育てと仕事と奮闘しております。自分のライフワークに合わせた仕事が出来ありがたいと思っています。</p>	<p>森(中下) 淳子</p> <p>近医の外來兼内視鏡で3年の勤務を経て、現在はリハビリデイサービスで働いています。小6の息子と小3の娘がおり仕事も育児もマイペースで頑張っています。</p>	<p>穴戸 陽子</p> <p>大和郡山で副主任として急性期混合病棟で働いています。新人や後輩指導、管理業務にと毎日勉強です。ただ、そろそろ青森に帰りたいかな。</p>
<p>武田(矢上) 友香</p> <p>憩いの50病棟で勤務しています。ママさんナースも多く仕事以外にも子育ての相談をしたり働きやすい環境です。新棟が建つに当たり当院にも学童保育や託児所が設置されると聞いているのでもっと働きやすくなると思います。</p>	<p>大槻(山田) 恭子</p> <p>兵庫県で療地医療の再生の一助となるべく訪問看護師として頑張っています。メディカルアロマセラピーにも取り組んでいます。最期に出会った人があなたで良かった…そう思ってもらえるような看護を提供していきたいです。</p>	<p>北西(岩崎) 登美子</p> <p>近所の内科クリニックで働いて6年。一人一人の患者さんとのコミュニケーションを大切に日々楽しく働いています。今は子育て中心ですが子供の成長とともに勤務時間を増やしたいです。</p>	<p>町田(宮田) さちよ</p> <p>南米コロンビアで家族に支えられ元気で楽しく暮らしています。最近では娘の方がスペイン語が上手になっています。育児と語学習得に頑張っています。</p>
<p>吉川(池野) 美幸</p> <p>内視鏡センター主任として奮闘しています。学院での学びを胸に新棟開院にむけて頑張ります！</p>	<p>有竹善代</p> <p>地元で外來の副部長をしています。2年前にWOCの資格をとり、院内のよくそう対策とストーマ外來を担当、日々悪戦苦闘しています。</p>	<p>向井(井瀧) 幸子</p> <p>和歌山の片田舎で内視鏡技師として頑張っています。娘2人の成長とともに喜びしわが増える恐怖を感じています。</p>	<p>中村(藤田) 真澄</p> <p>今は専業主婦をしています。5才の息子と4才の娘、旦那の世話に追われる毎日を送っています。</p>
<p>福田(加藤) 美由紀</p> <p>神経内科病棟で働いています。長男は小1、長女は1才で時短制度を活用して仕事と育児に奮闘中です。</p>	<p>落合(平) 亜希子</p> <p>5年前に千葉から大阪に戻ってきています。5才と9カ月の子育て中。下の子が1才になったらクリニックに復帰予定です。</p>	<p>福地真砂美</p> <p>中規模の病院で働いています。混合病棟なので色々な科があり煩雑ですが最近緩和ケアに興味を持ち研修など行っています。</p>	<p>梅川(村川) 未佐子</p> <p>大阪で2人の娘の子育てをしながら訪問看護をしています。奥深いので難しいですが天理での経験が役立っています。</p>
<p>塩見(林) 容子</p> <p>よろづの眼科外來で働いています。中2の娘と小1の双子、年中の娘がいます。患者さんと心が通う看護がしたいと日々頑張っています。</p>	<p>矢島(楠田) みどり</p> <p>学院入学と同時に天理に来て18年、今も天理市民です。人生も折り返し地点。日々の出来事に感謝し毎日丁寧に生きることを心がけています。</p>	<p>神辺(土田) 百代</p> <p>結婚して仕事を辞めました。アロマを活用した看護に興味があったので育児に追われる中アロマセラピストの資格をとり、今は復職のタイミングをはかっています。</p>	<p>西村(鍵田) まり子</p> <p>96病棟で総合内科看護師として頑張っています。病棟では学生指導を担当させてもらっています。患者さんに信頼してもらえる看護師でありたいと思っています。</p>
<p>星明美</p> <p>脳外科のSCU・NCUで働いています。めっちゃ忙しく楽しい毎日です。</p>	<p>吉田(市位) 恵美</p> <p>3児の母をしながら近所の整形外科病院で働いています。元気にしています。</p>	<p>清野早苗</p> <p>山形でひっそり働いています…近況は特にありません(笑)</p>	<p>入野(吉野) 日奈子</p> <p>大阪在住。市民病院で勤務しています。今は昇休中。もうすぐ復帰の予定です。</p>
<p>山口(東原) 智子</p> <p>よろづ病院の皮膚科外來で勤務しています</p>	<p>天理看護学院で学んだ看護の心を胸に、 みんな元気にがんばっています。 お世話になったみなさま、ありがとうございました！</p>		



第一看護学科 第12期生

平成11年3月8日卒業 (48名)

與 由紀乃
 足立 理恵
 生駒 恵美子
 石橋 かず代
 井上 優季
 王子 早苗
 大石 巳加代
 大原 久美子
 小川 朋子
 川原 理華
 川村 修司

桔梗 佐奈重
 岸本 みどり
 北川 るみ
 北島 政幸
 小泉 智子
 坂井 千恵
 阪口 慶子
 坂本 直子
 佐藤 明子
 菅野 しづよ
 須藤 裕布子

田崎 眞寿
 立石 治子
 田中 裕子
 谷下 明美
 田ノ上 美香
 出来 直子
 戸川 飛鳥
 中川 享子
 中西 夕子
 永沼 弥恵
 林 晶子

廣岡 節子
 福井 優子
 三島 里美
 三好 きよ
 村上 富美恵
 村田 麻希子
 山口 みよ
 山口 裕子
 山本 志穂
 山本 珠美
 結城 はるみ

吉川 圭
 吉村 和恵
 吉村 直
 善本 千恵子

一科12期生

新校舎での初めての戴帽式
看護師になる決意をしました

一 手 一 つ



母校が閉校になるのはとても寂しいですが、学院、寮での生活は皆さんとの「きずな」がとても深いものでした。

思い出は校舎が変わったことや替え歌を歌ったこと

学院が閉校することは、あの頃は考えてもみませんでした。実際間近になると淋しい気持ちが出てきます。学院で学んだ日々を忘れずにこれからも願の家で働いていこうと思います。



学院での3年間はスキーや学院祭などいろいろな行事を体験させて頂き、同期や先生方とともに濃い時間を過ごすことが出来ました。しんどいことも沢山ありましたが、楽しかったです。

親元を離れ、寮生活が始まり、今まで気付かなかった親、兄弟のありがたさを痛感した。また、その中で支え合ってきた友達との絆の強さのおかげで今日があるように思います。学院で学んだ事は看護や大人としての基本で本当に重要な事でした。閉校はとても寂しいですが、教えていただいたことを忘れずに、これからも頑張っていこうと思います。

学院での思い出はエピソードがありすぎて書きつくせませんが、のろまな私を懲りずに相手して下さった先生をはじめ多くの友達のおかげで今があるといつも感謝しています。

12期で過ごした時間は宝物です。学院が閉校しても、12期はずっと繋がっていたと思います。思い出は話し合いをするかどうかの話し合いをしたことです。



大切な仲間と過ごした学院でのかけがえない時間、一生の宝物となりました。その学び、感謝の心は決して忘れません。ありがとうございました。

一 手 一 つ



天理看護学院第一看護学科第12期生卒業記念 平成11年3月8日

卒業式

一手一つをモットーに仲間と自分自身に向き合えた
天理看護学院での三年間、本当にありがとうございました



第一看護学科 第13期生

平成12年3月8日卒業 (44名)

池野 睦美
猪 祥子
井上 里江
岡崎 ひさよ
岡野 美和
岡本 真未子
鬼村 陽子
小野寺 美穂
片根 千陽
金田 実代
川村 典子

久保 真実子
桑山 みゆき
小林 敦子
小林 由美子
小林 陽子
斎藤 牧子
佐藤 美絵
菅沼 珠江
立岡 沙織
田邊 由佳
谷本 晃子

田村 郁子
千村 恵理
中神 千鶴
中村 聡子
西田 梨香
西村 美保
則松 真弓
橋本 由紀
畑中 美紀
畑中 理沙
濱守 佳恵

平間 真実
藤崎 みよ
藤田 弓子
堀井 有紗
松村 祐子
山口 光子
山根 順子
山本 陽子
山脇 教子
吉田 昭子
吉村 ちひろ





第一看護学科 第14期生

平成13年3月7日卒業 (43名)

粟津 衣都子
安藤 理裕
井岡 奈々
五百木 慶子
池末 由佳
石本 真治
岩下 千鶴
牛島 祥乃
岡野 智香
小川 真由美
笠松 陽子

金本 利子
鎌田 妙子
向上 正道
小谷 圭代
小山 瑠美子
齋藤 裕子
佐久間 恵子
柴田 初恵
瀧川 祐子
内藤 宮子
長瀬 裕美

中山 とく美
野村 雅美
波多野 美穂
樋口 朝子
樋口 めぐみ
平位 奈央
藤原 雅子
堀江 まどか
本間 智代美
町田 早矢
松村 美鈴

松本 静
真邊 美穂子
村井 一美
村井 佳世
安井 香織
矢田 文代
山田 恵子
吉井 みつ代
桐田 みさえ
興梠 里美



1科14期生の仲間たち

“21世紀の看護師”とハッパをかけられながら学院生活を送った私たち。とっても濃い毎日で、あの頃の笑いっぱいの経験は今の自分たちの礎になっています。人生において大切な時間をおくることができました。お世話になったたくさんの方々、本当にありがとうございました。
 卒後13年目を迎え、今も憩の家をはじめ、それぞれの場所でみんな頑張っています!!!



中国・九州地方にいます

- *ゆかちゃん：1児の母
- *こうじょう氏：教会後継者
- *さいとうゆうこ：2児の母
- *まちゅこ：1児の母
- *まどか：2児の母

関東・中部地方にいます

- *なな：2児の母 *よし：2児の母
- *ちか：教会長後継者夫人 3児の母
- *みほ：3児の母 *めぐ：2児の母
- *はっちゃん：教会長夫人 3児の母
- *みやこ：教会長夫人 4児の母
- *かよちゃん：1児の母

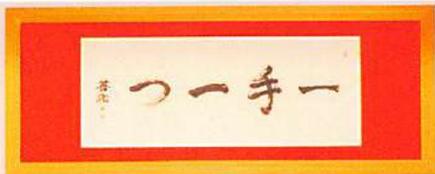
奈良にいます

- *あんちゃん：憩の家カテ室 2児の父 *しんちゃん：憩の家救急病棟 救急認定看護師 *ちづちゃん：憩の家 2児の母
- *ようこ：憩の家手術室 *さんちゃん：天理医療大学助手 *たえちゃん：天理託児所看護師 3児の母 *みさえ：憩の家南25病棟
- *かよ：憩の家 2児の母 *るみちゃん：憩の家南44病棟 *けいちゃん：憩の家南25病棟 2児の母 *たきちゃん：地元
- *とくみ：憩の家東9病棟 *のむのむ：憩の家東8病棟 2児の母 *ちよりん：1児の母 *みすず：憩の家救急病棟 2児の母
- *しずか：1児の母 *かすみ：憩の家外来棟 3児の母 *ふうちゃん：憩の家 4児の母 *やまだけいこ：大学院で助産学研究
- *よしみつ：憩の家東8病棟 1児の母

関西地方にいます

- *いとこ：地元 *よしの：2児の母
- *ろぎ：1児の母 *かおり：1児の母
- *まゆみ：教会長後継者夫人 2児の母
- *さや：3児の母 *ひろりん：2児の母
- *あさこ：教会長夫人 4児の母
- *みほこ：教会長夫人 4児の母
- *なお：教会長後継者夫人





第一看護学科 第15期生

平成14年3月8日卒業 <42名>

浅井 結花
 荒川 久代
 池内 理恵
 石倉 美和
 石立 大典
 井西 さやか
 乾 志織
 稲生 加奈子
 梶野 泰子
 兼田 直美
 菊江 のり子

菊池 あゆむ
 木下 恵
 工藤 真理子
 後藤 理子
 小西 靖子
 小林 由佳
 志賀 広子
 篠原 康代
 嶋 美智子
 下地 美幸
 白水 志穂

新免 美保
 竹中 裕子
 武輪 めぐみ
 田中 久美子
 出合 恭子
 中島 裕子
 二宮 くにえ
 長谷川 杏里
 前田 綾香
 水谷 元樹
 三津井由美子

三宅 桜子
 明星 教
 村上 陸美
 森本 泰代
 諸富 理江
 山中 あゆみ
 山中 千佳子
 山中 ゆたか
 若藤 彩加

1科15期の仲間たち



H25年度 憩いの家メンバー



カテ室の
ムードメ
ーカー！
みっちゃん

36NS
総内やで
ひろみつ

白川分院でがんばって
ま～す！
あゆ&さやか

1ONS
救急病棟で
日々奮闘中
いけりえ

46NS
血内はま
かせて！
あんり

俺はICU、私は5ONS呼吸器
外科。夫婦2人で頑張ってる
よ げんき&しおり

退職メン
バーから
一言

学院が閉校してしまうのは、とてもさみしい
ですが学院で学んだことを忘れず頑張ろうと
思います 戸田 真理子（旧工藤）

天理看護学院で育てて
いただき本当に感謝し
ております。ありが
うございました
玉置 康代（旧篠原）

人生の中で一番思い出深い3年
間をすごした学院が閉校するの
はとても淋しいです。先生方あり
がとうございました。今、看護師
として働いていることに誇りを
もってます 山中 千佳子

天理看護学院で学び、天
理よろづ相談所で働く
ことができ良かった
と退職して実感！ 感
謝しています
犬谷 久美子（旧田中）



第一看護学科 第16期生

平成15年3月7日卒業 (42名)

浅原 陽子
阿比留 陽子
荒井 かおり
安藤 智恵
揖澤 百合子
石原 比奈子
井上 知美
岩田 茜
上田 裕之
上出 亜紀子
内之宮 継子

小野 奈穂
加藤 絵美子
小来田 礼子
國分 春江
齊藤 咲希
迫田 理沙
島田 志穂
杉山 愛
多良 恵
中塚 淑子
中西 絵美子

永野 仁美
名嘉山 宙照
信川 智子
萩野 隆
林 優美
原田 友紀子
久松 晃子
平間 元子
古田 よしえ
細井 倫子
堀 志保

松尾 真衣子
真辺 映三子
水本 依子
神谷 陽子
三橋 ゆかり
村上 小百合
森分 加奈
山田 マキ
若林 かほり



一科 16期生:平成12年4月入学。平成15年3月7日卒業。目標の看護師になってもう10年ぐらい。みんな元気にしていますか？
 みんなと一緒に熱く過ごした3年間はまさに青春！って感じで。盛り上がりすぎたり揉めたり、いろんなことがあったけど何にも変えられない大切な思い出。
 でもみんなに会ったら一気にあの頃に戻ってしまうからな、思い出が続中って感じかなあ？
 さて。私たちが会って、3年間一緒に学んだ学院が開校します。学院同窓会の幹事を引き受けている私が、勝手に16期のページを作ることにしました。

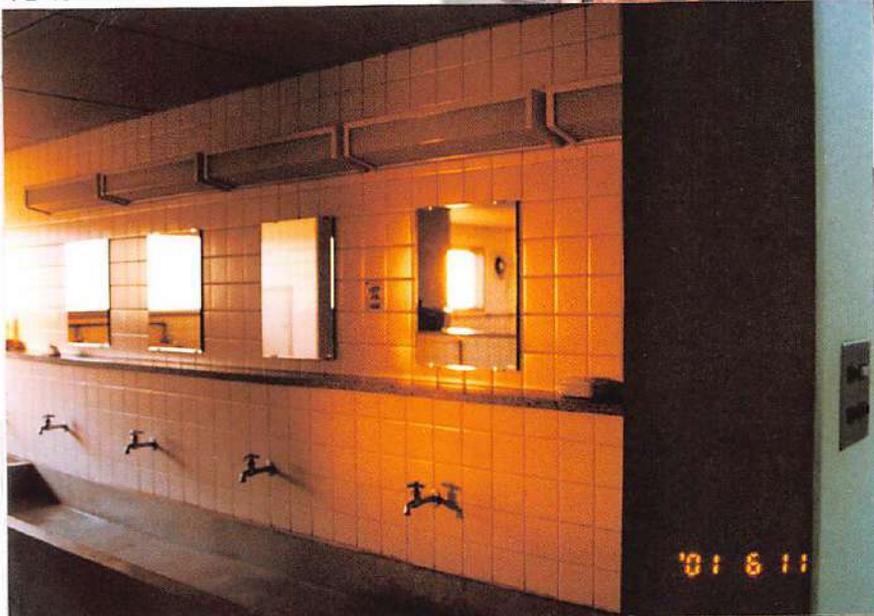
教室のペランダで語る時、まぶしかった渡り廊下と夕日に照らされる寮の洗面所。
 私はちょっとキュンとなるんです。

お気に召さなかったらごめんな、大事な記念誌を台無しにしたなら一生責めて。謝るばかりでもみんなとつながってられるなら嬉しいわ。
 学院に入学するまでの私からしたら、こんなに大事に思える一生ものの友達ができただけで丸儲けや。

教員の先生や実習指導者さんに鍛えられて心も成長したし、いろんなことの学び方を教えてもらったよな。
 みんなでちょっとずつやけど成長していったんやと思う。
 年とったんかもしれへんけど、思い出詰まった学院が



なくなってしまうのは悲しいなあ(飲んでたりなんかすると余計に)。
 学院歌の難しさとか、とんでもなく大きくなる関連図とか、延灯願いとかが、実習室のタオルのたな卸しとか、いろんな事思い出して みんなと話したくなるわ。
 学院がなくなっても思い出はなくなれへんし、あそこで



育ったいろんなものもなくなれへんし。
 とか、いかにもくさいことを書く私のあつくるしさをこれからも愛してください。
 そしてこれからもみんな愛し合ってください。
 それではこのへんで。
 また会いましょう。ごきげんよう。
 また会いましょう。ごきげんよう。
 一科 16期生(勝手に)代表 内之宮継子





第一看護学科 第17期生

平成16年3月5日卒業 (43名)

足利 由香理
 乾 三千子
 岩本 直子
 上番増 由紀
 梅木 真美
 江口 真貴子
 枝廣 久美
 遠藤 ことえ
 大倉 知保
 大郷 佐智佳
 金子 幸代

河野 久美
 北野 早百合
 城戸 百世
 木丸 麻美
 久保 智美
 小林 香子
 島田 道子
 鈴木 真実
 曾根 好美
 高安 なつみ
 田中 奈緒美

田中 奈津子
 中澤 瞳
 中村 真弓
 西川 優子
 西村 恵理子
 西村 佳恵
 橋尾 美穂
 藤田 景子
 藤原 操
 瓶子 勇吉
 別府 亨美

前田 知恵
 松木 優香
 松好 ゆかり
 光永 優子
 南本 せつ子
 南本 美由紀
 村越 英美
 矢田 麻衣子
 山岡 良美
 渡部 真美



大倉知保
坂本ことえ (遠藤)

戸田佐智佳 (大郷)
高知県で13人の大家族で
生活中

高橋奈津子 (田中)
専業主婦 (2児の母)

鈴木真実
三重ハートセンター勤務

上番増由紀
よろづ60病棟看護師

南本美由紀
よろづ56病棟勤務

岩淵知恵 (前田)
大教会の住み込みで炊事
しています

曾根好美
小林香子
別府亨美

野村操 (藤原)
高校の保健室の先生

藤本久美 (枝廣)
広島で主婦+母

工藤美穂 (橋尾)
主婦

川畑智美 (久保)
主婦+母

川畑優子 (西川)
こどもクリニック看護師+主婦

江口真貴子
梅木真美

山添景子 (藤田)
2児の母+産婦人科
外来パート勤務

岩本直子
乾道子
足利由香理

永田道子 (島田)
長野県で主婦

古澤瞳 (中澤)
主婦+3児の母+回復期病棟看護師

1科17期
それぞれに活躍しています

松好ゆかり
よろづ66病棟勤務

瓶子勇吉
よろづ救急看護師

村上せつ子 (南本)
よろづ救急看護師

中村久美 (河野)
よろづ救急看護師

平田真弓 (中村)
3児の母+慢性期病棟勤務

木戸百世
北野小百合
渡部真美

金子幸代
産婦人科の看護師

松木優香
光永優子
山岡良美

西村佳恵
台湾で主婦+母+
日本語教えてる





第一看護学科 第18期生

平成17年3月8日卒業 <41名>

荒木 久仁恵
石原 慶子
石山 世以子
磯貝 育代
太田 奈緒美
岡田 早代
岡村 ひろみ
小野 奈津子
甲斐 愛
加藤 直樹
鎌倉 由衣

河形 綾
岸田 ゆきえ
久米 佐枝子
小林 美樹
齋藤 幸枝
齋藤 容子
坂井 志菜子
嶋田 容子
高杉 彩子
高橋 百愛美
高橋 利江

田川 夏織
田中 眞亀
永井 友梨
中畝 佳世
永田 直子
永田 優子
中塚 純代
西田 寿賀子
西村 美早子
信川 祥子
張間 智子

藤本 理子
細田 優美
前川 有加
松岡 美雪
森本 真理
山内 みゆき
山西 明日香
山本 恵



第一看護学科 第19期生

平成18年3月8日卒業 (50名)

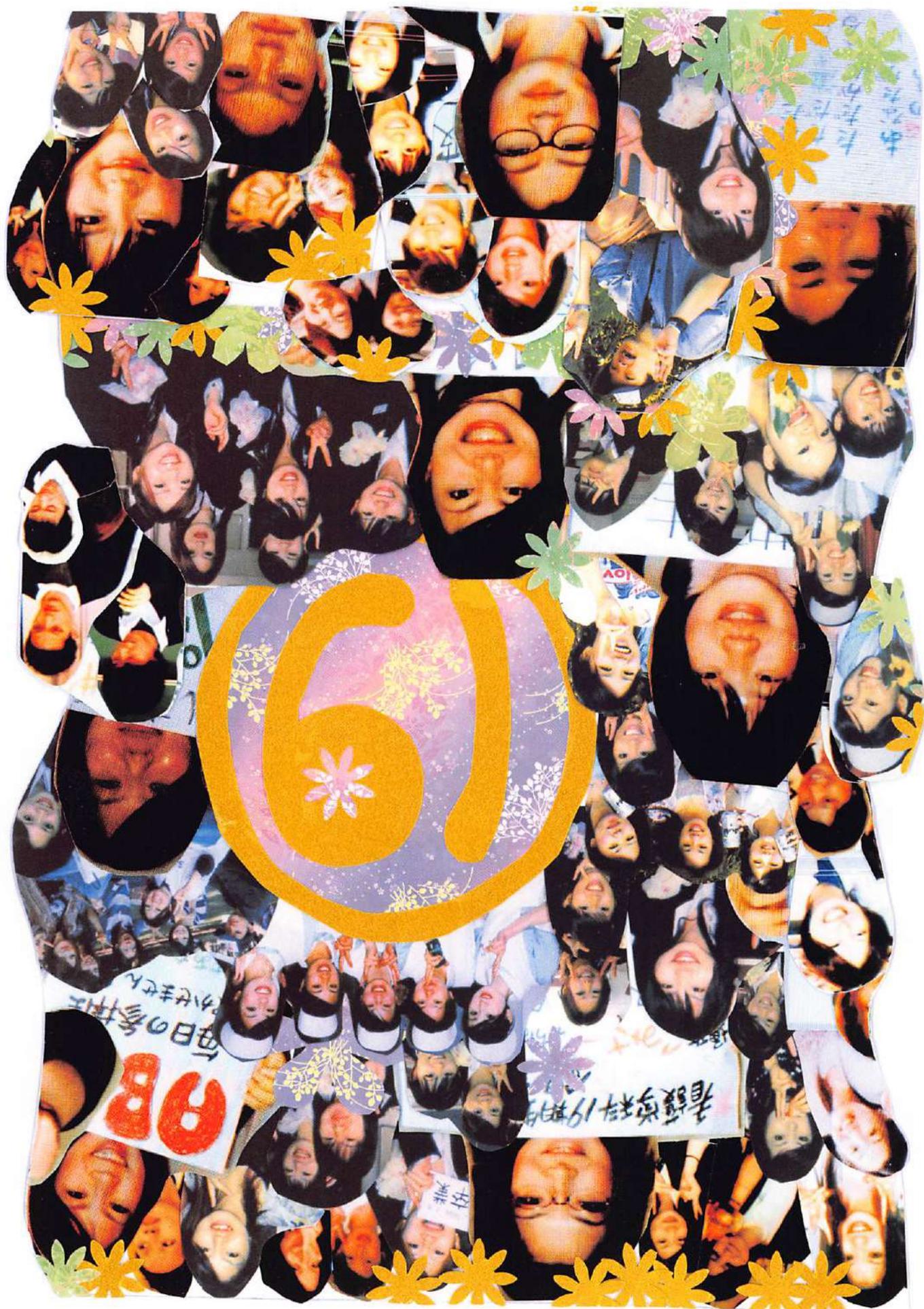
阿部 嘉代
池田 理恵子
石橋 あや
和泉 智江
一ノ宮 朋子
今井 友理
入口 祐助
内田 真由美
鬼村 佳子
角 仁美
金澤 咲喜子
金盛 瑞穂

加納 幸恵
川嶋 真理
北野 まゆみ
佐治 よりえ
雫 美恵子
四宮 愛
寫川 佑美
清家 直美
瀬古 順乃
高嶋 有希子
高瀬 真弓
高村 真紀

田嶋 千恵
田中 礼
友永 智恵
中島 成子
中原 里美
錦 美佐子
根来 雅美
野田 毅
波多野 信介
鳩野 文子
林 由紀乃
姫野 由美

測本 実花
芳野 馨子
松岡 沙苗
松岡 瑞貴
松川 真規
松村 直子
武藤 那未
武藤 恵美
森川 舞
森川 百恵
山口 愛
山崎 真弓

世登 すみれ
渡邊 美穂





第一看護学科 第20期生

平成19年3月7日卒業 (49名)

安藤 啓子
 稲村 美也子
 井之上真由実
 岩本 知恵
 梅本 旬男
 大宮 なな
 小郷 秀美
 香月 百子
 加藤 三樹
 甲谷 恵理子
 川村 教子

黒北 純子
 小崎 愛理
 齋藤 由布子
 坂上 もも代
 佐々木 絵利
 佐藤 英恵
 瀬 春名
 高木 麻衣
 高橋 茉裕子
 高橋 祐美
 田中 裕子

谷野 里実
 辻元 かおり
 留場 真紀
 中垣 和恵
 中西 あゆ美
 中山 恵
 西田 里美
 西牧 理紗
 野神 寛太
 濱本 恵理
 東 園子

平瀬 嘉奈
 平田 晃子
 深田 有希
 福井 麻里
 藤村 美喜
 松田 圭以子
 松山 さくら
 丸山 智子
 水口 亜紗乃
 三津井 道代
 美濃 とき恵

山本 歌世
 山本 容子
 山本 佳絵
 吉井 彩
 若林 侑子

1科20期生とは…

良く言えば個性豊か、また別の表現では協調性に欠ける。

そんな私達、20期生を時には叱り、時には暖かく見守ってくださった先生や学院の方々。

学院生活は私達の長い人生の中ではたったの数年間。しかし、月並みではあるが出会った方々や学院での学びが<人生の宝>になっているのではないかと今思う。



天理看護学院に入学して早10年。

今、私達20期生は天理に残った者、地元に戻った者、家族を築き国々所々へ行った者、そして新たな道を歩んだ者。

様々な道を歩む姿こそ20期生らしさ。

この天理で出会った全ての方々、そして学院で共に学んだ仲間たちに感謝します



第一看護学科 第21期生

平成20年3月7日卒業 (55名)

市川 慶幸	川口 恵理	竹中 旬実	藤原 茜	美野 道子
井上 百恵	喜多 裕美	津森 一重	藤原 明日香	森田 有美
遠藤 寛子	澤井 啓乃	鶴巻 直美	古原 明子	森脇 沙織
大浦 正栄	澤田 絃子	中川 さやか	星野 祥子	山岡 利栄
大塚 慶子	志賀 きよ恵	中野 利香	細木 ちか	山岸 香織
小川 亜希	染川 真美	中山 桃実	細谷 百恵	山崎 麻里
沖 鮎美	高橋 知子	早川 紗耶香	本間 みき	山崎 恵美
小野 恵美	高光 梨佳	林 裕子	牧平 京子	山田 容子
梶川 芳史	高柳 玲子	藤井 沙織	松岡 美綾	山本 優希
金重 繁	瀧平 絵美	藤野 結美	三浦 ふみ	湯川 千加
金丸 朱里	武田 まな美	藤本 江理	皆川 幸美	吉田 真悠



ありがとう天香

飛鳥





第一看護学科 第22期生

平成21年3月6日卒業 (66名)

芦田 紗季
伊井 淑恵
石原 奈緒美
伊瀬 優美
磯部 美代子
市瀬 優理
猪口 みちよ
牛尾 かなめ
内田 優
岡本 康寛
笠松 直子
片野 真亜子
加藤 美妃
川端 翔子

岸本 明子
刑部 なる乃
具志 香里
工藤 佳子
國行 とよみ
黒瀬 美帆
小関 由美子
近藤 ゆかり
坂口 文菜
佐藤 いくの
芝田 ゆたか
清水 旬栄
末長 幸枝
杉浦 裕美子

杉村 寿恵
竹内 由宇子
武田 のり子
田中 茂
玉村 光代
徳田 由理
中川 麻衣子
中島 幸子
中森 もと子
西田 貴美
野中 悠里
橋本 まどか
橋本 美希
長谷川 治美

畠山 万季
花田 治代
濱田 幸世
林 真実
原田 ひろみ
福呂 久美
藤崎 千尋
藤村 きよ
藤村 美穂
藤原 和平
古井 友香
古久保 沙希
本多 理加
前田 文明

松下 春佳
松下 文香
松原 あゆみ
宮田 めぐみ
矢部 洋子
山岡 祥子
山口 めぐみ
山崎 彰子
山下 昇代香
山田 真理子



ここでの3年間は
 他では経験できない
 逃げ出したくなるような
 苦しみと
 数えきれないほどの
 幸せがあった

 苦しみは
 ひとりでは乗り越えることができない
 幸せは
 ひとりでは感じるができない

 この22期生と
 一緒だったからこそ
 苦しいときは 素直に泣けて
 楽しいときは 心から笑えた

 この素敵な仲間と
 この瞬間を与えてくれた学院の
 思い出を
 一生の宝物にして
 この先も一緒に歩いていきたい

 離れていても
 私たちはずっと仲間だから

 これからも
 支え合っていこうね

 看護学科1科22期生



第一看護学科 第23期生

平成22年3月9日卒業 (64名)

荒川 絵美
飯森 拓真
石崎 千浪
石本 恭子
市川 奈津恵
岩瀬 鮎美
大久保 教
小川 理絵子
奥田 恵美
笥 晴雄
片岡 淑英
加藤 典子
加藤 未来
加藤 莉世

鴻野 直美
古賀 由莉子
坂口 知安紀
坂口 真奈美
佐藤 琴美
佐藤 華永
佐藤 春菜
佐野 祥太
志田 幸穂
柴田 朋香
陣内 友絵
末光 泰香緒
菅原 永佳
鈴木 真岐

曾根 まゆみ
高島 清美
田島 愛
高安 暢子
竹内 恵理子
田中 萌
谷口 ゆかり
茶本 祐佳
椿井 智香子
富田 真希
中西 恵美
中西 直子
中野 衣梨
奈良 真美

西尾 麻里矢
西沢 葵
長谷川 朗
畑中 志乃
福岡 優希
福島 弘子
藤村 知広
古田 美里
前川 ほたる
前原 由希
正岡 陽子
松谷 あゆみ
三戸部 真衣
宮越 香

宮里 久美子
村上 初世
本吉 みつ乃
森下 典子
山手 菜々子
山端 実里
山本 彩乃
山元 利菜子

★天理看護学院

23期生★

天理看護学院を卒業し
看護師として働き出した3年以上
たつまじい。学院でのたくさんの
学びがあるからこそ、今の看護師
としての自分がいま、この世に
本当に必要だと感じています。

看護学院の思い出を
再会に思いのほか、
学院で学んだことを
これからも大切に
していきたいと思っております!!!



私たちは 天理看護学院でたくさんの事を学ばせて
頂きました。
看護師としての土台を学院で築けたことは
私たちの「強み」だと思います。
本当に感謝しています。ありがとうございました!!



第一看護学科 第24期生

平成23年3月8日卒業 (48名)

有富 真奈美
石島 佑実
市原 明代
安里 陸美
上杉 里奈
上田 志保
大西 栄理
大藪 愛香
岡田 成未
尾崎 美帆
小野 かおり

梶谷 彩
河谷 順子
河野 千恵
上村 聡子
切手 祥恵
工藤 英理子
興梠 菜緒
坂口 みき
澤田 和歌子
鈴木 智美
瀬口 恵介

高山 智世依
竹下 由希子
富嶋 大地
友田 果那
永松 誠恵
中村 希望
萩村 勇人
花本 江梨
林田 喜世
姫野 真奈美
平岡 明日香

廣正 愛子
藤田 雅美
船越 道代
松岡 南
松本 理沙
御前 沙織
水口 真美
宮岡 紗希
森継 文香
矢鳥 さつき
山下 春奈

山根 和
山本 めぐみ
矢目 綾子
吉野 はるか

開校はさみしいけど
3年間ありがとうございました。

大切なユトたくさん学ばせてもらいました。
たくさん成長できました。
ありがとうございました。

看護・助産学科で出会った同期、
先生方に感謝感謝です。
天看がなくなるのはとても残念ですが、
学院で学んだことを思えば、産婦人科に
ついては強い勉強していきたいと思います。
ありがとうございました。

大切な出会いがたくさんありました。
本当にかげがえのない場所です。
にっかるありがとうございました。

ひとりでスキになって自分がスキになって
天看はあなたの人生を変える3年間をくれました。

看護師としての基礎を学んだ場所
開放になってくれません

天看での学びが自分自身を
大きく成長させてくれました。
有難うございました。

素敵な仲間や先生方と出会えた
最高の場所でした！
天理看護学院ありがとうございました！

学院で看護を学んで
よかったです。
本当にありがとう
ございました。

看護師としてだけでなく、
1人の人間として大事な事を学びました。

看護の大切さ、楽しさ、素晴らしさを
教えていただきました。
本当にありがとうございました。

青春

天一



第一看護学科 第25期生

平成24年3月7日卒業 (55名)

安藤 秋子
井上 莉沙
上田 知実
梅原 志織里
遠藤 有記
村田 ちか子
小川 美代子
奥田 詩栞
勝村 むつみ
上林 ますみ
菊地 亜紀美

楠本 真人
倉石 真由子
小西 三紀
實重 彩
澤井 天希
島本 佳代
下山 真奈
須貝 彩香
杉山 朋子
関岡 葵
田中 佐世

谷 美智子
壇上 安栄
津村 真由美
畠山 善行
廣田 枝理子
長島 育子
長谷 郁美
中野 愛子
中村 有那
中村 実可
西川 美香

西野 悠
野口 晴香
橋本 汐莉
福園 純
福田 真菜
藤本 さとえ
藤原 道雄
測上 綾乃
増田 祥子
松本 つぐみ
宮崎 朋子

宮原 翼
六車 直樹
森 妙子
門口 容子
安川 はるな
安田 理美
吉成 和夏
吉村 夏紀
吉村 まどか
渡辺 ひろみ
渡邊 真奈美



芽
花咲け
なみの心に
あまのこ

期

安藤 和子	真重 彩	長谷 郁美	松本 つぐみ
井上 莉沙	澤井 天希	中野 愛子	宮崎 朋子
上田 知実	島本 佳代	中村 有那	宮原 翼
梅原 志織里	下山 真奈	中村 実可	六車 直樹
遠藤 有記	須貝 彩香	西川 美香	森 妙子
大場 ちか子	杉山 朋子	西野 悠	1月 口容子
小川 美代子	関岡 葵	野口 晴香	安川 はるか
奥田 詩梨	田中 佐世	橋本 沙莉	安田 理美
勝村 ちつみ	谷 美智子	福園 純	吉成 和夏
上林 ますみ	檀上 安栄	福田 真菜	吉村 夏紀
菊地 亜紀美	津村 真由美	藤本 ちとえ	吉村 まどか
楠本 真人	畠山 善行	藤原 道雄	渡辺 ひろみ
倉石 真由子	原 由枝理子	沢上 綾乃	渡邊 真奈美
小西 三紀	長島 育子	増田 祥子	



第一看護学科 第26期生

平成25年3月5日卒業 (65名)

赤羽 はるの
飯塚 望水
石川 みのり
伊藤 祥子
岩佐 優紀
梅本 理子
遠藤 友里恵
大西 みえ
岡崎 よきひ
小川 奈都子
小野 紗也加
梶谷 奈緒
葛木 真乃
萱原 愛子

河村 美樹
木村 知代
小出 芳美
五藤 小春
後藤 裕美
小林 史奈
小松田さとえ
今 あゆみ
坂口 未来
崎山 句子
佐藤 奈津子
白岩 由貴
杉谷 有香
仙田 里奈

高橋 夏実
高橋 観月
高安 法子
田代 彩乃
宮田 恵理
今 あつみ
堤 ふみよ
中村 ひろみ
生江 優衣
西村 一実
阪東 優美
深谷 祐美
福塚 優
福井 優子

藤田 奈央
藤田 有加里
藤本 茉佑子
前川 志穂里
松井 唯
松下 ひろみ
松下 舞
松林 里美
松村 香里
的場 理妃
三阪 ふく子
水野 ひかり
元木 加奈
森継 あや

森原 誠大
安原 つかさ
矢野 さやか
山中 里美
山本 夏世
雪岡 陽子
吉川 健
吉村 瑞紀
米田 麻衣子

26th memories





第一看護学科 第27期生

平成26年3月5日卒業 (68名)

浅田 唯
安藤 沙恵
安藤 沙也香
池田 京子
石上 彩奈
石元 麻美
伊藤 英子
今井 朱里
今中 夢乃
上平 香菜
内田 真由美
内山 浩平
江里口いづみ
大上 愛

大佐古 貴代
大宮 春奈
岡 千尋
岡田 優希
岡本 晃那
奥田 紫真
梶川 郁美
加藤 菜穂
亀谷 薫名
川渕 幸二
川俣 はなえ
岸本 明子
北 弥生
工藤 瑤美

合田 春香
小林 有希
榊 育穂
坂本 厚子
佐藤 瑞紀
下川 佳織
杉本 有紀奈
立花 千絵
秋 由貴
白井 希央子
高山 翔平
辰巳 莉紗
田中 勇也
築地 弥生

釣井 美里
中尾 和世
中越 加純
中林 裕香
西尾 裕里
西本 葉子
長谷部 浪
濱崎 満希
原田 あやめ
伴 芳乃
東 真理
藤田 早希
古川 さとみ
藤村 はな

古谷 隆盛
へん 瑞姫
細川 奈保子
松本 夏紀
松本 奈々
安村 亜由美
山下 紗由里
山下 真央
山田 朱音
山本 喜久子
吉田 安那
吉田 はるみ





第二看護学科 第1期生

昭和44年3月20日卒業 (50名)

遊田 伊玖子
安部 恵子
安藤 みよ
池住 小夜子
石川 治子
伊藤 百合子
岩寄 太基子
臼井 はる子
梅本 近子
江瀬 郁子

江里 絹子
太田 稲子
大山 富美子
尾形 なを子
小笠原 光江
小野寺 悦子
笠原 富代
片山 典子
鎌谷 起久子
岸 陽子

木下 いさ
木原 初美
久保 榮子
小林 美保子
近藤 玉恵
近藤 ひさ子
近藤 三恵
坂本 さと子
佐土 悦子
鈴木 なほ子

高橋 はるみ
田中 里子
田邊 揚子
玉置 憲子
團 すみ子
西岡 利恵
西田 初恵
西山 幸恵
畠中 智代
藤田 小春

細川 アケミ
松浦 まさ子
水野 篤子
安江 照代
保田 清子
柳瀬 由利子
山口 知佐子
山本 和代
吉金 幸子
渡邊 憲子

看護で得た宝物

第二科 一期生 川合 百合子

私の中学時代の進学率はまだ低く、女子は更に低かった。私は『花嫁修業をして、お嫁さんになる。』そう思っていた。クラス担任に将来の夢を聞かれ、『お嫁さん』と答えた。その事がきっかけで、自分は何をしたいか真剣に考える機会ができた。その時出た答えが教育者であった。

当時義務教育であっても、家庭の事情で毎日学校に通えない人が学年に数人はいた。私のクラスも例外ではなく、週2～3回の登校の友がいた。そして、毎日喧嘩をし、皆に嫌われていた。それがとても不思議に思えて聞いたことがある。答えは、『遊んでほしくて近づいているだけだ』という。『休み時間は、次の授業に備えて休んでいる。遊ぶのは昼休みだ。』という。『授業中退屈でしかたがない。先生の言うことはさっぱり分からない』という。それならばと、国語と算数の二人だけの時間割を作り、小学校の中学年ころからの復讐をして過ごした。その後友達との喧嘩がなくなり、楽しそうに遊ぶようになった。これが私の教育者との思いのきっかけになった。しかし、親から進学は許されず、家出のように就職をし、いつかその道に進む予定であった。一年後その夢を持って、天理での学びを始めた。大学に行く予定であったので、学院への進学は考えていなかった。しかし、なぜか学院に進んでいた。それが今の自分を作っている。学院で増本喜枝先生から学んだ『看護の概念』と、その時紹介された季刊誌『総合看護』がヒントになり、『教育者』も『看護』も共通する部分が多い事を知った。また、進学を反対した親の思いを察する機会にもなった。人々の幸せを願う親神様とそのお手伝いとしての看護。今までのことが一本に繋がり揺るぎないものになった。そして、今も褪せることなく私を支えている。自分がどこにいても、目の前にいる人の生活が充実するように、体調を整え、さらに、危険因子の排除・・・等。職種は関係なかった。私は学院で、生涯の自分の役割に気づかせてもらった。もう一つ増本喜枝先生のお姿から学んだ、人への接し方がある。見てないようで看られており、言葉少なく、『ハッハッハ』と豪快に笑われ、そこにはヒントが出されていた。結果的に自分で決め、実行しているような快感があった。更なる挑戦意欲が生まれてきた。そんな不思議な感じが快かった。卒業後は、目の前にいる患者さんに対して、この人にとっての幸せは何か。私にできることは何かを考えた。後輩育成の場では、この人の力は何なのか、どう生かせば伸びるのか。臨床では、スタッフ個々の力は何か。どうすれば効果的に力が発揮され、抱えている人を救えるのか。救うためには何が必要なのか。と、考え歩いてきた。

介護保険第一号被保険者の資格をもつまでの歳を重ねた今、あるデイサービスから誘いがあった。何をするのか不安であったが、三月から月、5～6回の割合で通い、毎日を楽しく過ごしている。今日は、昨日帰宅後に嘔吐をしたという独居男性。一ヶ月前に誤嚥をしていることに気づき、アイスマッサージや飲み込みの姿勢を協力してもらい改善していた。逆流性食道炎も疑い、食後の体勢にも協力してもらっていた。今回の症状は、食道炎か？約一時間ごとに少量の食事を繰り返した。むせも嘔吐もなかった。生活サイクルを確認すると、夕食を食べて、すぐ車で自宅に送っているとの情報が得られた。スタッフも夕食をどうするか考えている様子であった。私の役割はここであろう。スタッフの一人の利用者を看る目を広げること。本人にはまだ不安があるのか『姉ちゃん傍にいてよ』というが・・・・。一週間後どうなっているのか？こうしたことが、私をワクワクさせる。私が学院で得た『生涯の宝物』である。



第二看護学科 第2期生

昭和45年3月17日卒業 (48名)

青木 ナツ子
 青木 典子
 安達 慈由子
 安保 紀美枝
 犬伏 ミチヨ
 井上 佳子
 岩崎 貞江
 岩屋 博子
 植村 悦子
 上山 恵子

浦 まゆみ
 蛭原 愛子
 大畑 美代子
 大本 初子
 奥村 君子
 奥村 富佐子
 加藤 美知恵
 加藤 良子
 北沢 和代
 木村 ともゑ

桐山 紀美子
 小池 啓
 河野 都子
 郡川 昌子
 坂口 正子
 佐藤 正子
 白石 文恵
 関本 幸子
 高松 やす子
 谷口 りう子

富田 すゞえ
 中村 千恵子
 蓮池 豊子
 原田 れい子
 平野 たまゑ
 細見 洋子
 正木 和子
 松本 好美
 丸山 満知子
 宮本 茂子

向井 あき子
 村上 さよ
 本林 敦子
 安井 令子
 山本 悦子
 山本 登志子
 米澤 千葉子
 渡部 八千重

《天理看護学院バンザイ！！2科2期生》

輝いていた 未来を見つめて前進

～母校の思い出～

愛情一杯の教育に感謝

厳しかった学生生活 授業・実習を無事終えた事
夏のキャンプの設営 冬の箱館山のスキー実習と
全て私達に教育して下さいました事感謝するばかりです

蓮池 豊子

一番の思い出はキャンプと野外活動

勉強も天理大学図書館へ通って頑張った学生時代

山川(坂口) 正子

木造校舎・教育熱心な先生方 素晴らしい環境で
育てて頂き感謝しています。

大和(宮本) 茂子

神殿の参拝・ひのきしん・また金剛山や山の辺の道
ハイキング・キャンプファイヤー等楽しい思い出が一杯

河崎(木村) ともゑ

私の人生 天理での看護学生生活が基盤と言っても
過言ではない 苦しかった実習が今では懐かしい！！

前田(高松) やす子

学び舎の賑やかな声 笑顔と親切・勉強心・看護用木を
めざした西棟の実習は私の宝

准看養成所・看護学院・医療大学と前進する母校

小西(白石) 文恵

閉校は寂しいですが、医療大学に託す大きな夢「絆」
夢は育てるもの 夢は叶う

高村(犬伏)ミチヨ

～先生からの励まし～

看護経験もなく 天理を知らなかった私に増本先生は
「何も染まっていない人を教える事が好きだよ」との
一言で卒業できたと思っています

黒見(渡部) 八千重



～偉大なる先生方～

山本俊平・柏原貞夫・雪永政枝・増本喜枝
畑尾操・正木節子・岳山実子・浅田庚子・
鎮守條子諸先生方のおかげで人生の大半を
無事過ごせました。 キャンプファイヤー
スキー実習・ハイキングと思い出は沢山
あります。大切な時期に楽しい思い出を沢山
頂いた事に感謝です

谷(谷口) りう子





第二看護学科 第3期生

昭和46年3月10日卒業 (45名)

青木 正子
阿部 はるみ
蟻芝 綾子
安食 節子
池住 啓子
石田 芳子
植田 富美子
内海 孝子
江坂 保栄
榎本 千佳子

応地 延美
沖 久代
河野 信子
川畑 良子
木村 トモエ
草場 壽美恵
郡川 永子
小海 芳子
古中 るり子
近藤 耐子

佐藤 うた子
佐藤 慶子
澤野 ふさえ
島田 恒子
神 七重
梶木 静代
武田 厚子
田中 郁子
田中 ひろ子
田原 住子

大工 ひさ子
徳重 孝子
長村 多美子
西留 美子
西尾 訓子
野村 桂子
福岡 房子
細江 多恵子
牧野 喜子
松田 郁子

森下 孝子
森田 加代子
柳原 泰子
山下 好江
吉松 さえこ

平成25年5月19日、同級生で同じ助産婦学校に進んだ池住さんと会うために42年ぶりに天理を訪ねた。私達2科3期生は<花の3期生>と称して、元気で個性的な人が多かった。中でも天理の准看・高校を経てきた人達は結束が堅く、外部生の私には近寄り難かった。そんなことを考えながら近鉄電車の車窓から見る風景はなんだか随分変わったように思えた。しかし、改札を出た所で対面した池さんはちっとも変わっていなかった。駅前<秋田屋>という和食店で昼食をいただきながら、42年の歳月などなかったかの様に話が弾んだ。が、母校が閉校となり4年制大学に移行するので記念誌を出すことになっている。3期を代表して、その原稿を書いてくれないかと言われたのは少々驚いた。

私は京都大学医学部付属病院の助産婦科を卒業した時点で天理よろづ相談所病院に帰るはずだった。当時、天理の看護部長であった雪永先生からも再三お手紙をいただいた。しかし、学生運動で一緒だったクラスメート達と産科病棟の3人夜勤を実現するために京大病院に就職した。患者のためのよい看護・医療を目指すには働く人の生活や労働条件も大切だと考えたからだ。以来、不義理を通した私には天理は敷居が高かった。そんな私が記念誌を書くなんて全くふさわしくないのだが結局引き受けた。

食事を済ませて、まず教会本部を参拝した。当時は毎朝皆で参拝していたのに、いつも後ろの方にいたせいか、こんなに間近で甘露台を拝したのははじめてだった。けれども、天理教の『一列皆兄弟』、『働くというは傍々を樂にするごと』、『身体は神のかしもので我々からすればかりもの、心一つが我のもの』、『互い立て合ひ助け合ひ』等々の教えは生きる指針としてずっと私の胸の中にあった。喘息に苦しみ、死を意識した時から『よりよく生きたい』と、いろいろな本を読んだがそれらを集約して平易な表現にするとこのような言葉になるのだろうか。私は神の存在を信じていないが、もしかしたら天理看護学院で学ぶことができたのは神の導きだったのかもしれない。神殿を後に外に出ると、東の方向には青い空に美しい母屋が建ちならび、八重垣の山々に映えて、私は一瞬、京に上った一寸法師のような心境だった。そんな私に池さんは次々と新しい天理を案内してくれた。天理よろづ相談所は入院棟となり、その当時私達の寮だった別所荘新館の南側には外来診療棟が新設。正面玄関から待合に入った時はその広さに圧倒された。次に医療大学となる校内も見学しつつ、今はもう無いあの木造の校舎と寮の別所荘新館を思い出した。クラスメートの面々、増本先生はじめ教務の先生方、舎監の楠田先生、事務の方々や寮でお世話になった優しいご夫婦…。皆々良い方ばかりだった。

逆上って、私が天理を受験したのはナースとしてやっていく自信を失っていたからだった。ナースになろうと思ったのは中2の夏。突然喘息発作を起こし、呼吸困難で死の恐怖を味わったからだ。病気はしばしば人に人生を考えさせるが、自分がこの地上からいなくなる前になにはともあれ、人に役立つ仕事をしたかった。そんな訳で地元和歌山の准看学校に行き、卒後は奈良医大付属病院に就職。夜は敵傍高校の定時制に通った。そこで思い知らされたのは、准看教育だけでは現実に要求される知識レベルに届かないということ。今まで経験したことのない脳外科や脊髄損傷患者、低血糖発作を繰り返す重症糖尿病患者、これら救急で搬送されてくる人達を前に、どうしていいかわからず、不安でいっぱいだった。夜は皮膚泌尿器科の術後患者も含めて60名の患者を2人で看ていた。定時制高校に通いなながらいつも大きなストレスを抱えていた。そんな時、天理よろづ相談所病院のこと、看護界で有名な雪永先生が看護部長として来られていると聞いた。いつも時間に追い回されていた私は一体看護って何だろうと思いはじめていた頃だったので、まさしくそこに答えがあるように思えて受験した。入学できた時は本当にうれしくて学ぶ意欲に満ちあふれていた。2年間の短い間だったが学院生活は充実していた。何よりも講師陣がすばらしかった。どの科目も知りたかった知識と最先端の情報を教えてくれた。また、ナイチンゲールやヘンダーソンの看護理論は『私は何をやる人なのか』を解き明かしてくれた。しかし2年生になってからの実習は大変だった。今までは、経験を基に考え判断・行動する看護だった。ところが、患者の情報を集め分析し物事を理論立て判断、計画、実践、評価、次ぎに繋げていくという科学的な考えや対処の仕方を理解することができなかった。だから何故そうするのか、なぜそう考えるのかと深く掘り下げて考えていく力が弱かった。教務の先生方はそれを徹底的に仕込もうと『なぜなぜ責め』で鍛えて下さった。ヘンダーソンの、<看護の基本となるもの>の14項目を毎日チェックしながらも、その人の疾病による健康のレベルや個性性を考慮して看護計画を立てることは本当に難しかった。

副学院長でもあった雪永先生が看護史の講義の中で、『医師とナースは車の両輪、同じ教育を受けた後、医師を選ぶかナースを選ぶかは各々個人で選択する。そのような教育が望ましい』とよく言われていた。私も同感、それが理想だと思った。また、患者の近くでお世話をする者ほど豊かな知識と確かな技術、深い人間性の持ち主でなくてはならない。と、その頃からずっと今も思い続けている。

スキーやキャンプ、救護ひのきしん、学院祭などの行事も貴重な経験だった。その後、私が助産婦科に進んだ背景には、もともと根暗な自分にはガン患者の看護は務まらないと思ったこと。それに加えて、学院2年の夏休みに友人と奈良県のお寺に併設された知的障害児施設の子供達と1週間ほど生活を共にした体験がある。その上、滋賀県の琵琶湖学園(重症心身障害児施設)の見学なども通して、こどもの出生に係わる過程でなんらかの支援が必要だと痛感した経緯があったからだ。

また、私は結婚後、子供が保育所に入れなかった為に仕事を離れてからは、住民運動やPTA活動、ゴルフ場建設反対運動、自治会活動等々…。その後、50歳で仕事に復帰して今はマタニティヨーガに力を入れている。天理看護学院生の頃は、心ない言葉で人を傷つけたり、人に協力できなかつたり、借りた本を返さなかつたりした私だが、天理で会ったすべての人達や、2年間の私の学院生活を支える経費を担って下さった教団や関係者の方々に感謝してもしきれない思いでいっぱいだった。そしてこれからも私流のやり方だが、助産師として人々の助けになる働きをしたいと思う。私を人間として、ナースとして再生して下さい『天理』に感謝!。夕方少し陽が落ちた頃、天理駅で池さんと別れ電車に乗った。神戸への帰路、なぜかホッと自分を感じていた。42年という長い間、心に溜っていたものがゆくりと洗い流されていくような安堵した気持ちだった。

『天理看護学院』が閉校した後も、<病む人々を助けその方々の心の再生を願う看護師を育てる>という、この精神を受け継ぐ『天理医療大学』に心から熱いエールを送りたい。



第二看護学科 第4期生

昭和47年3月10日卒業〈49名〉

清田 秀子
石原 美佐子
伊藤 佐知代
上田 恵子
大賀 豊子
大塚 紀美
岡部 たけの
柏原 美知子
金 理繪
神田 正美

桐月 順子
栗原 道子
桑村 道代
高口 順子
細美 信江
貞末 礼子
塩澤 千代子
嶋本 眞壽美
白井 万里子
新歩一 美代子

新保 きみ子
杉原 水恵子
鈴木 多美枝
関 千賀子
高木 美代子
高橋 時子
田中 廣子
田中 理子
富田 順子
新井川 佳子

野口 るり子
栞原 なち子
東森 まさ代
久森 やすゑ
日野 タツ江
平位 さかゑ
平田 テルコ
福島 繁子
藤田 みち代
藤原 小枝子

前田 佳緒里
松本 多枝
南 敬子
村上 美千代
村川 三幸
森本 久子
山下 裕子
山本 百合子
吉川 明子

閉校へのメッセージ

天理看護学院

ありがとう

梶木(日野) “鉄は熱いうちに打て”と言われますが、私達は若い時期に良い教育を受けたことに感謝しています。

石谷(平位) 閉校は残念ですが、看護用木の心が変わらないことを願っています。

渡辺(岡部) 現在があるのは、学院でみんなと学べたからです。

楠田(高口) 学院が閉校になるのはとても残念です、でも時代の流れ仕方がないナア。

廣田(平田) 学院で勉強出来たことで、有意義な仕事人生を過ごすことが出来、感謝感謝です。

津川(栢原) 学院の歴史の中の一人であったことに、誇りと幸せをかみしめています。

山崎(久森) 看護用木に育てて頂き、有意義な人生を送っています。(孫7人!)

山下(前田) 仕事・出産・子育て・介護 学院で学んだことが大きな力になっています。

竹田(白井) 閉校は淋しいですが、看護用木の使命は永遠に不滅です。

矢谷(南) 天理看護学院で学ばせて貰えて、幸せでした。

田中(石原) 学院で学んだ日々は、私にとっての青春です。

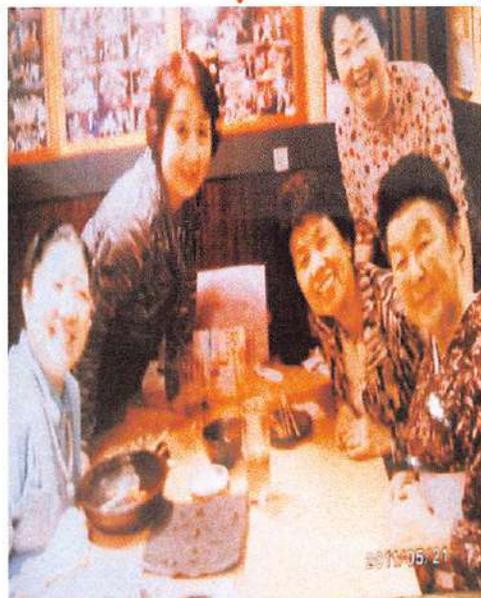
内田(高木) 学生時代はなんとなく過ぎてしまった感じ、もう少し勉強していたらナア。

多田羅(高橋) 家庭的で楽しかった学院生活懐かしい思い出です。

小川(栗原) 学び舎も寮もなくなっと思ったら今度は学校が・・・時代にはさからえないけれど寂しいですね、心のふるさとがなくなる感じ、思い出は沢山あるね。

橋本(貞末) 准看から高看へ進学できて、学べたことに感謝です。

中山(富田) 49名の4期生の顔に会いたいなー、色々頑張りましたよね。



学院の先生・職員の皆様ありがとうございました。担任だった青木先生です



栗林(藤田) 平成25年4月に、勤続40年表彰をいただきました。学院で学んだ看護用木の心で頑張っています。

栗林さん4期生でただ一人、天理よろづ相談所病院で頑張ってくれて ありがとう



第二看護学科 第5期生

昭和48年3月9日卒業 (53名)

阿部 とも子
池田 雅子
一瀬 安恵
井上 洋美
漆館 とみえ
太田 多美子
沖 和子
沖 孝子
狩野 ろく
嘉本 晶子
軽野 友里子

川原 トモ子
桐村 みさ子
河野 夫美子
小林 千代子
阪井 真利子
佐藤 一栄
佐野 栄子
塩田 富美
嶋谷 知子
嶋野 静代
高木 陽子

武田 明子
田中 晴美
築山 俊子
恒川 由美子
中島 由美子
中間 葉子
中村 絹子
長谷 満代
仁科 道子
走尾 禎子
平田 博子

藤井 ふさ子
藤田 美園
藤原 敦子
二村 美恵子
古川 千代子
南本 和代
宗藤 千里
村沢 幸子
森 昌子
矢幡 房子
山口 かず子

山崎 明代
山下 好美
山本 久美子
横山 輝実
吉田 和子
吉村 ヒロ
米田 良子
渡辺 秀子
吉田 恵子

2科 5期生 閉科に寄せて

阿部昌子：法人内の老健で嘱託として勤め、2年目です。数年後、後身に引継ぎがスムーズにできるよう、試行錯誤中です。孫を相手に頭の体操をしながら、身体を動かせることに感謝の日々です。

石脇安恵：相変わらず保育園で孫のような子供達と楽しく過ごしています。これも天理で学ばせて頂いたお蔭と感謝、感謝の毎日です。

市川晴美：26年3月でいよいよ定年退職です。その後は・・助産院、まずは修養科など、思いはたくさんあります。看護用木として育てていただいて本当に良かったと思います。

今西俊子：学院閉科は淋しいですが、未来に輝ける医療大学に期待しています。

岩井秀子：60歳で定年し、2年間ゆっくりした後、昨年10月から近くの産婦人科病院で働いています。毎日が新鮮です。

大貫和代：あんなに忙しい生活、みんながいたから、こんな私でも頑張れたのだと思います。5期生バンザイ。みんなに感謝。見守り、支えてくださった方々に感謝！

神田晶子：消化器内科医院で楽しく、忙しく働かせてもらっています。健康な体をお借りしている事に感謝する日々です。

河野美恵子：容姿も頭も衰えを感じますが、デイサービスの仕事では、周囲の職員に助けられながら、楽しいパート生活を送らせていただいています。准看護養成所の閉所や看護学校の閉科に時代の流れを感じます。

平葉子：憩の家で育成され、定年迄つとめ終えた者として、看護用木の伝統を次世代に引き継ぐ一助として、天理の教えと看護実践を統合した「天理看護論」の構築を試み、発表に向けて準備中です。

富永ヒロ：お地場で看護用木としてお育て頂いた日々、よろこび寮歌に込められた親の思いを心の芯にして、元気に生かされている喜びを実感しています。

長谷川由美子：夫と子供3人に恵まれ、毎日、教会の御用と、ひのきしんに励み、自分に与えられた事、例えば掃除一つでも常に研究心を持ち、深く掘り下げるなど、楽しく勤めさせていただいています。一生勉強です。

畑田多美子：半世紀に渡り、お地場に引き寄せていただき、意義深い人生となりました。感謝のみ。

畑中道子：キャンプ、スキー、修学旅行など思い出は数々ありますが、卒業前に増本先生からいただいた言葉、その時は意味がわからなかったけれど、

藤原敦子：60歳を過ぎたらアチコチ不具合が出てきました。年齢を自覚しながら生きていこう！と再確認しています。

升本良子：現在は仕事、ひのきしん、趣味、家事をそれぞれ均等に忙しく過ごしています。そろそろ「5期生の会」を開催したいですね！

三嶋美園：閉科になることを大変寂しく感じますが、これも時代の流れかと思えます。これからも何事にも前向きに頑張りたいと思えます。

水上みさ子：おもしろかった寮生活と学院卒業後の68病棟・先生方や先輩の方々に助けられ、同僚と楽しく仕事したことが忘れられません。

椋野和子：二部の介護福祉科を定年退職し、法人会計の仕事しながら、通信制大学院、国際社会開発学科で開発学の学研をしています。

森田明子：仕事は現役でで孫は2人います。家族の介護も頑張っております。

柳瀬由美子：房総半島の海（太平洋側）へ車で10分で行ける場所で、デイサービス事業を始めて10年が過ぎました。自然豊かな所で存分に楽しんでいきます。

山内孝子：会長就任から2年が経ち、現在は年祭活動に及ばずながら勤めさせていただいております。後継者が3月結婚し、4月から布教の家へ入り、お嫁さんと二人、教会で頑張っています。

山崎禎子：まだ現役で頑張っています。膝の具合が悪く入院中です。

山下和子：3月に通信制大学を卒業しました。障害及びマネジメント学科で組織と個人のあり方やマネジメントすることを学びました。この頑張りのも、おちばでご指導くださった先生方や先輩、同期の皆様方のおかげと感謝しています。



2011年 准看護婦養成所同窓会総会にて



第二看護学科 第6期生

昭和49年3月9日卒業 (45名)

有村 香代子
砂野 絹江
石丸 悦子
井出 純子
岩崎 芳江
岩本 美智子
岡部 恵子
大堀 二美枝
大脇 伸子
数田 利津子

加藤 幸江
門田 力子
河口 真須子
川田 幸子
川村 孝子
木村 順子
越坂 優子
是木 さよ子
沢田 絹代
重宗 つい子

下境田 ツルエ
杵木 はま子
鈴木 久子
高野 道子
田所 ケイ
田中 郁子
中村 美知子
中村 好子
浪越 栄子
西川 寛子

根来川 早苗
野口 真理
野原 富美子
野間口 久美子
浜岡 光子
藤澤 小夜子
藤田 幸枝
藤田 八重子
松本 よしゑ
三鍋 實恵子

宮本 美津代
紋阪 千代子
渡辺 京子
渡部 千賀子
渡辺 陽子

記憶に残る授業

天理看護学院で学んだ同窓生は全国で活躍し、その学識の高さ、看取りのころは高く評価されています。准看、高校、教会、詰所、よろこび寮により手塩にかけ育成され、さらに学院で学ぶという6年間の育成プログラムは綿密でかつ、崇高な目的をもっていました。それは准看の森本教務主任の凛とした教育から生命に携わるものの厳しさと清楚さ、看護の礎をおしえられ、続いて学院で熟成させるプログラムであったとおもわれます。

当時、世の中は女子の四大進学がメジャーになりつつあり、教内の専門課程への進学は定められたルートに位置付けられ、私は時代にのれない不満をかかえていた。

私達6期生は天理准看卒25名と他、全国より集うた23名の混合学生で構成され背景の異なる新しい仲間は様々な刺激をもたらしてくれた。自分達は至極真面目であるが、先輩達にない期生として、ともすると毛色が違ふととらえられた事は窮屈であった。

新しい仲間と思考錯誤の中、学院でどう学び何を重ねていくのか？と不安がわいた。

ほどなく、それを解消する時があたえられる。増本教務主任の看護総論の授業である。それは米国の反戦映画鑑賞よりはじまった。

戦争により四肢と感覚器を失った将校、ジョニーの物語である。動けず、話せず、聞こえず食することもできぬ、<人>とよべるのかとまで躊躇したほどの残酷さであった。その体はベットにおかれ窓は暗幕で閉されていた。ある時ナースが開けた暗幕の隙間よりさしこむ陽に太陽のなつかしさ、暖かさ、いとおしさを思い出しく自分を確認する。そして必死に自分の意志をつたえるべく 唯一の伝達手段のモールス信号を思い出す。枕に頭をうちつけ、<外に出してくれ人々の前に自分を曝してくれ>と懇願するが、最後の彼の希望は聞き入れられず軍部は彼をおきざりにして出ていった。絶望のジョニーにナースは小瓶に赤いばらを1輪活けた。そしてジョニーの体に指で<メリークリスマス>と書いた。…… 強烈なシーンであった。

鑑賞直後、ショックを自覚する間もなく増本先生の深い声が響いた。

<あなた方は今何を考え、何を想い感じるか>と問うのである。

口をひらけば涙のこぼれるこの瞬間に先生は容赦なくプロとしての確認を求めた。

数人が挙手により答えたが確かに覚えているのは、自分達の進む道の険しさであった。

それは衝撃的な体験で、自らの中より答えを見出さねばならない。生半可な意識では進めない。

今で云う自熱教室である

准看で学び、病院で実働してきた我々だからこそ鑑賞直後にその問いにこたえる責任があったのだろう。……この様に学院ではそれまでとは違う切り口で看護に携わる気持ちがあるのか、どう動くかをどしどしプッシュされる。自立を狙った学びであった。

看護に携わる者への覚悟を試された時期であったと考えます。

2科6期卒

井上 順子 <木村>





第二看護学科 第7期生

昭和50年3月11日卒業 (43名)

赤瀬 実恵子
 秋永 津久美
 石栗 千賀子
 岩倉 恵美子
 遠藤 政枝
 岡平 好子
 小原 操
 岡本 美智子
 門脇 久子
 上山 みよ子

河岸 道世
 河田 みきえ
 川邊 順子
 金星 君子
 工藤 節子
 上妻 敬子
 小谷 愛子
 桜井 澄子
 佐藤 とよ
 高橋 愛子

多田 礼子
 谷 博子
 土居 登茂子
 鳥谷 はる美
 中松 美紀子
 中村 坂江
 中本 加壽美
 西尾 千代子
 野津 次
 馬場 清美

藤井 美代子
 帆足 和子
 細山田 千恵子
 堀江 美代子
 増田 たま江
 宮垣 朱美
 三村 英美
 森川 ふく
 山下 まゆみ
 矢目 とよみ

吉岡 里美
 若松 繁子
 吉村 誠

拝啓

立教176年の9月4日。

中村次さんから頼まれていた原稿を、締め切り間際になって書いています。

「月日は百代の過客」、はやいものであれから40年。

泣いて笑って旅人のように通り抜けたあの頃を、今懐かしく思い出しています、皆さんお元気ですか。

男子生徒第1号のまこっちゃんです。

あれから40年。

バスケットの授業後、その顔で『あなた、私のお乳、わざと握ったでしょ』とまじで血相を変えた〇〇さん、『おけんきーー』。

「老婆は一日にして成らず」、きつと張りのあった〇〇さんもあの人もこの人も私と同じように加齢なる変身をなさっていることでしょう。

上がるは血圧・血糖・尿酸値。

身体はだらりと下がりんこん。

『喰って寝て そろそろ私も 出荷（出棺）時期』・・・。（^_^;）

看護師は18年前に廃業しまった私ですが、みんなのお蔭で、私は私としてなんとか今を生きています。

「赤瀬・秋永・石栗・岩倉・遠藤・・・吉村・若松。」「・・・・・・・・」

「あら、また、ずる休み」

仏の田邊・阿弥陀の大山教官の出席・点呼の声が聞こえてきます。

みんな、兎に角元気で長生きしてください。

敬具

天理教東宇治分教会 吉村 誠



恩師

増本先生へ送った絵手紙。

懐かしいこの校舎の音楽室で、初めて歌わされた学院歌

「集う乙女達」という一節には、おーじょーしましたで。

山本寿太郎先生・・・・・・・・。

数年前のミニ同窓会の帰り途、教会に寄ってくれました。

みんなとても喜んでくれたので、嬉しかった。

あれから40年。

映画・フォレストガンプの一場面が頭に浮かんだ私です。

『人生はチョコレートの箱のようなものだったよ。何が出てくるか分からないからね。』





第二看護学科 第8期生

昭和51年3月9日卒業 (51名)

秋本 寿実恵
雨窪 しげ子
安藤 清子
伊藤 陽子
井本 和代
泉 紀代香
市原 千珠子
今村 律子
恵良 洋子
加藤 典子
加藤 文子

梶川 一枝
川崎 夕起子
木戸 鶴子
北出 明美
久保 貴代美
黒木 智英
黒坂 佳代子
黒田 裕美
小宮 洋美
根田 笑子
齋藤 善子

柴中 善子
瀬川 富美子
田中 恵子
田山 廣子
高橋 智美
玉木 早苗
徳永 幸子
富永 京子
中田 節子
中野 昭子
永江 悦子

長谷川 敦子
平石 富子
広岡 てるえ
藤井 美津枝
藤田 浪江
藤原 和美
堀出 則子
松尾 拓也
松崎 泰子
松崎 陽子
丸山 香代子

水谷 千鶴代
南 陽子
森 常代
山倉 幸子
山畑 敦子
山端 順子
吉田 八須子

原稿を頂いた同期生の思い出のひとつです（あいうえお順）

【植本洋美】准看の臨床経験と講義内容がつながり、充実した2年間だった。廊下を走り増本先生から立たされたこと、学院長の柏原先生に追試験の承認印を頂くため病院の秘書室に通ったこと等が心に残っている。

【大西洋子】実習レポートがなかなか書けず苦勞しました。今も記録は苦手です。

【岡 廣子】学院で増本先生に出会い、「看護とは」について真剣に考えさせられると共に、講義では一般常識に疎い私達の事を思い、怒って教えて下さいました。また、他校では出来ない図書館を設けてたくさんの本を揃えてくださったり、そんな素晴らしい先生に出会えて幸せだったと今も心に強く残っています。

【梶間敦子】私達八期生2年次は「教祖90年祭」の年であり、卒業直前まで救護ひのきしんに励みました。学院生活は講義や実習に限らず、行事・自治会活動等どれもが看護観の素地となったことに、感謝しています。

【河原林和美】37年間ずっと看護の道を歩み続けてきたが、ゴールがそろそろ近づいてきた。いきいきとした職業生活を送ってこられたことを幸せに思う。時代が変化しても決して変わることのない看護の心をずっと大切に磨き続けてきた。その原石を築いた天理での学びに心から感謝している。机上の学びだけでなく、先生・先輩・指導者・患者さん・同期生、全ての人との天理での出会いが私の看護師としての原点である。

【城内貴代美】天理高校二部から学院に入り、時間をどのように使ったらよいかと思うほど長く感じましたが、野外活動、ギター、バレエ等と楽しい日々を過ごしました。勉強はあまり印象に残っていませんが、今は時間に追いまわられています。嬉しいことです。

【遠山陽子】私の一番の楽しい思い出はスキーに行けたことです。スキーは初めての体験でした。現地までスキー板を持って電車に乗って移動しましたが、ウキウキした同級生の顔が浮かんできます。現地では格好の良い天理大学の先生にグループごとに指導してもらい、滑ってこけても嬉しくて楽しくて、笑ってばかりでした。経験者が、滑れない私達の横を何度もスイスイ滑って行くのを尊敬のまなざしで見ていることも思い出します。今も滑れませんが、スキーは大好きです。良い経験をさせて頂いたことに感謝しています。

【長江智美】黒光りした木造校舎の廊下、階段、丸くすり減った手すり、菅平での初めてのスキー体験、そして実習で助けてくれたグループの皆、2年間の学生生活は私の人生の宝物です。

【中崎千珠子】実習はとても楽しく、ベッドサイドにはどんどん行けるのですが、記録が思うように書けず、大変苦勞したことを思い出します。観察・情報収集・記録・報告がいかに大切かを学ばせて頂きました。

【中島香代子】学院時代は、ギタークラブで「アルハンブラの思い出」を練習していたことが印象に残っています。そのおかげで今も音楽を続けています。

【中西八須子】学院時代は、山田教育キャンプ場でのキャンプが懐かしく思い出されます。

【西浦敦子】初めてのスキー教室より、独身時代は毎年スキーへ。いつも皆と一緒に、楽しく嬉しかった。

【松尾拓也】閉校に当たり、育ててくださった学院には感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難うございました。確か昭和52年に、教務に看護大学卒の教員が着任された記憶があります。これからは大学卒の看護師の時代が本格的に始まろうとしています。学院の精神は脈々と受け継がれていってくれるものだと思っています。

【間宮浪江】海上先生の授業のロールプレイングで、患者さんの気持ちを理解することの重要さと、看護師の言葉の大切さを学んだことを印象的に覚えています。

【吉田文子】その人の立場に立って物事を考えることの難しさ、命の尊さ、生きることは・・等々、悩み迷った実習が一番思い出されます。初心忘るべからず。支えてもらった恩師、仲間感謝しつつ、今後も看護用木として頑張りたい。



第二看護学科 第9期生

昭和52年3月10日卒業 (28名)

青木 ひとみ
井尾 美代子
加藤 恵子
川田 あきよ
菅野 八重子
桐山 美子
小川 喜代子
佐藤 郁子
杉本 康子
田中 美喜子

滝井 あきえ
谷垣 ひとみ
千葉 道代
中上 晴美
永岡 奈由子
長谷 千鶴
西内 恭子
西村 よしえ
長谷川 美菜子
播本 操

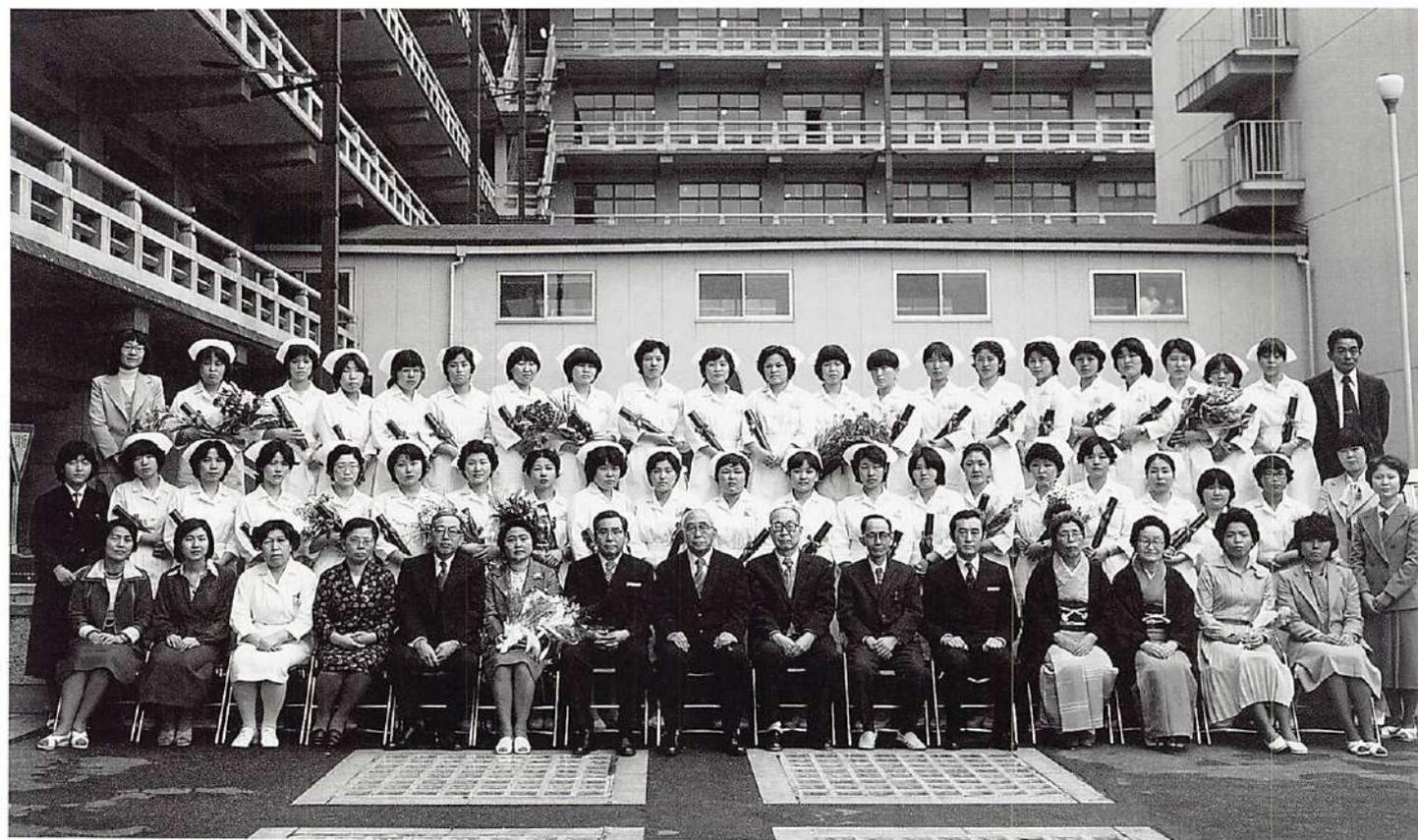
福島 豊子
松井 敬子
松葉 三津子
宗村 恵津子
山縣 さなえ
雪岡 とき恵
余村 和子
和田 繁子

9期生 ともしびの会 系書

氏名(旧姓)	
荒川 敬子 (松井)	元気に過ごしています。卒業してもう40年近くになるのですね。最近、同級生と昔に戻って遊んでいます。
有井美代子 (井尾)	皆様お元気ですか！私は今年3月東北太平洋沿岸を一人旅しました。東日本震災後2年、ガレキの山はほとんど撤収されたものの復興には程遠いものを感じました。震災直後、日本は復興を目指し一つになると思ったのは私だけではなかったと思います。しかしどうでしょう？ 1年経ち2年経ち・・・旅を通して感じた事は決して風化させてはならないという事でした。天理同窓生として何ができるのかと考えた時、義援金箱の設置を提案することでした。皆様と共に東北復興のお役に立たせて頂ければ幸いです。9期生の皆さん！！チバちゃんとの約束覚えていますか？ 還暦の祝いは仙台で！一人の欠席もなく仙台に全員集合ですよ～！！
有園あきえ (滝井)	みなさんお元気でしょうか。私は毎日暑い中、訪問看護のため駆け回っています。年と共に健康管理の重要性を感じる毎日です。
菊池 恵子 (加藤)	同窓会通信、山中学院長のご挨拶を読みいよいよこの時が来たのだなあと思いました。私は長年勤めた病院を辞め1年が経ちました。開放感に浸り疲れもスッキリ抜けてしまいました。気持ちも新たにこれからの事をゆっくり考えていこうと思っところです。
鈴木あきよ (川田)	H25年9月1日、健康管理室に異動になりました。今までの業務内容と違う事も多く、日々勉強中です。また救護ひのきしんがいかにOBで支えられているかも良く分かりました。OBの皆様ありがとうございます。現在の健康管理室(南別館)は学院卒業後、最初の勤務先 総合病棟(34Ns,44Ns)のあった棟なので懐かしく思っています。
田浦 恭子 (西内)	天理准看、看護学院で過ごした月日は私の宝です。
高橋八重子 (菅野)	皆様ごぶさたしています。お元気でしょうか。私は特別養護老人ホームでスーパーバイザーとして介護職の指導を行っています。人に教える事って難しいですね。当時の先生方には本当に感謝しています。
千田 道代 (千葉)	天理を離れて33年経ちますが、これまで仕事を続けて来られたのも天理で育まれたひのきしん精神を心の支えとしてきたからです。共に歩んだ仲間は私の宝です。天理看護学院バンザイ！！
中野 康子 (杉本)	お地場でお育ていただいた尊さを人生の後半になった今、一つ一つ丁寧に返せたらなあって考えています。思い出多い母校が閉校するのは寂しいですが医療大学として生まれ変わり看護ようぼくの使命を担う人材育成が引き継がれていくことを信じています。
森下奈由子 (永岡)	皆様お元気で過ごしていますか？私は今、リハビリ病棟で働いています。木造校舎で過ごした学院、ピカピカ、ツルツルの手すり、廊下階段。今も心に残っています。それと仲間は宝物になっています。
山崎 豊子 (福島)	9期生の皆様お元気ですか？私は妻、嫁、母、祖母+α 役割が多く毎日、元気で働けることに感謝して生活しています。また会いたいですね。
雪岡とき恵	ご無沙汰しています。魂の故郷であるおちばでお育て頂いた日々。この貴重な日々を後々まで伝えていけるようにこの思いで感謝をしながら通らせてもらっています。
大森 繁子 (和田)	わが9期生「ともしびの会」は永久に不滅です。ともしびの会は9期生クラス会の通称名で名付けの親は千田道代さんです。卒業しても末永くゆ〜ら、ゆらと炎を灯し続けようと誓い合ったのでした。名誉会員には担任の高石先生をはじめ河野としさん、三柘かよ子さん、久保永子さん、大川君ほか多数の方がおられます。開催の案内が届いた時には是非ともご出席ください。

お世話になった教職員の皆様ありがとうございました。
同窓生の皆様、今後ともよろしく願いいたします。

感謝



第二看護学科 第10期生

昭和53年3月10日卒業 (40名)

青山 京子
赤瀬 真子
井場 珠
石原 弘美
岩崎 真弓
大久保 美代
大田 容子
亀山 喜三子
軽野 純子
木下 照美

河野 町子
小林 喜代子
四辻 恵子
柴中 時子
嶋貫 喜恵子
島根 道枝
白川 和代
関口 とき子
瀬藤 三枝
関谷 教子

田口 秀子
田所 由紀子
田中 康子
田村 伊佐江
中島 洋子
中田 恵美子
長森 真砂子
野口 登志子
浜田 なる子
平岡 恵美子

深見 芳子
細木 美寿
蒔田 悦子
松本 和子
水谷 直子
奎野 玉江
山田 理代子
山本 喜久子
山本 恵子
渡辺 敏子

2科10期生

天理での学校生活は青春そのものです。天理に来て本当に良かった。今でも天理に住みたいくらい！先生も友達も全てが青春時代の良き思い出です。

福島時子 (柴中)



看護学院が閉校になることは寂しい気持ちでいっぱいです。私の原点、基礎をたたきこんでくれた学院です。地元に戻り、役に立ち感謝しております。

渡邊照美 (木下)



25年程総合病院で勤めた後、今はリタイヤし静かに過ごしています。長く管理者として勤めさせていただけたのも、学院での学びがあったからこそと感謝しています。

杉浦直子 (水谷)

学院生活の中では教職員の皆様、同窓生の皆様、多くの方々のお世話になり、感謝いたします。学院の卒業生であることを誇りに日々、励まさせて頂きたいと思います。

安崎美代 (四辻)

私は子供も自立し定年まであと2年半、老後も続けられる趣味など楽しみながら、おかげさまで元気に働いております。

磯部洋子 (中島)



現役で頑張っています。60歳を前にこの職業が私にとって天職となり、長く続けていることが嬉しく思います。学院で学んだこと、おちばの教え、いつもありがたく感謝しています。

山田真砂子 (長森)



在学中大変お世話をかけ感謝の気持ちでいっぱいです。こうして仕事が続けられ、子ども達も成長し長女は6/24出産、私もおばあちゃんとなり親の気持でこうだったのかとしみじみしています。

安宅京子 (青山)



老健施設で頑張っています。定年まで頑張るつもりですが、体は正直で…皆さんに会える日を楽しみにしています。

濱口理代子 (山田)

天理看護学院で看護の基礎教育を受け、憩の家で看護ようぼくとして先輩や後輩と共に働き続けられたことに感謝しています。閉校になる事は寂しいですが、次世代を担う看護師育成が看護大学に移され、その人たちと一緒に看護を語る日も間近です。定年までもう少し看護を楽しんでいこうと思います。

岡田三枝 (瀬藤)

看護学院を振り返ってみますと、教務の先生方をはじめ、たくさんの講師の方々に素晴らしい講義や教育を受けさせて頂いたんだと思います。ありがとうございます。一般教育やスポーツ等色々な事を与えて下さった2年間だったと思います。

藤野恵美子 (中田)



卒業して早いもので35年が経ってしまいました。学院で学ばせて頂いたことは色々ありましたが、「人様に喜んでいただきたい」に尽きるように思います。学院は閉校になりますがその志がより高い専門性を持ち発展されますようお祈りいたします。

松尾由紀子 (田所)



学院の思い出は楽しいことや苦しいこと色々あったけど先生や同期に支えられ卒業の日を迎えたことを思い出します。2科27期生が最後の老年看護実習に来ており、患者様と一生懸命向き合っているのを見て、こういう時代があった事を懐かしく思い出して育てて頂いたことに感謝しています。

村井康子 (田中)



もっと勉強しなくっちゃ！と思い、入学した学院。新たな知見、そして患者中心の看護とは…とても刺激的だったことを思い出します。その母校に教師として28年在籍しました。どれだけの役割が果たせたのかわかりませんが、看護師としても育てて頂いた母校に感謝の気持ちでいっぱい。天理看護学院は閉じられるが、その「こころ」を卒業生の一人として発展させていきたいと思っています。

大田容子



私の母校が閉校になるの



は、非常に寂しいです。特にあの古い校舎で学んだことが懐かしく思い出されます。私は今も看護師として元気に働かせていただいています。本当に、本当にありがとうございました。

藤本恵子 (山本)

今は西洋医学からホリスティックな健康学(心・食・運動・休養)へと方向転換し、そのため勉強しています。

丹羽真弓 (岩崎)

閉校はとても残念です。先輩看護師、後輩の皆さま方の御尽力の賜ですね。ありがとうございました。

中村秀子 (田口)





第二看護学科 第11期生

昭和54年3月10日卒業 (61名)

飯尾 通子
石川 優子
稲村 道子
井上 純恵
井上 照子
ガイツイカホン
遠藤 恵理子
小野 ひとみ
小山 徳子
大城 直美
太田 真由美
岡田 幸子
落合 利子

落合ひろ子
加来 真理恵
角石 昌子
亀谷 真知子
九石 和子
黒岩 優子
河野 八重
河野 芳枝
小西 栄子
佐伯 さよ子
佐藤 直枝
斉藤 理恵子
坂口 つよ子

坂口 美和子
沢村 由美
志賀 真理子
柴原 真弓
清水 祐子
下岡 友子
下岡 尚子
下田 桂子
谷垣 峰子
玉置 真澄
土屋 伸子
徳本 秀子
豊栖 和子

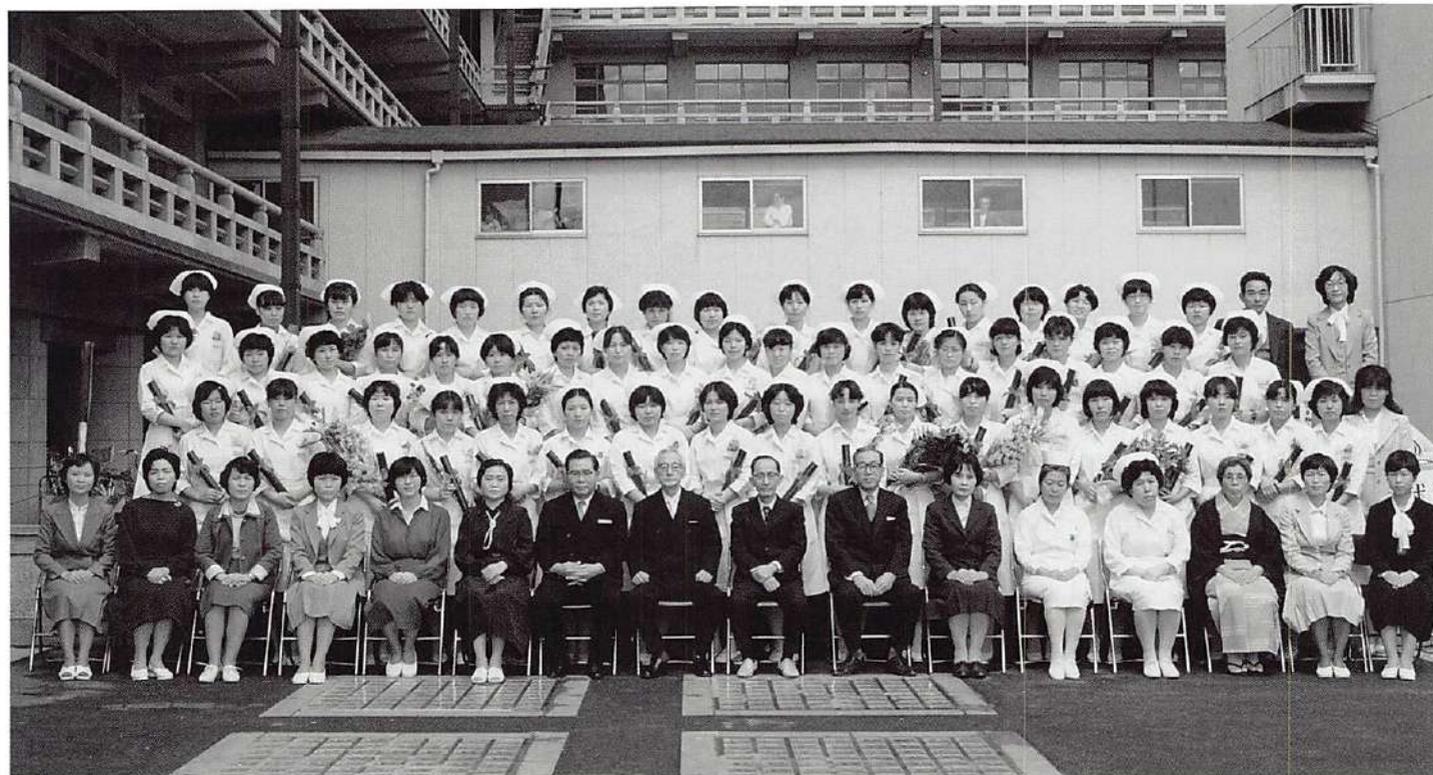
土井 江利子
中 優子
中野 美津恵
西垣 久美子
西川 邦子
西山 三千代
沼田 真理子
能代 道代
林 操代
久田 菜穂美
福井 敬子
福田 良子
藤村 美智子

前田 春美
増本 多香子
丸山 佐恵子
三木 生恵
森井 菜穂子
安江 広子
山川 正江
山崎 典子
山本 瞳

11期生 つながり human relationship

同窓生の皆様、11期生の皆様お元気ですか？寄稿文を依頼されてから引き受けたものの、ケーススタディの発表（講評）、戴帽式の意義、学生との面談、看護教員実習の受け入れ等日々忙しく過ぎ、遅れてしまい申し訳ありません。頼みの綱は11期生の仲間。メールにて、11期生の思い出一言メッセージをいただきました。石郷岡和子さんより「11期生のみなさん お元気でしょうか。早いもので私達も50代半ばになってしまいました。でもまだ働けそうです。ゆっくり、もう少し頑張っていきましょう（と自分にいきかせつつ・・・）」高江洲芳枝さんより「11期生の思い出は沢山あります。私の生きてきた56年間で1番強烈かも！凝縮した6年間だったんだなあと思います。」藤本由美さんより「11期生、人数が倍に増えて(80名)出来、不出来が目立ったのか。できの悪い期生って言われたカナ？個人的には、まとまって何かをしようというより、できる子や頑張る子もいれば、反対に何もしないでも何とか過ごせたかな？友達も仲はいいけれどあまり話さない子もいたかなあ？という印象でした。」山下真弓さんより「歳を重ね、体力低下気味ですが、自分で自分をコントロールできる気力はあり、何とか元気でやっています。みんな同じ思いでしょうか？できたらこんな他愛のないおしゃべりがしたい心境です。」他愛のないおしゃべりの、卒業してから改めて考えると35年も月日が流れていますが、11期生に会えば当時と同じ気持ちで話しています。高江洲さんという年代ですが、今でもヨッチと呼び、東京方面で学会があると「お泊まりよろしく」と言って宿泊させてもらったり、和とは、落ち込んでいる時等メールを送ったり、美味しいおうどんを希望したり、由美ちゃんとは、主人同士が友人なのでいつでも会え、会話の時に、主人がいても「土井」と言われています。真弓は、福岡で入試の際毎年会え、その時下田さんにも会うことが出来、小野ちゃん坂口さん由美ちゃんと小児病棟時代の岡田師長さんの所へ会いに行きました。学校関係では、奈良県小児看護学研究会の時、8期生の城内先生、18期生の鶴巻先生、西澤先生等同窓の方と研究をしました。同窓生のお子さんが入学され入学式で亀さんや上奈さんに会え、学内も後輩2人(三村先生・中川先生)とともに教育に携わっています。また、去年より奈良県看護教員講習運営委員会では、恩師の高石先生と一緒に活動させていただき当時を懐かしく思い、学生に戻っている時があります。奈良県内で、勤務していると同窓生の方といろいろなところで繋がりができ、同窓生の方が学会誌等に載られ活躍されているとうれしく思います。少子高齢社会4人に1人、老年の方でしめる現在、2025年(12年後)には、団塊の世代約700万人が75才を迎え、受診率が外来、入院共に急激に高まる事が予測され、47万人の亡なる場所がない状況があるという。私達の老年期は、老々介護や看護が当たり前の時代となり、ますます看護師の需要は大きくなります。今後も皆様の御活躍に期待いたします。私も微力ながら、我校で卒業してよかったと思える学生を輩出し、社会の中で活躍出来る看護師教育をしていきたいと思えます。家庭を持ち、仕事をしていても、友人は一生の宝物、特にこの時代に出会い寝食を共にした仲間の繋がりは、強く大切な存在です。感謝・感謝しています。(数年前の私達?と千葉先生) 熊谷江利子





第二看護学科 第12期生

昭和55年3月10日卒業 (56名)

愛須 けい子
 安藤 まゆみ
 壺岐 里恵
 市瀬 満里子
 石名 みつ子
 内田 和子
 岡崎 祐子
 奥田 市子
 鍛冶山 智子
 亀山 裕子
 川崎 三千子
 木村 陽子

小古井 恵子
 小林 路子
 小堀 美津江
 佐藤 千枝
 坂上 弘子
 島本 昭江
 下野 なる子
 新川 ひろみ
 園田 久美子
 力石 ひろみ
 津森 正恵
 辻 久美

堤 美津江
 得能 道代
 中上 照代
 長岡 京子
 中西 元子
 夏伐 幾子
 新田 美幸
 野中 千鶴子
 羽田野 道代
 箱崎 真実
 橋本 則子
 濱松 千奈美

林 昌代
 廣尾 美千代
 廣瀬 美津恵
 藤田 陽子
 船垣 恵美子
 丸山 ひとみ
 宮久保 明美
 本林 美幸
 矢田 明子
 山内 千寿
 山岡 幸子
 山垣内 浄美

山地 晴美
 湯本 玲子
 横山 めぐみ
 吉田 順子
 加来 しのぶ
 徳重 照子
 山口 明子
 山田 正子

名前	コメント
石本和子	ディサービスのチーム長で仕事しています。現場と管理者の仕事とで力以上のオーバーワークで大変です。
仲西道代	元気です。相変わらずパートナーズ・委託で訪問助産師を微力ながら続けています。
廣澤美幸	
無記名	ディサービスで働き始めて2年目。まだまだ勉強中です。先日は「若い利用者さん」と間違われてがっかり(笑)でした。
壱岐里恵	暑いですが、頑張ってください。年々年を感じる今日この頃です。
亀山裕子	「久しぶりに出席させていただきます」・・・と思っていましたが、すみません。セミナーと重なりますので、欠席させていただきます。
上奈照代	本年1月から病棟師長として奮闘しています。よろづ退職後は長年外来勤務でしたので、一から勉強しています。
久保ひろみ	休みの都合で参加できなくて残念です。近くの病院の療養病棟で勤務させて頂いています。元気に働かせて頂ける事に感謝の毎日です。
安藤正子	親子共に年齢的現実を実感し、心身共にチョッピリ苦悩している現状です。
河内明子	孫も二人になり、本当に可愛いです。私自身、持病と付き合いながら一日でも長生きしたいと思っています。健康が一番ですね!!
平木道代	教会の御用と看護師をしながら頑張っています。孫もでき、とても充実した日々をおくっています。出席したいのですが、出来ません。残念です。
石田ひろみ	今年4月に早期胃癌で手術を受けました。皆さん、検診を受けてくださいね。
吉川久美	保健婦として市役所で働いています。学生時代が懐かしいです。看護師として勤務した67病棟時代や学生時代が、私の今の礎だと思っています。
谷口玲子	元気にしています。次回と同窓会には参加させて頂きたいと思います。
日浦真実	市役所での仕事も23年目となりましたが、日頃は夫婦二人でのんびり過ごしています。
林田千寿	孫4人を与えて頂いて、幸せな日々をおくらせて頂いてます。腰痛、股関節痛で辛いですが、教祖130年祭に向かって頑張らせて頂きたいです。
丸山ひとみ	介護の為、しばらく仕事から離れておりますが、元気にしています。
夏伐幾子	昨年引越して住所が変わりました。よろしく願います。同窓会に携わる皆様、お忙しい中、いつもありがとうございます。
駒木みつ子	12期生の皆様、お元気ですか？そろそろ・・・いや！！まだまだ訪問看護に頑張っています。



第二看護学科 第13期生

昭和56年3月10日卒業 (56名)

伊藤 英子
板井 久美子
板谷 清子
今谷 小雪
植田 恵子
上田 由美子
小谷 ふみ子
大佐古 孝子
大野 祐子
岡田 真里子
岡田 由紀子
岡本 恵理子

柏田 安美
木口 志津子
後藤 くみ子
佐藤 文子
坂井 きよ
坂口 直子
阪本 秀子
澤田 みどり
清水 富士子
篠崎 真理子
鳥貫 美紀子
下田 美喜恵

障子 幸子
白神 敬子
菅井 吉永
菅原 宏子
鈴木 三千代
関 理恵子
関本 貴美子
田中 政子
田邑 寛恵
高木 公仁子
南雲 昌代
中屋敷 光子

中山 やす子
西岡 美代子
西窪 世津子
新田 道代
平山 陽子
藤墳 たつみ
古川 ひろみ
松井 恵子
松野 直美
三浦 直子
三好 広子
満園 道子

森川 のり子
森脇 恭子
安江 千代子
安江 みさ子
山口 ひろみ
吉田 栄枝
吉村 一子
渡邊 八百子

2科 13期生



▲ 写真1

同窓会生のみなさま。いかがお過ごしですか？同窓会生としましては、とうとう「天理看護学院閉校」が現実となるのがとても寂しく残念です。ですが、「たくさんの思い出」がありますからそれを頼りにまた頑張っていかなければならないとあらためて思っています。一人ひとりの思い出をまたゆっくりと語り合いたいですね。

弘中 文子

天理看護学院を卒業して32年の歳月が流れ、建物が木造から鉄筋に変わり、学校名も天理高等看護学院から天理看護学院へ変わりました。

多くの先生方、学友と過ごした多くの思い出のある学校がなくなる寂しさはありますが、人との関わり、看護のよこび、楽しさ、つらさを感じながら卒業後も看護を続けてこられたのは、学院での学びがあったからだと思います。学校はなくなっても看護のこころは私たちが受け継いでいきたいと思ひます。ありがとうございました。

加藤 孝子



▲ 写真2

学院が閉校します。なかなか実感がわきませんが・・・。

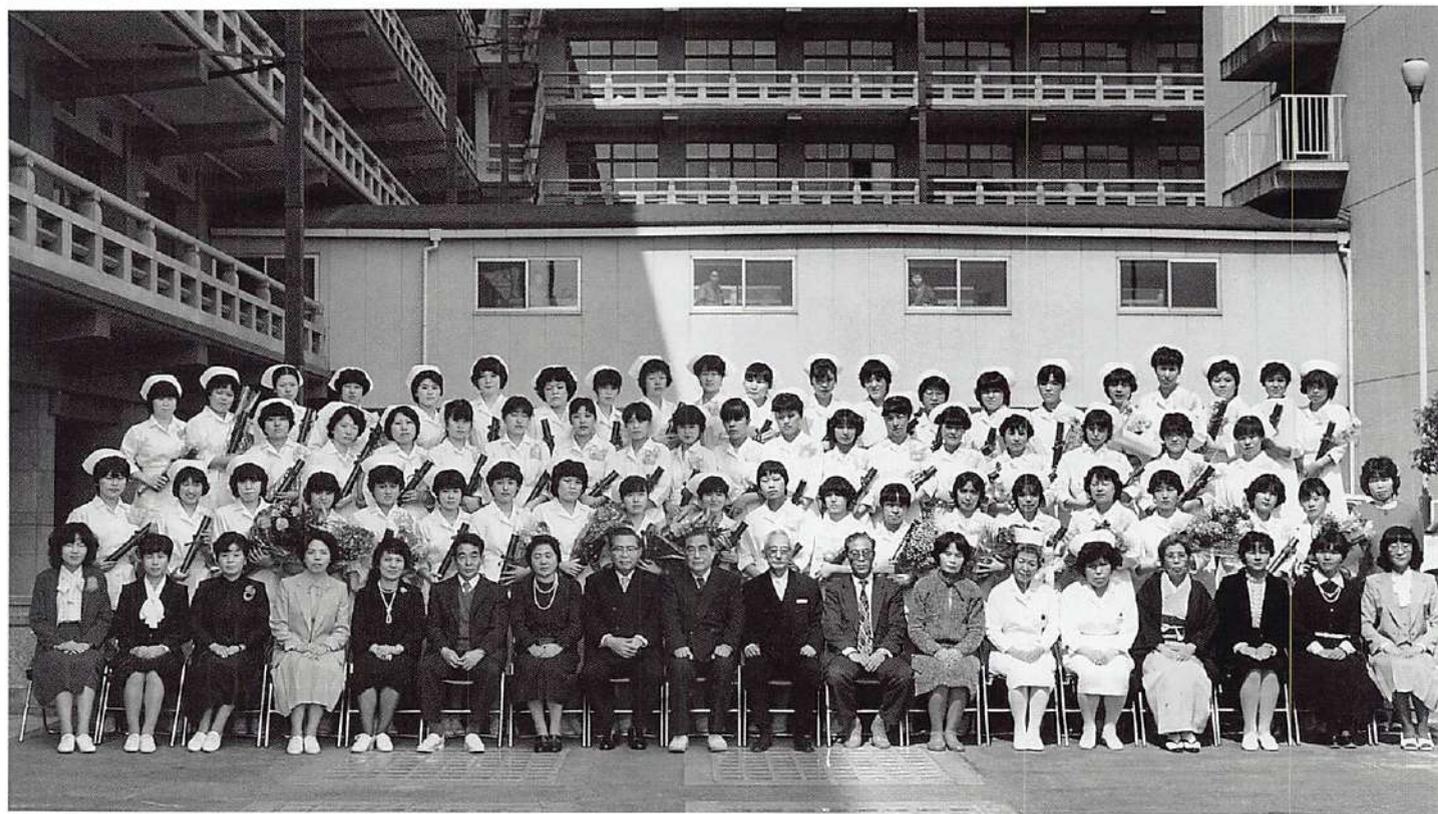
憩の家に残った私たち3人は諸先輩のご指導、後輩たちの助けで今まで過ごしてきました。体力の限界をそろそろ感じながらもこれからも天理の看護を続けていきます。

畷川 直子

最近おちばがえりをした同級生が集まってプチ同窓会を催しています。

“おとなおちばがえり”です。皆さんの参加をお待ちしています。

その催しに時々看護ようぼく2世が参加しています。写真2にも写っています。わかりますか？



第二看護学科 第14期生

昭和57年3月10日卒業 (57名)

池田 清子
池田 憂子
石井 浩江
石本 玲子
上田 早苗
上田 雅子
上田 陽子
馬越 節子
小沼 富貴子
大竹 裕子
奥 明美
音津 京子

加藤 久美子
加藤 優子
狩野 奈美恵
河内 美紀子
川邊 浩子
木浪 睦子
木船 郁子
木本 さえこ
小出 和恵
後藤 菊子
小中 千代子
小中 裕子

五味 奈穂美
佐藤 恵理子
菅邊 悦子
関谷 久美子
田中 早百合
田村 治代
高田 貞
高橋 文子
高山 直子
丹波 美由紀
永井 理佳
中島 栄子

仲村 孝子
野上 和代
野津 佐和子
馬場 加津子
橋下 美乃里
橋本 奈美栄
福田 厚子
船曳 陽理子
松島 恵美子
丸木 理恵
丸山 明子
本石 やよい

守井 浩子
山根 俊恵
山本 小百合
山本 律子
世登 洋子
吉川 恵子
吉原 みどり
渡邊 敬子
渡邊 幸代



2科 14期生から看護学院に感謝のこぼ

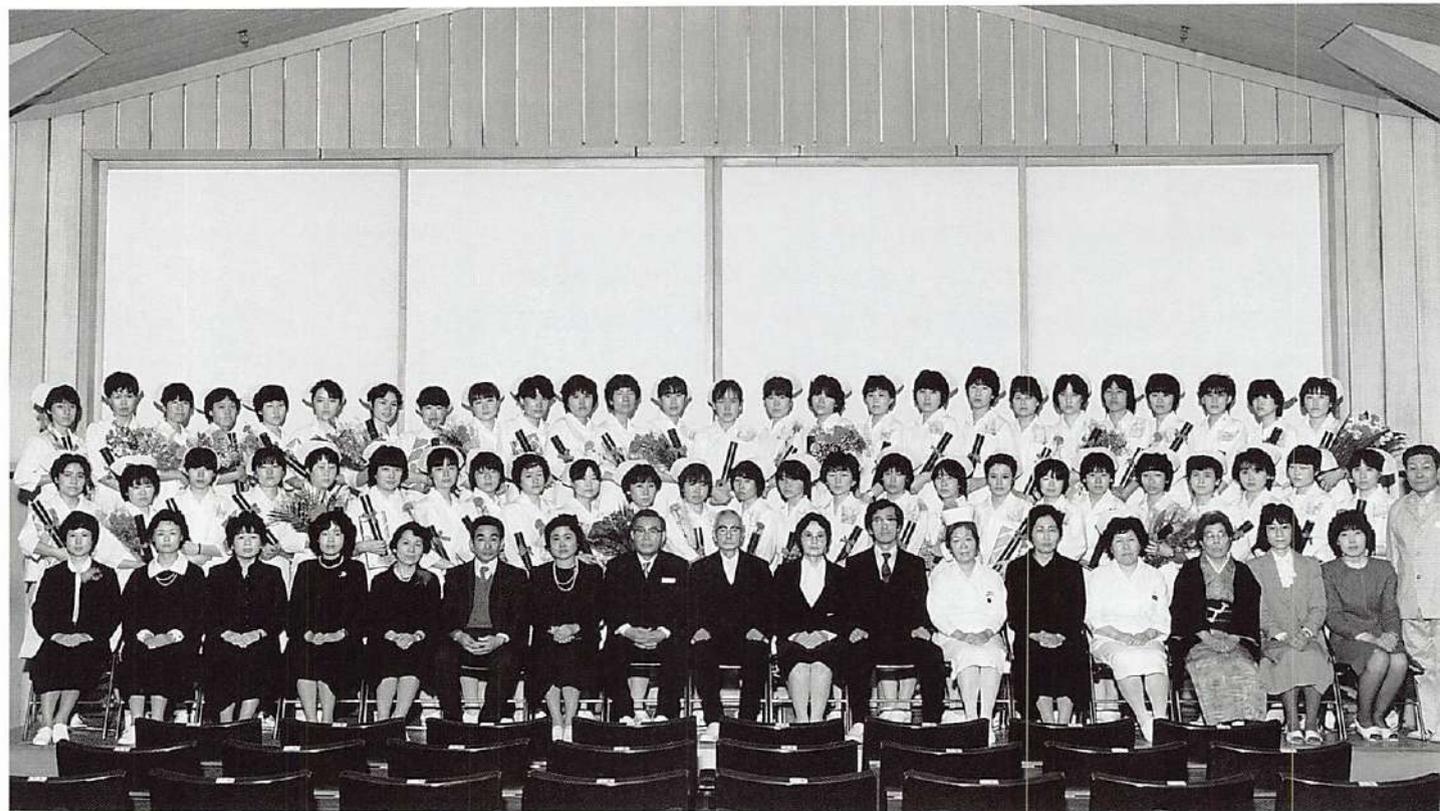


- ◆楽しい青春の日々をありがとうございました。天理での生活は今の私に繋がっています。(伊藤雅子)
- ◆学生生活…木造校舎のみがき抜かれた手すり、昼食をとりながら見た”あなたの知らない世界”真夜中のティータイム。おとなりの2人と4人でお菓子を食べて真剣に聞きたうらない。山ほどの実習レポート。2年間だけ思い出いっぱいでした。(斉藤久美子)
- ◆いろいろな病院があるものです。今、地域医療を主体にした40床の病院勤務中です。地域医療の主が高齢者を対象にした受け入れ体制の必要性和制度化、適した医療のあり方などを悩みながらの日々です。望ましいことと現実のあり様難しいですね。(井上奈徳美)
- ◆学院を卒業してから31年…光陰矢のごとしですね。31年の間に環境も仕事場も数回変わりましたが、すべて今に繋がっています。47歳で皮膚排泄ケア認定看護師の研修を受け、現在3年目です。子供も成長しました。長女が看護師2年目、長男大学4回生、二男1回生、二女高2、協力を惜しまない主人に助けられて今がある私です。(伊庭治代)
- ◆現在は保健師として産業看護、保健師教育に携わっていますが、私の看護の原点は「天理」だと誇りを持てることに感謝です(宮崎理佳)
- ◆学院で学んだ看護課程は、その後の人生のいろんな問題解決の上におおいに役立ってくれました。何てたって私たちの最終目標は「陽気ぐらし」なのでから♪ 今、週3日で内科クリニックのパートしてます。(田中さえこ)
- ◆人生も半ばにさしかかり自分も家族も「いつまでも元気ででありたい、いてほしい。」と常に思う毎日です。そのためには運動、ストレス解消の励行に励もうと思っています。“みんなで目指そう100歳”(溝口京子)
- ◆地域医療に関わってきましたが「予防に勝る治療なし」との思いを強くし、働く人たちの健康管理に携わって10年以上が過ぎました。今思えば学院での勉強は「考える」ということを鍛えられた2年間だったと思います。(矢引裕子)
- ◆50歳代の大台にのり、勤続30年の表彰も頂きました。スタッフの皆様、家族の支えをうけて、今後も微力ながら励ませて頂きます。(長澤みどり)
- ◆閉校をととても寂しく思います。天理看護学院で学んだことを生かし、変化の激しい社会の中で頑張っています。(中直子)
- ◆自由にさせて頂いて楽しい2年間でした。講義で紹介された本はすべて読んでみようと思ったり、調べることの面白さを学んだり自主的に学ぶことを教えていただきました。大切に掃除した木造校舎、訪問先の介護者の方より自分も奈良師範時代の校舎で勉強したと教えて頂きました。(園田文子)
- ◆14期生も52歳…天理よろづからのこの前のお便りの再就職求人45歳まで…すでに年齢でアウト。天理に残ってる方はわずか、皆全国に散らばり頑張っているんだね。天理の友は一生の宝物。ずっとつきあっていきたいです。(小池貞)
- ◆現在子供2人も成人し、私は地元(三原)の病院で勤務しています。今回学院の閉校を聞き、学院時代の懐かしい思い出がよみがえります。母校がなくなる事はとても残念ですが、学院の卒業生であることを誇りにこれからも看護職を全うしていこうと思います。皆様お元気で…。(伊藤恵子)
- ◆いろいろ身上をお与え頂きながらも働かせて頂ける喜びを感じながら毎日デイサービスで利用者様に元気をもらい楽しく勤めさせて頂いております。天理看護学院が閉校になることは寂しいですがおちばで学ばせて頂き、寮生活を共に過ごした皆さんとの思い出は一生消えることはありません。(米田菊子)
- ◆民医連の病院に勤務しています。チーム力といきいきと働き続けられる職場作りに頑張っています。(奥田久美子)
- ◆去年6月から老人保健施設で頑張ってます。(笑)体が辛い事が多いものの、高齢者との関わりも楽しいです。娘も現在、憩の家でNSとして働かせて頂いております。(吉村恵理子)
- ◆昨年4月よりSWとして勤務しています。退院調整は看護部だと思のですが、看護部長が理解していないため医務課所属。皆様の情報を色々いただきましたのですが残念です。(新井栄子)
- ◆肩腰あちこちいたわりながら訪問看護を続けています。(笑)大事な50歳代楽しい毎日を送りたいものですね。(壺野浩子)
- ◆閉校にあたり「ありがとう」の感謝の思い一杯です。出会った時は声掛けて下さいね。皆様の御健康をお祈り致します。(中村理恵)
- ◆看護学校で教員をしています。毎日学生と関わっていてふと自分を振り返るともう30数年前の出来事に驚きます。でも気持ちはずいぶん昨日の出来事の様です。今頃看護の面白さを感じている私です。学生時代を天理で過ごせた事は私の一生の宝と思っています(岩澤浩江)
- ◆同窓会にはなかなか参加できず、残念に思っています。今のところ健康で元気に札幌で仕事を続けております。(米田奈美恵)
- ◆時々本部参拝と救護ひのきしんで天理を訪れていますが、なんとなくほっとします。看護用木という使命を忘れず、できる事をお手伝いさせて頂きたいとおもってます。(藤本明子)



Love





第二看護学科 第15期生

昭和58年3月10日卒業〈51名〉

浅井 文子
麻生 久美子
荒井 万美子
安藤 ゆり
石橋 眞壽代
井上 浩美
江角 智子
大園 康代
奥村 明代
加藤 和子
川浦 貴代美

川邊 千晴
久保 真由美
佐々木 年美
菅原 美由紀
菅原 美代子
田中 里味
大門 寛美
津川 浩子
寺井 教子
天白 真美子
徳永 久美子

仲 紀美
中津原 千昭
中西 かをる
中野 郷子
中間 由紀美
中村 富子
永末 陽子
永山 晴美
端野 登志子
花野 てい子
濱下 正枝

濱中 陽子
東田 祐子
藤原 久栄
藤本 すみ子
細谷 加代子
堀畑 佐知子
堀部 和恵
前田 代三子
森本 文江
安江 美智子
藪崎 弘代

山添 承子
山本 教子
横川 京子
吉田 道代
若狭 美智子
渡邊 照美
佐々木 麻弥

「天理看護学院の思い出」

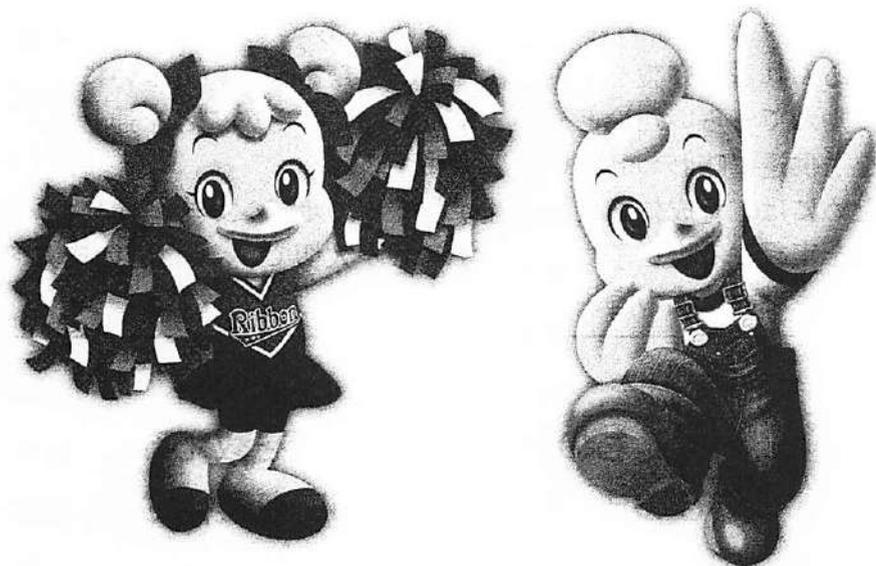
2科15期生 岡本美代子（旧姓菅原）

猛暑と大雨の夏、流れ落ちる汗を拭きながら「学院での思い出」を巡らせていました。出会いから全てが始まりました。忘れられないのは、日課のひとつひとつと、箸が転んでもおかしい年頃だったことです。

夏休みまで及んでしまった「ガウンテクニックの実技」演習は真剣でした。合格して帰省できた安堵感は、今も夢に見るほどです。患者役の上半身清拭が、超くすぐったくて、笑いが止まらなくなり迷惑をかけた事。学院祭の手作りうどんを講師の先生に召し上がって頂いた時のことです。（青ネギが唇についています・・・）吹き出すのを必死に堪えた若かった自分が鮮明に浮かびます。それから有志10名で看護雑誌「クリニカルスタディ」に「基本的体位における安楽への援助に関する検討」を発表した時の達成感も忘れません。現在、私は天理よろづ相談所病院の外来棟でパート勤務5年目です。

今、外来で論達第三号を声を揃えて拝読するたびに人として、看護用木としてどうあるべきか。心澄まされる思いが致します。自分に与えられている境遇に感謝し人との繋がりを大切にしながら、これからも人のためにお役に立てる人生を送っていきたいと思っています。誇りに思う天理看護学院で、15期生の仲間と共に育てて頂いたことに心より御礼申し上げます。

こどもおぢばがえり





第二看護学科 第16期生

昭和59年3月9日卒業 (55名)

井上 江里子
井上 かおる
井上 直子
梅木 園美
榎本 和代
太田 淳子
太田 直子
川上 みち代
河野 まゆみ
喜多 玲子
串 さおり

梶原 政子
熊谷 早苗
小村 あけみ
佐宗 君江
佐藤 理嘉子
笹 知恵美
澤 みどり
柴田 弥生
正司 典子
進藤 真奈美
菅原 省子

杉山 直美
多田 由美枝
高木 まゆみ
高橋 優子
鶴巻 美紀
殿村 峰代
橋口 喜美子
畑中 昌代
花田 礼子
早川 しのぶ
松田 教子

三浦 栄子
水本 理恵子
宮下 良美
宮村 芳子
村井 由加里
村上 千代
安田 浩子
山本 紀三子
若月 のり子
掛谷 二三代
黒崎 映子

小林 智子
河坂 寿美
佐々木 よし美
西河 幸子
長谷川 光代
松本 幸恵
鈴木 信子
森井 清子
加藤 京子
小西 康子
古谷 明美



学院での2年間は大切な人生の宝物です。これからの人生も明るく楽しんで過ごして行きたいです。
by. 内橋淳子(太田)



産院で勤めています。
by. 広瀬弥生(柴田)



子育てが終わり愛犬サチと主人と3人?!で時々旅行に行っています。
by. 堀しのぶ(早川)



教会の御用をしながら色々な仕事をしています。教区の救護も参加しています。
by. 上原芳子(宮村)

結婚後11年ブランク後10年間パートから21年ぶりにフルで働こうと思っています。夜勤が心配です!
by. 河村京子(小野)

知人と協同で立ち上げた訪問看護ステーションも5年目に突入しました。
by. 権野和代(榎本)



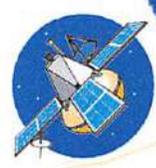
憩の家地域連携室師長で頑張っています。
by. 河合のり子(若月)



We are the 16期生!



16期生の皆さ〜ん! 元気〜?
16期生は個性の団! 日頃は各々宇宙人じゃなくて自由人!
しかし団結するとハンパない集合体になる!

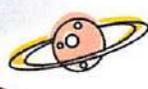


天理の近くの診療所で働いています。半世紀過ぎると体は色々ガタが生じるものですかね。"病は気から"心の立替をして何とか無事に通らせて頂きたいと願っています。皆に会いたいな!
by. 中林教子(松田)



仕事と教会婦人を両立させています。今も勤務し続けていられるのは、あの学生時代があったからだと思います。
by. 大佐古智子(小林)

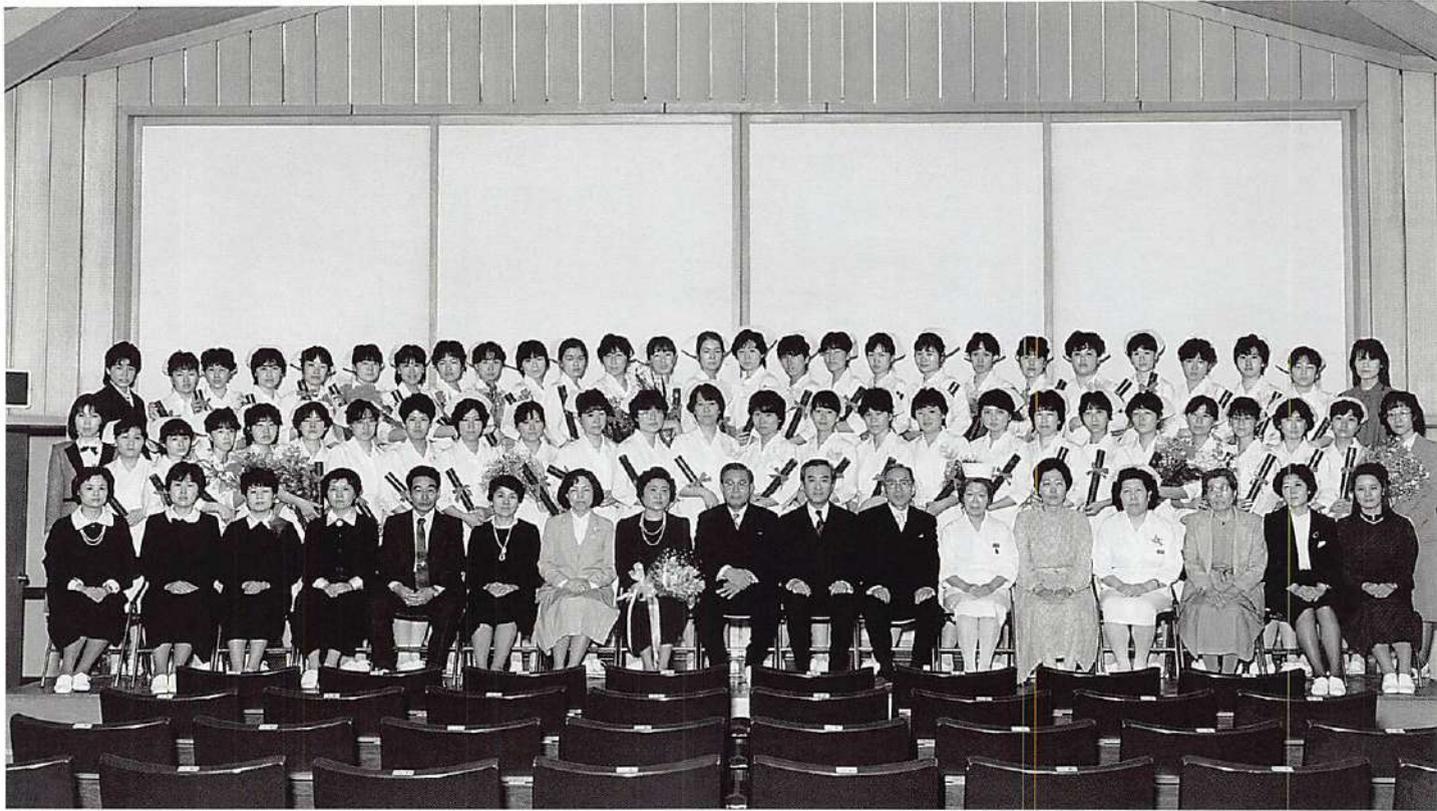
憩の家で頑張っています!
by. 重倉さおり(串)



憩の家を早々に寿退職して今は三輪素麺製造業に勤めています。学院・憩の家で培った経験を生かし、従業員教育に役立っています。
by. 南まゆみ(高木)



ヨロシクね!
by. 森継知恵美(笹)



第二看護学科 第17期生

昭和60年3月11日卒業 <49名>

安部 喜代美
青木 由美子
飯田 珠江
石橋 恵子
今村 厚子
内田 道枝
尾崎 栄子
小村 由里
太貫 直美
大橋 由美子

岡田 絹代
岡田 恵子
岡田 真都里
岡田 玲子
垣内 由紀
楠田 裕子
蔵 登紀恵
栗本 郁子
古西 玉美
小山 壽

近藤 みさ子
佐藤 美雪
柴 美千代
霜下 英美
下田 道代
白山 寿子
白山 美佐子
杉山 裕子
田代 春美
田村 いずみ

中野 道代
中本 順子
橋下 浩美
林原 正子
原田 京子
福田 勝美
洞 ゆかり
松倉 美樹子
南 直美
宮野 牧子

宗岡 文恵
吉川 典江
磯川 数子
大村 裕子
川口 順子
田口 昌子
中路 裕美
出雲 寿子
丸木 悦

17期生

白山美佐子 H24
年 12月～59病棟
で勤務しています

伊藤喜代美(安部)
H24年 11月～OP
室復帰しました

田中悦(丸木)皮膚科、
形成外科外来で働い
ています。今年 20年
表彰されました

野本寿(白山) 在宅
世話取りセンターで
勤務しています

仲井文恵(宗岡)
59病棟で勤務して
います。今年から
娘も一緒です。

竹内直美(大貫) 子供たちは
3人とも大きく成長。娘は
ドイツ留学中、息子2人も大
学生、母はまだまだ現役で頑
張ります

向崎絹代(岡田) OP 室で毎日
四苦八苦しています。看護研究
や固定チームのリーダーもして
いて身動き取れない感じです

楠田裕子 地元で看護師を
続けています



木村厚子(今村) おちぼという尊
い場所で、看護用木としてお育て頂
いたお蔭で今日の自分が存在して
いると心からお礼申し上げます。学
院での 2年間はひたむきに頑張っ
ていた友達に支えられ、楽しく充実
した日々でした。今は天理でめい助
産院を開業して 7年目です。看護
用木の心意気を忘れずに地域でつ
とめていきたいと思っています

淡路教子(磯川) 子供も大学生になりました。仕事も続けてがんば
っています

中野道代 毎日参拝させて頂いて、学ば
せて頂けて幸せだったと感謝しています

野坂登紀恵(蔵) 近くのメンタルクリ
ニックにパート勤務して 5年目になり
ます。元気でどうにかやっています

田中牧子(宮野) 身体(顔?)
のように心もまるくなりた
いと思うこの頃です





第二看護学科 第18期生

昭和61年3月11日卒業 (49名)

青木 りえ子
浅原 孝子
犬飼 佐恵子
岩佐 とし恵
江島 好子
小野 由美
甲斐 みつぎ
桂原 まり
金子 珠恵
川井 智洋子

河本 真奈美
桐木 きよみ
窪田 陸子
崎山 正枝
菅沼 純子
杉谷 京子
鈴木 朱美
田村 里香
高野 ひでみ
谷口 伊保子

鶴巻 智恵
殿村 敦子
中島 郁子
永岡 紀子
野田 未来子
林 恵美子
林田 典子
平鍋 美栄子
福井 三恵子
藤本 孝久

船曳 理花
榊谷 歩
増本 佳子
水田 由美
三好 せつ
迎 郁子
村上 芳子
目時 綾子
安仲 恵
若月 陽子

渡邊 よしえ
加川 尚子
貝原 由利子
佐古 幸恵
藤井 善子
松尾 理代
南 佳子
山本 たまよ
吉岡 いさみ



天理にかれこれ30年以上お世話になってます。今、私は糖尿病ケアを中心に活動しています。憩の家は、来年急性期病院が開設され、ますます看護の力が必要とされます。安仲 恵



現在、10年前に開院した白川分院で勤務しています。昨年度から回復期リハ病棟が開設され、急性期から脱した患者さんの看護をしています。山口美栄子



今も憩の家で看護を続けています。憩の家に訪れるがんの患者さん、そして家族が少しでも穏やかに過ごせるようチーム医療を実践しているところです。松尾 理代



憩の家に再就職して外来で働いています。輸血の勉強をして頑張っています。以前より働きやすい病院になっています。森 珠恵



今年の3月に憩の家に復職しました。新システムに悪戦苦闘の毎日ですが、育てて頂いたことに感謝し御恩返しができるようにと頑張っているところです。西岡伊保子



14年ぶりに38病棟(小児)にかえってきました。心はやる気ですが、身体が、なんとか頑張っています。学院はなくなりますが憩の家は不滅です。看護用木としてがんばります。鶴巻 智恵



この年になって、一生の支えとなる学びの多くを学院で教えてもらっていたことに気づいております。最後の27期生と看護を熱く語り合っています。閉校後は再び現場で、老いた身体をいたわりながら、かけまわりたいと思っています。藤本孝久 52歳になりました。



憩の家で働いている18期生です。力を合わせて患者さんに喜んで頂ける看護を実践していきます。



第二看護学科 第19期生

昭和62年3月11日卒業 (51名)

相川 美保子
赤木 貞美
麻生 ひろみ
新井 里美
飯田 和美
池上 智佳子
石井 智子
稲村 栄子
茨木 あゆみ
今井 智子
植田 富久

大西 昭栄
大畑 久美子
加見 節子
勝山 久美子
門脇 明子
亀田 洋子
北村 忍
久保 方美
熊谷 みどり
小池 優子
後藤 千代子

小林 裕美
下澤 真奈美
鈴木 弘子
勢能 順子
田口 美保
太月 ゆかり
田淵 美八子
田山 澄江
高橋 明子
高橋 八千枝
高松 美智代

滝井 邦江
谷 千秋
服部 奈保子
林 美佳
久富 里美
福田 晴美
堀 沢子
水野 しづゑ
水野 みどり
宮腰 奈緒美
村上 きよ

山崎 ゆかり
山本 みち代
横山 みち代
横山 美幸
吉田 邦子
吉田 道恵
渡辺 裕子



2科19期生近況(旧姓) H25現在

相川一 忙しいけど、 気持ちは元気!	赤木一 娘は社会人で、 私は花の独身。	麻生一 息子は教高学園生。 天理懐かしい。	新井一 元気なおばさん やっています!	飯田一 老健で主任 がんばってます。	池上一 大阪の看護学校の 先生やっています。 天理から通勤。
石井一 趣味、仕事に忙しく 元気にしています。	稲村一 新しい職場が ストレスで休憩中。	茨木一 朝の弱い私が、 5時起きでやっています。	今井一 次女が今春から 天医大生。	植田一 本院地下放科で 頑張ってるよ。	大西一 あと1年教員 続けます。
大畑一 デイサービスで 働いています。	加見一 9回引越後、 詰所生活中。	門脇一 老健デイケアナース しています。	亀田一	北村一 近所の病院に勤務。 娘3人と賑やかに しています。	久保一 済生会中和病院 小児科勤務しています。
熊谷一 教会に伏せ込み 20年。	後藤一 里子を預かり5人家族。 娘は教高学園1年生。	小林一 ケアマネ8年目。 天理にはよく行きます。	下澤一 復職して3年目。 娘は東京へ進学。	鈴木一 憩いの家に恩返し中。	田口一 DM専門医クリニック 2か所で勤務中。
太月一 雨、風に負けず 自転車で訪問看護 17年。	田淵一 OPもする整形外科で 勤務。夜勤が辛い。	田山一 娘が大学受験。	高橋明一 老体に鞭打って 夜勤もしています。	高橋八一 日赤盛岡で 病棟勤務中。	高松一 念願の修養科卒業。 主人も用木。
滝井一 近くの病院で 勤務しています。	谷一 勤務病院が 新棟になり大忙し。	服部一 憩いの家で訪問 看護やっています。	林一 長男21、長女19、 次男17になりました。	久富一 憩いの家でOP室 主任やっています。	福田一 今年こそ 脱専業主婦希望。
堀一 地域包括センターで ケアマネしています。	水野し一 憩いの家 救急病棟勤務。	水野み一 天大医務室勤務。 若者のエキス充填中。	宮腰一 今春、長女が 天高1部入学。	村上一 変わりようが ないです。	山崎一 老眼、関節痛でも、 夜勤頑張ってるよ。
山本一 この春から長男が 専修科生。	横山みち一 アルバイトで 憩いに復帰して もうすぐ早6年目。	横山美幸一 日々何事もなく 通らせて頂いている ことに感謝。	吉田邦一 3交替勤務継続中。 看護師不足で大変。	吉田道一 市立奈良病院、 脳神経センター、 眼科混合病棟勤務。	渡辺一 3人子育て中。



第二看護学科 第20期生

昭和63年3月11日卒業〈46名〉

赤木 栄子
井爪 理恵
伊藤 英子
宇戸 真由美
漆島 光枝
大河内 朋子
岡村 良子
我山 亜希子
片岡 まり子
金弘 洋子

河村 優子
木下 真津代
桐木 邦子
久保 まさの
久保田 友子
源内 和美
小古井 里枝
左郷 陽子
斯波 尚美
篠田 裕子

島上 千穂
下中 弘美
高木 いなみ
高田 陽子
手嶋 美佳
出嶋 明美
豊田 ますみ
長江 陽子
長住 佐智子
長瀬 由紀子

永田 旬子
新居田 晴美
平義 佐知子
福永 訓子
藤本 悦子
藤原 艶
古田 千賀子
穂積 恵子
洞 まゆみ
松浦 和美

松尾 尚子
水嶋 親美
山川 真由美
吉田 明美
西川 久美
古田 幸重

2科20期生

メッセージ

学院の思いでは、2年間必死に勉強したこと。なんて…テストも多かったし、実習も大変だった。でも、今でも看護師として働く中で、学院で看護の心を育ててもらったなと感じています。腎人教育担当していますが、「感謝の心を忘れるな!!」って偉そうに言っています。

野村優子 (旧姓:河村)

毎日食堂で朝まで勉強してたのを覚えています。とっつもしんどくて早く卒業したいと思ってた…ずっと働き続けていますが、あの生活が心の支えになっています。

恵子 (旧姓:穂積)

なんといてもあの黒光りしていた廊下と階段。あと海上先生のおのろけ話、素敵でした。今も看護師として働かせて頂けるのは、学院で学ばせて頂いたお陰です。閉校してしまうことは寂しいけど、本当にありがとうございました。

百瀬幸重 (旧姓:古田)

あの趣のある木造校舎。実習に疲れパタンキュー。そのまま朝を迎え、慌てて仕上げたレポート。大変だったけど、楽しい経験もあり、何より海上先生始め、良き先生方、良き友に恵まれ、充実した2年間でした。

匿名

スキー実習。夜、京都駅から夜行列車に乗って夜明けにグレンデに。睡眠不足としもやけて初日はさんざんでしたが、最終日には元気良く楽しく滑っていました。

匿名

学院時代はよく勉強し、よく遊んだ。学院祭でバザーの責任者になって、柳瀬先生に協力して頂き、みたらし団子やフランクフルトの買い出しに奮闘した思い出があります。

松井訓子 (旧姓:福永)

臨床実習、看護過程、何度もやり直し。寝不足で病院の階段で転倒！ やっと指導者の合格をもらい、ホッとしたところで、あおたんの傷も癒えてきました。

Paul

県内？の看護学校対抗の体軀大会が桜井市の芝運動公園でありました。様々な種目でみんなが頑張りました。授業が終わった後、木造校舎の中庭にバレーボールのネットを張り、1科、2科、先輩、後輩、混じって暗くなるまで青春してたなあ。

By ちか

学院といえば真っ先に思い浮かぶのは、今はなき風情のあった木造の建物です。そこで20期生のみんなと学び過ごした2年間は、時が経つにつれ、楽しかったことばかりが懐かしく脳裏に浮かんできます。思い出とともに、看護師を目指していたあの頃の初心に戻って、学院で学ばせて頂いた看護の心を忘れずに、日々、仕事に向き合っていきたいと思いました。

匿名

20期生が私だけになってしまったこともありましたが、再就職で戻ってきた同期もいて嬉しいです。学院時代、あの頃はいつも辞めたいと思っていただけけど、こんな私が今は師長をしているなんて…不思議ですよね。

水嶋

この間、大学構内で旧校舎の写真を懐かしく見ました。あの頃は、辛くて悔しくて嬉し涙も流したけれど、今となってはいい思い出です。

真田弘美 (旧姓:下中)

皆さん、お久しぶりです。同窓会の案内が届くとみんなどうしているのかな？と、学院時代を思い出します。看護師になるという目的に向かって学び・実践した2年間でした。

指導して下さいました先生方には、感謝の気持ちでいっぱいです。助けてもらった同期の仲間も、それぞれの立場で活躍されていると思うと、私も日々喜んで励みさせて頂きたいと改めて思います。いつしかまたお会いできる日を楽しみにしています。

岩井まゆみ (旧姓:洞)

学院生活では、勉強以外に色々な行事がありました。その中で夏は本島で水難救助の勉強という事でキャンプをした事を覚えています。本島までフェリーで渡り、本島大教会のキャンプ場で、食事を作ったり、キャンプファイヤーしたり…海で、講習を受けた後の生姜湯がとっても美味しかったのを思い出します。

かず

今、高齢者の命と向き合う職場で看護師として働いている私の原点は、天理でお育て頂いた学院の学生時代です。患者さんのために何をすべきか、常に患者さんの立場にたって考えることを教えて頂きました。閉校となり、形は見えなくなりますが、看護用木の心は消えません。

宮本良子 (旧姓:岡村)

学院を卒業して24年が経ちました。同期生と和気あいあいと学んだ木造校舎は今も鮮明に脳裏に焼き付いています。実習は大変でしたが、最終学年での1科1期生と2科20期生混合の総合実習は新鮮であり、大変でしたが楽しい思い出でもあります。そのときのメンバーとは今も仲良くさせて頂いていただいています。

松村尚子 (旧姓:松尾)

皆様ご無沙汰しております。苦い思い出の多い学院生活でしたが、黒く光るほど磨かれた廊下、手すり、整理整頓された物品準備室、手に外傷したら五百円のお供え箱、合宿、歌舞伎鑑賞、地獄の実習。今、私があるのは、学院、憩の家の経験があってからこそと感謝の一言です。

小原佐智子 (旧姓:長住)



第二看護学科 第21期生

平成元年3月11日卒業(51名)

伊関 美津子
伊藤 晴恵
今井 七恵
上田 なおみ
馬越 圭古
大島 道子
岡 みゆき
岡井 令
小沼 真佐代
甲斐 里美

亀山 和子
木原 恵
久保田 明子
阪本 喜代子
佐藤 守恵
篠田 美佳
須藤 静香
瀬良 さとみ
高見 真紀
瀧 道代
竹下 滋子

千原 和美
津岡 美佐子
富岡 ちづる
中本 晶子
長澤 優美子
西川 徳子
野口 智代
橋本 広枝
土生 千恵美
濱田 恵子
濱原 弘恵

原 正恵
馬頭 佳代
平山 あい子
廣井 佳世
船渡 いく子
古川 絹子
古川 理賀
古屋 慶子
保坂 美和
松本 ひさ代
丸山 典子

見崎 美保子
三宅 裕子
村山 理香
望月 明美
山口 美喜枝
山根 幸恵
山本 祐基子

みんなと過ごしたあの時を思い出し日々を送っています。みんな頑張ってるんだろーうなあと思いながら・・・ 村上道子

学院のおかげで、今の私があります。“人たすけたら我が身たすかる”で毎日頑張ります。 稲垣七恵

ある時は健診車に乗って群馬県内あちこちの健診へ、ある時は病院病棟へと2カ所かけもちパートで忙しく働いています。教祖 130 年祭もありますので、少しは教会の奥様らしく通らせて頂きますかね・・・ 番場正恵

私は小学生の娘の子育てと診療所で看護師を続けています。バタバタしながらも毎日楽しい日々を送っています。 京谷祐基子

学院の閉校とても残念です。私の娘も高校 2 年生。看護系の大学進学を考えていますが、母校を受けられないんですね。天理医療大学の発展心よりお祈り申し上げます。同級生の活躍岩手の地から楽しみにしています。同級生の皆さんには震災の時はご心配かけました。 川尻いくこ

辛かったけど楽しかった青春時代。しかし、よろこび寮も准看護養成所も学院までもが、なくなり思い出が消えるような思いで残念です。H1 に看護師免許を取得し、産休育休を 3 回経て、今迄ずっとおちばで働いています。娘が来年春には、PT として医療に携わる予定です。 青木典子

助産師として働いています。みんなとワイワイ、ガヤガヤ過ごした頃がなつかしいです。 佐藤ひさ代

今年は仕事の都合で参加できず、残念です。第 2 科 21 期生のみなさんお元気ですか。次回の同窓会は参加できるといいなと思っています。それまで健康に注意して陽気にくらしたいと思います。 鶴田明子

平成 4 年に天理から地元に戻り、それからずっと看護師として働いています。中 1 の娘が将来は看護師になりたいと言ってくれたことが最近とても嬉しかったこと、同時に、中学を卒業して天理で学んだあの頃、あの生活が大変なつかしく思い出しました。 橋本広枝

20 年目の 1 期生と言われながらみんなと頑張っていた日々を思い出します。とても良い思い出になっています。 谷口徳子

今は 3 才と 5 才の男の子の子育てに追われています 片山千恵美

ケアマネージャとして在宅介護に携わり 10 年がたちます。人生の先輩やいろいろな方々に会い日々学んでおります。 菅沼美保子

今年長男が天理医療大学臨床検査科 2 期生となり、中 1 の娘も看護科に行きたいと目指しています。母校の閉校は寂しいですが、次の世代へ理念が受け継がれ、ますます発展する事を楽しみにしています。 瀬良恵

看護職を離れて 17 年、看護用木としての使命を果たせていないことを申し訳なく思っています。なかなか同窓会に参加することができませんが、機会があれば学院での思い出、医療現場での話など聞きたいです。 三澤さとみ

学院の黒光りした廊下や、階段を見たとき、学院の歴史と先輩方から受け継ぐ伝統を感じました。閉校はとても寂しいです。 片岡美喜枝



第二看護学科 第22期生

平成2年3月9日卒業(43名)

糸屋 美香
井上 智子
井上 奈美
上田 恵美子
後呂 裕子
宇都宮 千秋
江口 敬子
江口 貴世
太田 秀子
大原 久代
小野 さつき

片岡 裕子
久保 智子
古賀 ひさゑ
小嶋 安紀子
小林 久子
呉 礼子
志村 純子
菅沼 育子
杉澤 由香里
高取 美香
高藤 教恵

竹澤 明代
多曾田 邦江
田中 道子
飛永 妙子
道地 純子
中野 もとみ
中村 ひろみ
中村 洋子
中山 京子
長野 訓子
永野 美香

西貝 陽子
西島 美佳
橋上 奈津子
春名 美代子
東 邦江
藤原 正代
藤原 ますみ
松本 夕美
森岡 理香
山本 栄理



第二看護学科22期生

「看護用木として働ける喜び」

私は、憩いの家に再就職して2年目です。3年前主人が脳出血で出直し今後のことを考え、再就職しなければと思っていました。看護学院同窓会からの憩いの家看護師募集の手紙が届きました。10年以上離れていたのでも不安でしたが、天理へ移る決心をしました。

実際の現場は、私が働いていた時に比べ著しく変わっていました。OP室では医療機器も増え、医療用語に戸惑う日々でした。しかし、子持ちの看護師も多く私もこうして働くことが出来感謝しています。再び憩いの家で看護用木として働ける喜びを感じて、今の医療の知識に追いつけるよう勉強していきます。

萩原ひさゑ(旧姓古賀)

「閉校への思い」

学院では看護教育だけでなく掃除の方法、女性の身だしなみなど生活指導までありました。しんどいことも多くあったはずですが、スキーやキャンプなど仲間との楽しい思い出もあり有意義な青春時代を送っていたと感謝しています。

看護師として20年以上勤務しました。臨床での看護はつらいことも多かったです。看護のやりがいを感じていたのは、学院での学びが基礎になっていると気付き誇りに思っています。

来春看護教員になる予定です。母校は閉校になりますが、学院の先生方がどのように育てていたのかを思い出し、看護教育に携わっていきたいと思います。

嶋田もとみ(旧姓中野)

学院の思い出

【スキー実習】夜行列車でスキー場へ。雨が降りホテルで時間をつぶしたなあ。

【学院祭】グラウンドで後夜祭を開催。

その時のテーマソング
中島みゆき 「時代」

【卒業旅行】雪の降る中、金沢へ。えびの踊り食いに大騒ぎ。



「22期生のみんなへ」

ありがとう

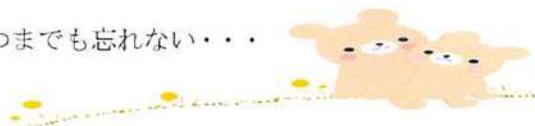
今の私があるのは

仲間が

いてくれた

お陰です

学院での思い出は いつまでも忘れない・・・





第二看護学科 第23期生

平成3年3月9日卒業(39名)

浅野 美和子
 荒巻 ゆかり
 石崎 道子
 市川 洋子
 井本 まどか
 岩田 恵美
 岩田 美和子
 上田 寿実
 大沼 明子
 小笠原 あきの

小川 加寿子
 鏡原 昭子
 梶本 みのり
 唐澤 理恵子
 久保 圭子
 黒 幸代
 近藤 和子
 齊藤 道代
 佐藤 奈美子
 庄田 美幸

白山 美華
 高巢 よし子
 瀧 博美
 谷許 恭子
 田邑 諭恵
 中尾 留美
 浪上 富貴子
 林 かよ子
 原田 典子
 東濱 栄子

平野 容子
 福田 実希子
 藤原 京子
 藤原 弓子
 松川 秀子
 村田 しげ美
 森田 千恵子
 山口 京子
 山田 雅子

卒業して 20 年近くが経ちますが、色々な事が思い出されます。学院はなくなってしまいますが、また、皆で集まりたいです。❁ 谷許森子

現在進行形で看護師させて頂いてます。挫けそうになる度、手を差し伸べてくれた先生方や同窓生の皆様には感謝しております。色々ありますが日々、学びですね。

❁ 北野(原田)典子
卒業して〇十年が経ち、身体はついていけないのですが、気持ちはあの頃のままです！いつかまた、おちば帰りを…と、思っています。

❁ 岡本(中尾)留美
学院が閉校になるなんてさみしいです。一人年が離れていたあたしに 23 期生の皆はずごく仲良くしてくれて、看護師という職と同時に大切な友達に出会えたところでした。教務の先生方にも看護師としてだけでなく、たくさんの教養も教えていただいて本当に感謝しています。今は看護職から離れて、教会長の妻として過ごしています。木造校舎で、泣いたり笑ったりして過ごした 2 年間はあたしの中で宝物です。ありがとうございました。

❁ 和田(佐藤)奈美子
沢山の先生方の親心と沢山の仲間を支えられながらの学院生活でした。ありがとうございました。今、ここにいることに感謝し、私の出来ることを一生懸命に看護用木として勤めさせていただきます。❁ 藤谷(梶本)みのり

学院卒業後、日々看護師として働き、気が付けば 40 を超える年齢になっていました。ムーくん、えみちゃん、かんちゃん、ひろ…永遠の別れとなった友人もいますが、苦楽を共にした学生生活、学友との思いでは絶対に忘れません。❁ 北出(大沼)明子 ❁ 川邨(上田)寿実 ❁ 庄田美幸

先生方、お世話になりました。学院がなくなるのはとてもさみしいですが、あの時の学びは私の中に今もあります。皆様の益々のご発展をお祈りいたします。❁ 田中(石崎)道子

看護学から掃除の仕方まで細かく御指導頂き、今でも大変役にたっています。学院という形は無くなりますが、学んだことは、しっかり胸に刻まれています。ありがとうございます。❁ 市川洋子



ミド看と呼ばれた白衣…実習レポートとの闘い 学院でのテスト 当時はこの世が終わるかのような 深刻な日々もあったのに 今では 楽しく充実した時だったなと思い出します。閉校は寂しいですが 良い思い出が残った事は幸いです。ありがとうございます。❁ 森川(高巢)よし子

この度、学院が閉校する事になり、大変残念です。先生方のご指導・学院生同士との思い出は今もなお、昨日のようです。他の地で、看護師の仕事をしている私にとって、学院を卒業した事は誇りです。

❁ 松原(岩田)美和子

時代の流れとは言え 閉校…寂しいですね。でも、23 期生として素晴らしい仲間と共に看護用木の名を受けた事を誇りに思っています。伝統と歴史と信条教育のある天理看護学院で学べた事が一生の宝物です。心からの感謝を込めて…ありがとうございます。❁ 田中(藤原)京子
今も看護師を続けられているのは、国家試験に合格するか、とても心配して下さった先生、そして、試験や実習を一緒に乗り越えてきた友達のおかげだと思います。ありがとうございます！

❁ 安井(里)幸代
親元を離れ、おちばで過ごした年月は、感謝と自立を学ばせていただきました。一生の宝です。かかわって頂いた皆様に感謝です。❁ 川本(東濱)栄子

天理看護学院では厳しく暖かい先生方にたくさんの教養を頂いて、本当に幸せだったと感謝しています。つやつやに磨かれた階段がとても懐かしいです。昼食の後、食器を洗う時、お皿の裏も綺麗にするんだと教えて頂いた事を今もしっかり守っています。

❁ 田之上(近藤)和子
学校はなくなっても学院で学んだことは心の中に残り続けていると思います。看護用木としてこれからも頑張っていきたいと思えます。❁ 浅野美和子



第二看護学科 第24期生

平成4年3月10日卒業(40名)

青山 美和乃
 穂田 尚子
 安食 よき子
 池田 真理子
 伊藤 敦子
 伊藤 直美
 今井 智美
 因 恵美子
 梅本 千代美
 岡 かおり

小川 かおり
 奥 京子
 尾崎 香奈子
 小野 秀子
 垣内 富美
 垣内 美紀
 梶間 ひとみ
 工藤 純子
 蔵 君代
 越川 美由紀

椎本 博子
 篠田 博子
 清水 小百合
 杉本 智恵子
 高浜 美幸
 竹田 和佳子
 富岡 美智代
 中野 理乃
 野崎 直美
 林 志津子

藤本 幸恵
 藤崎 千賀子
 松川 香織
 向井 みち子
 村瀬 充香
 村山 美香
 森崎 雅子
 山口 知子
 依田 朗子
 和田 雅恵



第二看護学科 第25期生

平成5年3月11日卒業(30名)

市川 直美
 今井 直美
 今井 憲子
 大橋 みゆき
 岡本 典子
 奥 浩子
 織田 恵美子
 金子 佳江

菅 珠江
 久我原 朋子
 小谷野 敦子
 阪本 蘭子
 佐藤 ひとみ
 島上 千佳
 高藤 請子
 田中 優子

種市 舞子
 玉田 恵理
 築谷 直美
 鶴田 理代
 長田 さおり
 花田 眞理子
 増田 育子
 松尾 友理子

山根 恵美
 山本 幸恵
 吉田 和実
 米村 純子
 八木 幸子
 藤原 美穂

yu chan



seiko chan



nori chan



hanachan



saori



2科

25期

koya



nao chan
ichi
kawa



naomi
imai



kan chan



riyo
chan



yoshie
chan



kattin



yuri chan



hitomi chan



kyu chan



kuga
hara



okuhito



chika
chan



ikko



yamane



eri
chan



tane
ichi



emi
chan



miyuki
chan



mi ho chan



jun chan



yukie chan



yagi chan



chiku



akamochi



似顔絵描いてみたけど... 似てないの

みんなの顔を一生懸命
思い出し、思い出せばながら描きました...



第二看護学科 第26期生

平成6年3月8日卒業(33名)

東 雅子
 掛澤 美起子
 石井 さかえ
 板垣 かなえ
 井上 佐久良
 岩佐 明子
 梅原 千鶴
 落合 陽子
 蕪木 理香

河野 道代
 岸田 英子
 小林 弘実
 齊藤 裕美子
 坂本 恵美
 嶋田 珠
 高橋 真弓
 瀧本 奈奈
 内藤 さと子

中村 純子
 夏目 まゆみ
 丹生 淳子
 萩原 治子
 平井 路子
 福田 絹代
 藤井 節代
 松下 直子
 松本 恵美

松本 豊香
 村上 真弓
 邨中 利江
 森 恵実子
 森田 美栄子
 依田 淳子

*准看護養成所に続き、学院がなくなってしまい、私たちの頑張った証までもが形をなくしてしまうと思うくらい淋しさでいっぱいです。20年経ってもあのころ頑張ったことははっきりと思い出します。勉強(人生で一番勉強した時期です)・実習はもちろんですが、球技大会や本島キャンプ、学院祭、どれも私のステキな宝物です。今は熊本で教会の御用をさせて頂いていますが、この宝物を胸に看護用木であることを誇りに思い、これからも頑張っていきます。学院でご尽力頂いた先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。【菊川(斉藤)裕美子】

*徹夜で仕上げた“ミミズ”だらけの実習レポート、准生と一緒にこともおちばり帯りの看護・リーダーとして緊張しました。日焼けや汗臭い匂いと戦ったキャンプ、映画の撮影があった古い木造校舎、代々受け継がれた味、学院祭のクッキー・お好み焼き、フラワークリーンをもって“すみれの花”を踊り歌った先生方、素敵でした。少年隊大好き!大田先生、実習の時と顔が全く違いました。天理看護学院、先生方、ありがとうございました!【古賀(岩佐)明子・西田(夏目)まゆみ・高嶋(河野)道代】

*一年の時、溝にかぶせている鉄板を踏んづけ、足をケガしたことを思い出します。鉄板が突き刺さり、倒れ込んだのですが、皆さんの迅速かつ的確(?)な判断により、いち早く病院で処置を受けることが出来ました。また、ある日足のキズから出血があり、痛くて動けなかった時、出血には安静!と椅子のまま二階の教室から入口まで運んでくださった先生方、ありがとうございました。でも、出血の時は、まず圧迫止血です…よね…!?突っ込みめまま今日までできてしまいました。先生方、同級生の皆さん、本当にありがとうございました。私は、今日も元気に走り回っています。【丹生淳子】

*母校が無くなるというのは、何とも言えない淋しい気持ちになるものですね。代々、大切に磨きあげてきた校舎が無くなり、遂には天理看護学院が無くなるのは、想像していませんでした。でも、目を瞑れば、あの学び舎・あの時過ごした思い出が浮かび、心に在り続いています。そして、学院で得た一番大切な物は、一生の友です。会えなくても、心に存在し力を与えてくれます。みんなが各地で生きている事だけで嬉しい気持ちです。共に学び、共に遊び2年間で共有出来た友、学院が目に見える物として存在しなくなっても、変わらない一生の宝です。天理看護学院ありがとう【高井(揖澤)美起子】

*私の宝の一つで、憩の家で知り合ったKさん(30代で3人のママ、癌で亡くなった方)の言葉をお伝えしたく思いました。『大学病院や癌センターに行ったけど、憩の家の看護婦さんが一番良かった。何事も、何事も病室に看に来てくれた。みんな声をかけてくれてすごく嬉しかった』Kさんの最後の言葉です。私達には「つとめとさつげ」の武器があること、「笑顔と親切」の裏で、教祖が物陰に下さっていると実感しました。東洋一から、世界一の病院に!「つとめとさつげ」も武器にこれからも皆様と盛り上がりていきたいです。看護学院に下さる皆様方、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

これからもOBとして頑張りますのでよろしくお願ひします。憩の家50周年に向けて…乾杯!!【小林(石井)さかえ】

*閉校は寂しいですが、看護だけでなく様々なことを、おちばで育てていただいた事を思い出します。お世話になった先生方や同級生の皆さんのお蔭で、今の自分があることに感謝しています!【川上(坂本)恵美】

*これまで天理看護学院を守り続けて下さった先生方ありがとうございました。天理看護学院で学んだこと、何と云っても看護ようぼくとしての精神を忘れず前進していきたいと思ひます!!これから先も、いつまでも思い出話に花を咲かせましょう☆【今西(松本)豊香】

*長い歴史が一つ終わる寂しさがあります。私達は古い校舎で勉強させていただきました。掃除の厳しさにはびっくりしましたが、いつもピカピカで気持ち良かったです!大変だったことはあまり覚えてなく、みんなでバレーボールや学院祭をしたり、楽しい事ばかり思い出されます。今も看護婦として働かせて頂けるのも学院の先生方のご指導のおかげだと思います。本当にありがとうございました。【落合(高橋)真弓】

*閉校を迎えるということで様々な事が思い出されます。眠気と戦った授業、辛かった追試、レポートに追われた実習、学院祭の手作りの催し、サバイバルキャンプ、感動的な卒業式・楽しい事や辛い事、どれも忘れることのない貴重な体験です。今ある自分は看護学院の生活があったからこそだと思います。私達を育てて下さった先生方、苦楽を共にした26期生の仲間達には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。【依田淳子】

*22年振りに世に戻り、地域の病院で笑顔と親切をモットーに頑張っています。今は天理での思い出や友達、大切な宝物です。【内藤さと子】

*同期に恵まれて楽しく学院生活を送る事ができました。思い出たくさんありがとう。【中村(梅原)千鶴】

*旧校舎の木造づくりは、古いけど味も深かったです。つらい実習もみんな乗り越え、あの時しかできない学びを沢山させて頂きました。学院がなくなるのは寂しいですが、新たな学びの場ができることをうらやましく思ひます。天理看護学院で学べて本当に良かったです。お世話になった先生方、一緒に学んだみんなにこの場をかりて、ありがとうございました。【外山(中村)純子】

*現在はケアマネージャーをしている私ですが、対人援助職としてのルーツは天理での多感な時代の経験にあると感じます。ベッドのストッパーをかけてタイヤを内側に向けたとき・シーツの角を作ったとき・お年寄りと向き合うとき・からだやマインドに染みついている当時の「カケラ」たちに出会います。そんな「カケラ」たちを微笑ましく誇りに感じています。【小林弘実】

*学院の2年間は、大変で辛いことも多かったですが、今の私があるのも、あの2年間があったからだと、改めて感謝しています。皆勤賞もいただきましたし、楽しいこと・辛いこと、たくさんの思い出ができました!その思い出をこれからも大切にしていきたいです。ありがとうございました【松本恵美】

*“学院の思い出”といえば、木造校舎が思い出される。授業(居眠りもしたかな?)や、瀬戸物食器で給食を頂いた後、食器を洗うのに長蛇の列に並んだこと・懐かしい音。母校が無くなってしまふ…さみしい感じがするなあ。学院時代や勤務中に学んだ『笑顔と親切』は、カラダに染み付いて、相手に喜んでもらえると思える感じがする。『笑顔と親切』は忘れず持ち続けたいですね。【新道(蕪木)理香】



2科26期生



第二看護学科 第27期生

平成7年3月7日卒業(28名)

揖澤 今日子
石島 佳子
稲垣 敦子
井上 しのぶ
上林 恵子
内田 美穂子
大内 睦代
小笠原 とき子

隠地 真里
久良木 美樹
久保 悦子
郡川 澄江
佐藤 火映
白須 恵巳
津川 典子
都築 陽子

土手 朝子
中谷 美菜
西岡 恵
西岡 恵
野田 恵子
花田 美紀
福田 優子
藤田 静

藤野 ゆり
丸木 道子
森田 理恵
森本 喜代子

2科 27期生 学院の思い出

夏のキャンプで時間測って、シャワーしたり、新聞紙でお皿拭いたり、今では貴重な体験だった。

阪神大震災が朝の緊急点呼の緊張感が忘れられない。

中谷 美菜

つらかったけど、今思えば、楽しかったな〜って思う。今はバラバラになったけど、それぞれ頑張ってると思うし、なかなか会えないけど、出会いから20年つながっているのも、苦楽を共にしてきたから、懐かしい思い出が蘇ってきた。みんなありがとう。

西岡 恵B

学院の窓を新聞紙で拭きすぎて、きれいになりすぎて、鳩が激突したことあったな。石島 佳子

私は外部から入学して寮生活にも慣れてない。看護師経験もないから、毎日大変だった思い出しかないな。ストレスで吹き出物だらけだった。でも、内部の子は真面目で優しく色々助けてくれた。さすが天理教の子だと、今でも感謝しています。寮が一緒だったから、仲よくなれたし、団結力もあって学院生活が大変なだけに楽しかった。

菟田 理恵 (森田)

学院祭の前夜祭で、変装して何か踊ったような…。楽しかったのを覚えています…。何したかはっきり覚えてないけど、最後にZARDの「負けないで!!」を歌って、みんなで合唱すごく楽しかったよね!!

阪本 恵子 (上林)

学院を卒業して早18年。あの頃のことがついこの間のようです。ハードな実習生活や試験勉強も、みんな支えあったからこそ、乗り越えられたと思います。憩の家で学ばせて頂いた看護は、現在の教会生活にも活かされていて、形は違えども、これからも看護用木として私にできることを頑張っていきたいです。皆さんも、それぞれの場所で笑顔と親切で頑張りましょう! 岩切 美紀 (花田)

睡魔に勝てず実習レポートを未完成のまま朝を迎え、朝パニックになり、大慌てで実習メンバーの部屋を回ったら、メンバー全員も同じ理由でパニックに…。皆でどうしようと、実習開始ギリギリまで猛烈に記録したこと思い出しました。

大内 睦代

私にとって学院という場所は看護を学んだというだけでなく、人生の分岐点になったという意味で、特別な場所です。しんどく辛いこと沢山ありましたが、今の自分があるのも、そういう時期を乗り越えたからこそだと思っています。

木村 恵巳 (白須)

実習で目標になる看護師さんに出会えて良かった。実習レポートが凄いいしんどくて、寝不足続きの事は覚えている。

高石先生から看護の原則を教えてもらい、臨床で自分の看護を深める事ができたと思う。厳しく育てられたから根性もついたのかな。思い出はドッチボール大会が学校対戦であり、みんなと団結して盛り上がって楽しかった。木の校舎で、掃除の仕方が原始的で、今思えばちょっと楽しかったな。

中川 しのぶ (井上)

実習で初めての清拭で凄く緊張して1時間近くもかかってしまったこと。入学の日下駄箱が2個あって、後から同じクラスに同姓同名の人がいると聞いて驚いたこと。AとBに分かれて西岡恵Aになったことすいません。

上木 恵 (西岡A)

学院では、キャンプや学院際などの行事楽しかったことや、実習のレポートやグループワークが多く、しんどかった。でも、その大変なことをみんなで協力してやったり、ぶつかりあったりしたから、絆が深まったし、忘れられない仲間ができたと思う。

田村 朝子 (土手)

私が今も看護師を続ける事ができているのは…

どん底の時…「一緒に頑張ろう!頑張れるから!」と何度も何度も励まし続けて下さった先生のおかげです。感謝しています。

井上 悦子 (久保)



第二看護学科 第28期生

平成8年3月5日卒業〈37名〉

石塚 晶子
 泉川 弥穂
 井平 路子
 今井 忍
 大棚 由紀子
 大山 薫
 隠地 見代子
 北林 千穂
 佐渡川 里恵
 武田 和子

巽 早苗
 玉田 由香理
 出口 陽子
 中岡 和可子
 中川 美奈子
 中田 有香
 中村 知代
 西原 千鶴
 西村 和子
 濱崎 香織

濱野 理恵子
 原 登志子
 平田 幸子
 樋渡 浩子
 藤井 章子
 松橋 民江
 松村 加代子
 村越 清実
 森 道代
 森川 きみ子

山岸 まさみ
 山本 美鈴
 吉田 知代
 米田 裕子
 井上 雅
 中山 都子
 渡邊 理恵

28 期生

感謝

絆

平成 22 年 4 月~1 年間、10 年ぶりにおちばで生活し憩いの家できんむできたことに感謝しています。みんなに会いたいなあ。北林千穂

母校が閉校になるという実感は離れて暮しているのが、あまりないですが、これも時代の流れなのだなあとつくづく思います。同窓生の絆は流されませんよう大切にしたいなと思います。林 忍

今はグループホーム看護師としてパート勤務始めました。松村千鶴

古い木造校舎で廊下はびくか。台風の前には新聞紙とガムテープで目張り。とても貴重な環境で学ばせて頂きました。今は子育てに専念していますが、この校舎での学びは忘れたくありません。増田由香理

家事・育児頑張ってます。臨床への夢は捨てきれずにいるのですが、現状ではなかなか難しい状況です。短時間のパート、訪問から再開しました。長い道のりですが、あきらめずにいたいです。元気ですよ。竹村民江

毎日忙しくしていますが、元気にしています。樋渡浩子

28 期生の皆様お元気ですか。おかげさまで私も 3 人の（現在 4 人目妊娠中）子持ちとなり、教会の嫁として母として毎日忙しく生活しています。みんなにあいたいなあ。

樋井登志子

家族 4 人福岡でがんばってます。松枝理恵

一番の思い出といえば卒業旅行で先生方とどんちゃん騒ぎした事（城崎）です。楽しいことはしっかり残っています。ふわふわした学生時代を見守って下さった先生方に感謝です。今は姫路のホームホスピスで働いています。岡田薫

いつもそばには友がいて本当に支えてもらいました。何年たっても私にとってみんなの存在は力になっています。中村美鈴

2 人目が生まれ、一度退職したけど、2 年で再就職し、今もよろづで働いています。同期少なくなったけど天理にいと 28 期のメンバーに時々会えてうれしく元気になります。これからもそれぞれの土地で、立場で頑張っている同期のことを思い私もがんばりたいと思います。藤本加代子

いつも同窓会通信などを送っていただくたびにみんなで食べて走って勉強したこと日々を思い出します。今は 4 人の子育て、教会の御用と頑張っています。いつか会える日を楽しみにしております。元木まさみ

17 年たった今でも、学院生活のことは忘れず今も現役で頑張ってます。井上雅

みんな元気ですか。今年の 4 月から憩いに戻ってきましたよ。懐かしんでる暇もなく、もまれながら頑張っています。浜崎かおり

今は無き看護学院校舎、あの道を通るとあの頃の記憶が鮮明によみがえってきます。寮の先生の厳しいお言葉に反発しながらも逆らえず同じ思いを抱えた仲間と愚痴りながら長く感じた 2 年でした。天理で教えて頂いたこと大切に実践していきたいです。荘加路子



第二看護学科 第29期生

平成9年3月11日卒業〈26名〉

阿比留 香織
 安東 千枝
 井上 幸
 大内 さと子
 小川 恵子
 奥 奈緒美
 北嶋 安子
 河野 美香
 後藤 寿美子

佐々木 郁予
 柴田 美幸
 谷口 晴代
 中野 栄子
 中村 世里奈
 中本 裕子
 中本 陽子
 畑中 彩子
 花田 ひとみ

馬場 ゆかり
 早川 美生
 坊野 圭子
 町田 幸子
 守屋 喜代美
 山口 里子
 山下 奈々
 吉田 静枝

29

期生

29期の皆さんへ
過ぎた学院が月間金貸
されるのは、とても淋しいです。
でも、29期の心はひとつ!!
いつまでも仲間がよね。
また、皆さんで集りたいね
工谷 奈々 (山下)

つらい実習 楽しい余興
みんなが、いたから頑張れた。
閉校して、生涯の友で
あることは、変りなし!!
馬場(佐々木)有子

今となれば
あつと言う間だった
学院の2年間。
古い校舎、新しい校舎
には、たくさん学び、
思い出を貰いました。
西川美香 (河野)

学院の2年間は
不思議と、しどめが声
より、楽しかった思い出が
びに残っています。あと、
皆が一緒だったからだと思っ
ます。皆元気にしていますか?
会いたいです。
高橋さつき (山内)

いろんな事を教え
て頂いた学院の閉校
は本当に寂しいです。
学んだ事を大切に。
これからも看護ようぼく
として、日々頑張っ
ています。
中村世里奈

看護学院の
閉校は残念ですが、
学院での思い出を胸に
これからも職場で頑張っ
ていきたいと思っております。
お世話に
なした先生方ありがとうございます。
皆様の御健康、御
多幸をお祈りいたします。
箱 塚香織

今は神奈川県川崎市
有科老人ホームで
中、下り看護師さん
しています。みなさん通病り近
ま2: 体前崩エリイナに
ね
山沢(山内)里子

大阪のせりり看護老人
ホームで看護師を続けて
おります。
又、みんなで会いたいな~
小ヶヶ 美幸 (柴田)

母校がなくなるとは(泣) (泣) (泣)
は寂しいですが、看護ようぼく
としての精神を胸に、少しづつお
ちがいで お育て頂いたこと思返しが
できると、今与えられている
立場の中で、頑張っています。
井手 ひとみ (花田)

ヒカヒカ光輝
古い校舎
新しいヒカヒカ校舎
みんなとの思い出も
キラキラが光輝しています。
共に過ごした2年を
忘れず
木内安子(北嶋)

学生のオの生活が
新鮮でした。授業中
も寝ていました。
今と昔の生活も
良い思い出です。
疲退(後藤)美子

天理で出会った
人々学んだ事は、
ホムの大切な宝物の
一つ!!
池田晴代 (谷口)

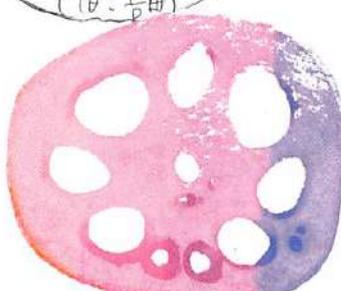
つらかった病院実習。
睡眠と辛い治療の
レポートにテスト勉強も。
一人残らず合格を胸に29期
生一丸とぶって頑張った国家
試験。今の励みになって
います。皆様に感謝!!
茶木裕子(中本)

今年2の中、
一番個性的な同期の
皆、これから、水以上の
仲間ほしいな。ね。
いつかまた笑み交わし
思い出をありがとう。
藤(井上) 幸

天理看護学院で
2山の地を学びました。これ
が仕事に生きていくことは、
友の時の積み重ねのおかげ
思い出です。看護の心を後輩に
引きつぎたいと思っています。
思い出です。岡 青静枝
(田中) 幸



買ってもらったか?
謝恩会の看板
レインの型押しで
飾りましたよ。
これから皆の未来も
よく見通して幸せに
ありまうように!!





第二看護学科 第30期生

平成10年3月11日卒業〈36名〉

芦田 佳奈
安東 直美
石田 七
石原 道栄
植田 めぐみ
大形 ひふよ
亀山 善美
児玉 弘子
小林 万里子
小松 綾乃

近藤 真理子
齐藤 万貴
佐々木 智世佳
佐々木 美智代
塩村 理恵
末武 佳余子
須崎 真理子
曾山 妃那
千代 茜
塚本 孝美

中川 智恵美
中西 里美
永田 伸代
永久 好恵
萩原 二美代
花澤 かおり
濱田 千春
林 美知子
平野 千鶴
細原 ふみ

牧野 ひろみ
水谷 亜希子
水野 陽子
美馬 優子
元木 教子
山下 和泉

30期生 学院生活の思い出

一番の思い出は、校舎のお引越し。先日友達に「学院祭前に校舎内の傷、チェックしてたよね。」
と言われ、そこまでしてたかなあと思いましたが、ピカピカの新校舎の小さな傷をチェックしたことを思
い出しました。物を大切に使いたり感謝することなど一つひとつ丁寧に教えて頂いたなあと今になって
感じます。 渡部陽子(旧姓水野)

たくさんのテストのため、よく勉強した2年間。

学院祭のマドレーヌはとっても美味しかったです～

加川善美(旧姓亀山)

今はない木造旧校舎で最後の学生として、学ぶことができ貴重だと思っています。

大変だった引越しも今は懐かしく思い出されます。 法月教子(旧姓元木)

木造校舎から新校舎の引越しが大変でした。8月の暑い中、

荷物のはいったダンボール箱をもって新校舎と旧校舎の間を何度も往復しました。

木造校舎が解体された日のことは今でも覚えており、4カ月間だけの学び舎でしたが、

今までありがとうという気持ちでいっぱいでした。 上村和泉(旧姓山下)

一番新しい時の校舎で学ぶことができよかったです寺田里美(旧姓中西)

みんなで勉強！と称してコーヒーブレイク 石崎めぐみ(旧姓植田)

校舎の引越しが大変だった。 山口智恵美(旧姓中川)

看護魂の原点ここにあり！青春ありがとう。 平野千鶴

校舎の引越しがとても大変だった。松原ひふよ(旧姓大形)





第二看護学科 第31期生

平成11年3月8日卒業<28名>

浅野 正子
阿部 明美
石倉 美由紀
五十嵐 いつよ
今井 浩子
宇都宮 直子
大林 敦子
荻田 佳子子
越智 喜代恵
加藤 たえ

川崎 佳奈子
菊池 麻美
小牧 すみ代
根田 妙
佐土 正恵
仙田 すなお
高橋 美沙緒
谷 美里
釣井 弘美
寺田 美幸

長山 徳子
西前 瞳
馬場 智美
馬場 やよい
松本 智恵子
三角 真由美
三戸 渚
山口 みち代



天理で学んだことは、看護の原点と看護用木としての基礎です。皆で過ごせた時間は人生で特別な時間でした。ありがとうございました
～浅野正子～

離れた土地で就職試験を受け、あの学院の教育を受けて来た方ならぜひと合格を頂きました。先輩方が各地で築いてくれた信頼のおかげです。学院で学んだ事は生涯財産です。ありがとうございました
～今井清子～

学院では、看護の心・看護の難しさ・深さ・面白さ・怖さ・厳しさを教えて頂きました。献身的で頂いたお灯りの光を忘れずいたいと思います。
～丹羽たえ(加藤)～

学院で過ごした日々は、かけがえのない時間でした。この学院で出会った方々に感謝の一言です。閉校になっても、年月が経ってもまた語り合いたいですね。
～井上正恵(佐土)～

学院の閉校は本当に寂しいです。できたばかりの新しい校舎で学んだ事、見晴らしのいい食堂で炊飯を食べた事青春の真っ盛りを過ごした日々は忘れられない思い出です。形を変えて、天理の看護がますます発展する事を心よりお祈りします。
～井上妙(根田)～

天理で学んだ事は宝物です。信教教育の元に学ばせて頂いた事、医療現場での辛い事、悲しい事を乗り越えてこれた今日だと思います。これからも感謝と親切をモットーに看護用木として頑張りたいと思います。
～大倉美津緒(高橋)～

中学卒業から親元を離れ、長い間共に寂しさや楽しさを分け合った友達と出会った場所であり、目指すもの大きさを知り今の自分に不安を抱いていた事などを話し合った懐かしい場所です。もう一つの帰る場所がなくなったような寂しさを感じずにはいられません。現在、看護職に復帰していますが、学生時代の事が今の自分の礎になっていると思います。
～松井美里(谷)～

閉校と聞いて、学院での思い出が走馬灯のようにめぐっています。天理で過ごした日々は青春そのものでした。学院がなくなってしまうのは、寂しいですが、時代の流れに沿って新しい看護用木が育つことをお祈りいたします
～倉田唯(西前)～

中学卒業から親元を離れ、長い間共に寂しさや楽しさを分け合った友達と出会った場所であり、目指すもの大きさを知り今の自分に不安を抱いていた事などを話し合った懐かしい場所です。もう一つの帰る場所がなくなったような寂しさを感じずにはいられません。現在、看護職に「復帰」していますが、学生時代の事が今の自分の礎になっていると思います。
～松井美里(谷)～

卒業して15年、無我夢中だった2年間は懐かしく思い出されます。自分が忘れてしまった事を思い出させてくれ、相手が忘れた事を覚えていたり、どんなに月日が経っても何の違和感もなく会える友達に恵まれた事を感謝しています。閉校は少し寂しい気持ちになりますが、育てて頂いた2年間への感謝は消える事はありません。ありがとうございました
～吉村美由紀(石倉)～

現在、堺市の教会で3人の子育てと教会の御用をさせて頂いてもらいながらのありがたい日々を過ごさせてもらっています。1つ上の姉が医技校卒。そして、1番下の妹が現在、医療大学の1期生として看護用木を志して勉強中です。8人兄弟姉妹の女3人衆は、おちばで、そして憩の家で子育てしていたが、いた事を心から感謝し、妹の活躍を楽しみに応援したいと思っています。
～古橋喜代恵(越智)～

学院では、看護の心・看護の難しさ・深さ・面白さ・怖さ・厳しさを教えて頂きました。献身的で頂いたお灯りの光を忘れずいたいと思います。
～丹羽たえ(加藤)～

学院で過ごした日々は、かけがえのない時間でした。この学院で出会った方々に感謝の一言です。閉校になっても、年月が経ってもまた語り合いたいですね。
～井上正恵(佐土)～

学院の閉校は本当に寂しいです。できたばかりの新しい校舎で学んだ事、見晴らしのいい食堂で炊飯を食べた事青春の真っ盛りを過ごした日々は忘れられない思い出です。形を変えて、天理の看護がますます発展する事を心よりお祈りします。
～井上妙(根田)～

天理で学んだ事は宝物です。信教教育の元に学ばせて頂いた事、医療現場での辛い事、悲しい事を乗り越えてこれた今日だと思います。これからも感謝と親切をモットーに看護用木として頑張りたいと思います。
～大倉美津緒(高橋)～

中学卒業から親元を離れ、長い間共に寂しさや楽しさを分け合った友達と出会った場所であり、目指すもの大きさを知り今の自分に不安を抱いていた事などを話し合った懐かしい場所です。もう一つの帰る場所がなくなったような寂しさを感じずにはいられません。現在、看護職に復帰していますが、学生時代の事が今の自分の礎になっていると思います。
～松井美里(谷)～

閉校と聞いて、学院での思い出が走馬灯のようにめぐっています。天理で過ごした日々は青春そのものでした。学院がなくなってしまうのは、寂しいですが、時代の流れに沿って新しい看護用木が育つことをお祈りいたします
～倉田唯(西前)～

中学卒業から親元を離れ、長い間共に寂しさや楽しさを分け合った友達と出会った場所であり、目指すもの大きさを知り今の自分に不安を抱いていた事などを話し合った懐かしい場所です。もう一つの帰る場所がなくなったような寂しさを感じずにはいられません。現在、看護職に「復帰」していますが、学生時代の事が今の自分の礎になっていると思います。
～松井美里(谷)～

皆様お元気ですか？ 洞山の事を学んだ学院がなくなってしまうのは寂しいです。おちばを離れても「看護用木」として、笑顔と親愛で日々看護に励んでいます～五十部いつよ～

現在は結婚して大教会に住み込みをしています。看護学院で学んだ事や憩の家での経験は自分の宝になっています。今でも感謝の気持ちでいっぱいです。
～宇都宮直子～

学院生の時は、勉強より自分と向き合っただけの時間が多かったと思います。辞めたかと思った時もあり、その度に同期に助けられました。卒業と共に仲間と同じ目標に向かい、卒業できた事が何よりの宝です。お世話になった先生方に感謝すると共に後輩たちの活躍を期待しています。
～舟田すみ代(小枝)～

学院では苦労もあり大変だった思い出が沢山ありますが、その分友達に恵まれ楽しかった思い出もいっぱいです。閉校と聞き寂しいですが、これからの発展をお祈りします。
～中村麻美(菊池)～

2科31期生
～閉校への思い～

准看護養成所に引き続き自分たちの学び舎がなくなってしまうのは、本当に寂しいです。学院生活は講義や実習など目まぐるしく大変でしたが、寮生活で皆で過ごした時間は喜びも多いものでした。ただ一つ後悔しているのは、大切な友達を深く傷つけてしまった事です。本当に後悔は先に立たず…。私の人生の教訓です。
～片山弘美(約井)～

学院を卒業して早15年…大変な事もありましたが、先生方も温かく何より同期の仲間たちと一緒に過ごしたから、通った事だと思っています。仲間と生活し学院で学べた事が私にとって大きな宝となっています。
～鎌田智美(馬場)～

学院の時の友達はいつでも気軽に会える一生の友達になりました。今思えば密度の高い寮生活もよい思い出です。
～眞田やよい(馬場)～

学院が閉校になると聞いてとても寂しい気持ちになりました。学院では実習レポートに追われる日々でしたが、その分多くの事を学び、看護の喜びを分かち合える友と一緒に過ごした思い出が沢山あります。今、看護師を続けられているのも、学院のおかげだと思っています。長い間ありがとうございました。
～村岡真由美(三角)～

閉校の知らせを聞き時代の流れに寂しい気持ちです。学院で看護用木として育てて頂いた事が教会に嫁いだ今の私を変えてくれています。ありがたい気持ちと、学院で学んだ看護用木としての誇りを忘れず、日々を過ごしたいと思います。
～山口敦子(大林)～



第二看護学科 第32期生

平成12年3月8日卒業(29名)

足立 笑子
 荒井 貴子
 池田 真実
 糸見 美和
 稲葉 理恵
 上野 久実子
 金井 雅子
 久保 綾
 佐治 知子
 志茂 陽子

中尾 七子
 中川 道子
 永田 教子
 中野 由美子
 波吉 明子
 生和 薫
 橋岡 理穂
 簀 愛子
 平松 美穂
 藤掛 里美

藤田 真千代
 藤田 道子
 水島 わかば
 光武 陽子
 村山 寛子
 森川 けい子
 八代 明香
 横田 ゆかり
 吉田 美樹



平成11年度天理看護学院戴帽式記念二科32期生 平成11年5月12日

♪ 32期生のみなさま♪

いかがお過ごしですか？※

閉校記念誌作成に伴い、昔の写真を引っ張り出してきました＼(^o^)/

みんな、若いっ!(^^)!かわいいですよ～♪

今は、それぞれの場所でみんな、頑張っていることと思います。

みんなから送ってもらったコメントを紹介します。

☞学院が今年で最後となるのがとてもさみしい思いでいっぱいです。

今思えば、学院で頑張れたのも温かい目で見守ってくれた先生、友達のお陰です。

感謝しています。

☞母校がなくなるのはさみしいですね。

役員のみなさま、お世話ありがとうございます。

☞今は4人の子供を授かり、日々楽しく過ごしています。

育児のかたわら、病院で頑張っております。

母校はなくなりますが、みんなで過ごした思い出はみんなの中にずっと残っていくと思います。

場所は違いますが、2科32期生、みんなそれぞれ頑張っていきましょう(^o^)/

これからもよろしく！



第二看護学科 第33期生

平成13年3月7日卒業〈16名〉

大上 郁代
上村 ゆかり
蔵本 真理
桑本 理恵
興梠 里子
小林 千春

齊藤 夕紀
澤田 晃代
篠田 佳代子
菅 祐美恵
馬場 千秋
細川 雅子

堀 幸代
松岡 秀美
三鬼 めぐみ
溝口 亜矢





第二看護学科 第34期生

平成14年3月8日卒業(26名)

伊藤 千江
 糸見 理世
 稲田 律子
 稲森 誠子
 上野 佐登子
 梅田 春奈
 小田 恵
 小林 綾子
 小林 由季

更谷 美奈
 篠田 恵理
 渋谷 司美
 志茂 明子
 田中 綾子
 塚本 和代
 中根 貞子
 檜橋 素子
 花田 智恵

馬場 千夏
 濱田 喜恵
 東 理恵
 平林 より子
 本田 江利子
 宗藤 寿恵
 恵 治美
 安井 香織





第二看護学科 第35期生

平成15年3月7日卒業(18名)

石田 あきよ
大久保 操来
尾種 よしみ
神崎 みき
倉岡 歩
倉橋 みのり

興梠 優美
清水 純子
清家 百枝
花田 由美
濱崎 理香
林 裕美

原 明美
平田 美香
古原 美穂
松元 友子
宮平 真由美
村上 宏美

2科35期生学院の思い出

当時は辛かった事も沢山あったように思いますが、今となってはイイ思い出！

准看護婦養成所に続き、母校がなくなるのは寂しいですが、学院で学び、感じた事や、みんなと過ごした日々を大切に、これからもよりよい看護を提供していきたいです。

大上 明美(旧姓:原)

思い出は、何か色々あるけどマイナーなところあの膨大なレポート！何度朝陽を拝んだことか(笑)

大橋 歩(旧姓:倉岡)

元々、集団行動が苦手な学年であった私たちが、学院に入学することで、さらに集団で物事を考えることができなくなった覚えがあります。

でも今振り返れば、食事から入浴から進学まで集団で考えてきた私たちにとって、一人一人の個性を再確認する大切な時間であったと思います。

あまりこれといった衝撃的な出来事がなく穏やかに過ごす時間は、学習面でも、人間性を磨く上でも重要な二年間であったと感慨深く思い出します。そのおかげで、今は遠く離れた友人も時々会えば、昨日まで一緒にいたように何の隔たりも感じずに済むのだと思います。

また、みんなで会う機会ができればいいなと思います。

清水 純子

楽しい行事もあり、長いようで短かった学生生活を振り返ると、思い出すのは実習の日々です。

体調を崩して、実習が停止になり、友達に支えてもらったこと。指導員に、悩んだこと、喜んだこと。

仲間と乗り越えた毎日が今となっては良い思い出です。

現在は、看護教員として、日々学生指導にあたっています。

学院は閉校してしまいますが、先生方や指導者の方々から教えていただいた看護の心を、私なりに学生に伝えていけるよう頑張っていきたいと思って過ごしています。

増田 裕美(旧姓:林)

神戸の救命センターで勤務しています。

どんな時も学院で教えて頂いた寄り添う看護と笑顔と親切を忘れず立派な看護用木を目指して頑張ります！

松元 友子

団体行動が苦手な私でしたが、友達や先生方、いろいろな方に助けていただいたおかげで今があると思います。

一児の母として私生活も大変ではありますが、これからも看護用木として頑張りたいと思います。

同窓会役員として連絡いただいた皆様ありがとうございます！！

宮西 みき(旧姓:神崎)

国試に向けて、切磋琢磨した日々が懐かしいです。

看護だけでなく、人として大切なことも学ばせて頂いたことに感謝しています。

西村 あきよ(旧姓:石田)

天理看護学院を卒業して、今年で11年経ちました。

学生時代は、講義と病院実習、その後のレポートに難しいテストと、毎日が慌ただしく過ぎた事を思い出します。

しかし、私が、学院の厳しいカリキュラムをクリアできたのは、一緒に過ごした友人が居てくれたからだだと思います。

いまは、主婦という立場ですが、子育てが落ち着いたら、もう一度看護用木として、頼んで勤めさせていただきたいと思っています。

松井 操来(旧姓:大久保)





第二看護学科 第36期生

平成16年3月5日卒業〈11名〉

阿部 真知子
宇留賀 明子
江川 けい子
加登 文子
木田 沙織
木村 久美子

越野 恵
権藤 粧子
阪口 みちこ
菅原 かをり
田中 希世子

2科36期

聴の家を退職して、今は医療現場からは離れ、子育てに勤しんでいます。いずれ自分でできる範囲で、少しでも人様のお役にたてればなと思っています。母校が開校になるのはさみしいですが、そこで学ばさせていただいたことは、生涯大事にして行きたいと思います。当校で育てて頂いたことに大変感謝しております。ありがとうございました。Shohko Tmizawa

看護学院を卒業後、聴の家で働かせて頂いて、10年が過ぎようとしています。学院生が実習にくると看護学院で過ごした日々を思い出して、懐かしくなります。学校は閉校になります。が楽しかったあの頃を思い出しながら毎日一生懸命勤めさせて頂きたいと思っています。

田中 希世子

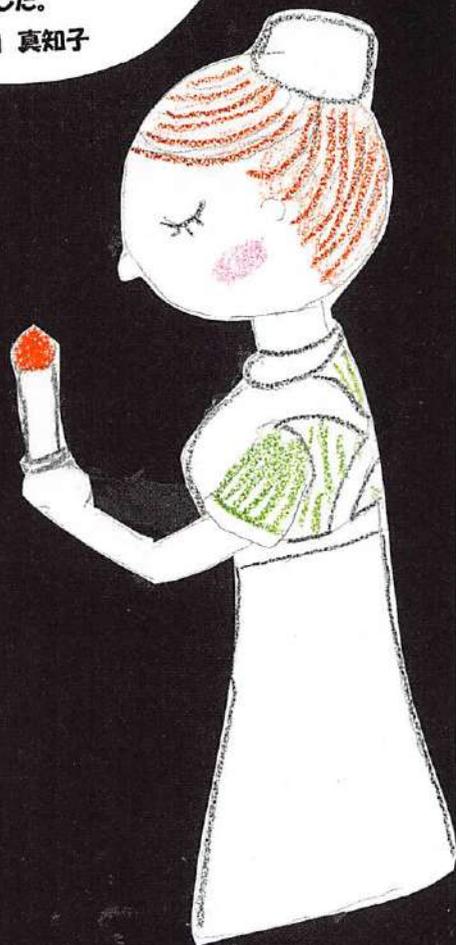
今は他の病院で働いていますが、看護を学び楽しい学院で良かったなあと本当に感じます。少人数のクラスもいろいろなことがあっておもしろかった！ありがとうございました。

武田 真知子

たくさんの事を学び友達と過ごした看護学院の開校にとっても寂しさを感じます。天理医療大学 とない引き続き将来活躍される看護ようほくがたくさん育っていかれることを考えるとうれしさを感じます。今は子育て、仕事に追われる日々を過ごしていますが、またいつか叶うなら天理で看護の勉強がしたいなど大きな夢を抱いています。

城下みちこ

実習で涙を流したあの頃がととても懐かしく感じます。そんな私が今学生指導といった立場で看護学生に関わらせて頂いて、改めて学院で育てて頂いたことに大変感謝しています。ありがとうございました。木田 沙織





第二看護学科 第37期生

平成17年3月8日卒業(28名)

穴田 有美
 泉 万奈子
 岩倉 まなみ
 大川 美奈子
 葛原 やすよ
 楠本 真実
 小池 優
 古賀 元子
 小成 裕美
 佐々木 久江

中村 愛
 成川 郁恵
 西原 まさみ
 沼田 浩子
 延原 昌子
 日出木 みのり
 本多 夏子
 松原 良絵
 元木 由香
 森 弘子

安池 咲
 山口 理恵
 山藤 恵美
 横田 亜紀世
 吉岡 布実
 吉村 澄世
 和田 千加子
 渡邊 淳子

2科 37期



♥ 中島 (松原) 良江

今は島根の大学病院で働いてるけど
あまりにも帰りが遅いし夜勤も多いので病院を
変えようかなあって考えています。

♥ 大杉 (吉岡) 布実

小学校でやっと仕事を始めたよ

♥ 阿部みのり

1歳の娘のおかげで充実した毎日です。
友達に会えるのを楽しみにおちば帰り

♥ 庄田 (小成) 裕美

ちよっと楽しくなってきたかなあ? しています。憩の家がほんと懐かしい!

私は6月に結婚して、今は守口市の病院で働いています。初めて憩の家以外で働きますが、聞いてた通りほんとに憩の家では恵まれた環境で働かせてもらっていたんだなあと感じています。同期もいて何かあれば頼りになる先輩もたくさんいたことに離れて初めて感じました。これからも憩の家で学んだ看護を活かし自分なりに頑張っていきたいと思ひます。

♥ 前田 (中村) 愛

私は、2人の男の子に振り回されながら40病棟で仕事を続けています。

♥ 野村 (古賀) 元子

今や同期も減り、廊下を歩けば必ず同期の誰かに会うって時代が懐かしく 医真会 八尾総合病院
少し寂しい感じもします。みんな元気になっていますか? やっぱり同期は私の 循環器病棟で働いています。
宝物です。

♥ 西原まさみ

今は広島に帰り、慢性期病棟で働き始め、1
年半が経ちました。離れて再度憩の家が恵ま
れていて良い所で育てて頂いたことを実感
しています。これからも医療に携わり頑張
りたいと思ひます。

♥ 大川美奈子

私は今上海で子育て中です。
海外生活で何かと適応しているのは、
天理で送らせて頂いた濃い青春時代が
今の糧になっているからだとよく感じています。
今は主人の仕事の関係で中国の医療関係者と会う時に
日本の医療を紹介して交流しています。
やっぱり医療のお仕事好きですね。

♥ 森弘子

憩に戻り61病棟で再スタートして早くも1年が経とうとしています。なんだか同期が
少なくなって寂しく、みんなでワイワイしていた日々が懐かしいなあと思ひます。
みんなそれぞれの道で頑張っているのだと知って私も又頑張っていこうと刺激を受けました。

♥ 泉まなこ

私は今、大阪赤十字病院で働いています。
人も環境もシステムも違うので慣れるまで
まだまだですが、やっと1年が経ちます。

それぞれの道で
看護用木として頑張っ
ていきな!!

♥ 楠本真実

昨年徳島に戻り徳島赤十字病院で働いています。
毎日忙しいですが笑顔と親切を忘れずに
頑張りたいと思ひます。





助産学科 第1期生

平成18年3月8日卒業 (8名)

東 砂代美
菅野 しづよ

高田 有佳
渡草 礼子

西村 真紀
松岡 美雪

向井 綾
山中 ゆたか

慣れない環境の中でしたが、優しい先生がた、第一期生の友人の皆様に支えられながらの学校生活は一生の思い出です！実習室でのみんなで練習した分娩介助は今も鮮明に覚えています。助産学科は無くなってしまいますが、学ばせていただいたことは私の財産になっています。常に初心を忘れず、天理での学びを活かし助産師として様々な方の役に立って行きたいと改めて感じました。

呉医療センター勤務 石井礼子（旧姓渡草）

助産学科一期生として入学してたくさんの先輩助産師さん、お母さん、赤ちゃん...本当にたくさんの方々に育てて頂き、素敵な出会い、感動的な体験...どれも助産師になってなかったら感じる事の出来なかった事ばかりです。もっともっとたくさんの助産師さんを学院から羽ばたかせてほしかったです。今は子育て真っ最中ですが、いつかきつと助産師の経験を生かした人助けがしたいです。

二児の母 植田美雪（旧姓松岡）

私は、天理看護学院助産学科を卒業できたことを誇りに思います。今もこれからも天理看護学院が大好きです。たった一年の在学中で、こんなにもその後を生きていくうえで、温かく見守られている安心感を感じられる学校はほかにないと思います。天理医療大学に変わっても、天理教の温かい教えの中で、たくさんの医療従事者が育ってほしいと思います。天理医療大学も将来、助産専攻ができることに希望が湧きます。 久米島町役場福祉課勤務 東砂代美

たった一年間でしたが、いろんなことが思い出されます。何度も練習した分娩介助、大量の記録物、そしてたくさんの方との出会い...卒業後もなにかと気にかけて下さる先生方、『天理の先生はあったかいね』と就職後言われました。これからは、自分自身も天理ののをいを出せるような助産師になりたいと思います。三児の母 西ゆたか（旧姓山中）

短い期間でしたが とても充実した一年間で看護学院があったからこそ先生方・仲間との出会いがあったからこそ今、弱小ながらも助産師として活躍させてもらっていると感じています。学院は無くなってしまいますが本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

中産婦人科勤務 二児の母 川野有佳（旧姓高田）



天理からたくさんの助産師が生まれ、巣立ち、全国津々浦々で活躍されることが卒業生として、とても楽しみでしたが、閉校してしまうことが残念です。天理で育てて頂いた感謝を忘れずこれからも助産師として頑張りたいと思います。

湘南鎌倉総合病院勤務 菅野しづよ

学院がなければみんなとの出会いはなく、学院は人生のなかの通過点ですが、私にとって貴重な時間でした。学院がなくなっても、みんなは繋がっていると思うし、学院での思い出を大切にしたいなと思います。

一児の母 天坂綾（旧姓向井）



学院で学んだことは卒業して7年たった今でも大切にさせていただきながら患者様に関わらせていただいています。学院が閉校になってしまうのはさみしいですが、今後の医療や看護の発展のために天理医療大学となり、さらには奈良県の医療の発展を期待しています。

市立堺病院勤務 西村真紀



助産学科 第2期生

平成19年3月7日卒業 (6名)

釜山 絵美

中谷 美香

樋口 みどり

志茂 陽子

鳩野 文子

柳井 浩子



助産学科 第3期生

平成20年3月7日卒業〈9名〉

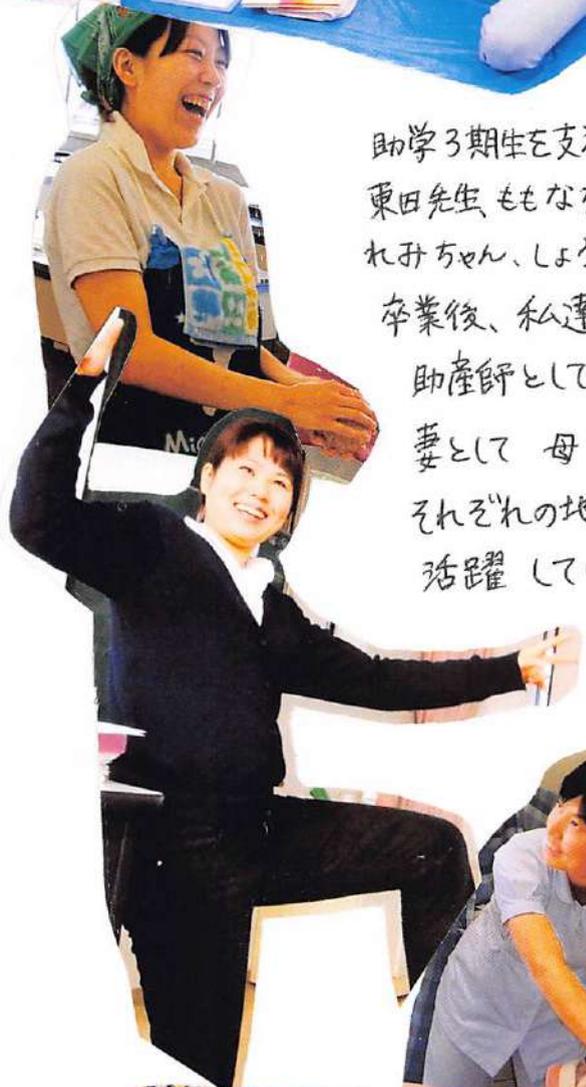
石田 千陽
田中 友美
中西 智予美

藤岡 佑香
藤村 真実子
藤村 美喜

眞柴 明奈
三津井 道代
山田 恵津子



助学3期生を支えてくれた
 東田先生 ももなちゃん、なな子ちゃん
 れみちゃん、しょうたくん、ありがとう！
 卒業後、私達9名は
 助産師として 女性として
 妻として 母として
 それぞれの地域で
 活躍 しています☆





助産学科 第4期生

平成21年3月6日卒業 (9名)

伊田 早苗
岩田 おさ子
岩本 起代子

大江 奈々
阪本 恵子
笹田 ひとみ

中川 さやか
林 かよ子
森本 桂

助産学



お産々々
90例々々
安産でありますように。



学院の
実習室での
ファントム
での練習々々



助産学科 第5期生

平成22年3月9日卒業 (9名)

井岡 洋子
雁金 那実子
公庄 成美

坂本 和代
清水 旬栄
玉村 光代

藤田 由佳
松田 久美子
吉村 美沙



助学期

みんな
ありがとう!

5期生の皆様へ
辛い時、それは自分が
成長している時
嬉しい時、それは自分が
輝いている時
みんなの笑顔が
この瞬間を輝かせる

平成二十一年度
天理看護学院
卒業式式場



助産学科 第6期生

平成23年3月8日卒業 (9名)

數岡 美沙
椎葉 奈子
中西 直子

平田 賢子
松田 千佳
村上 初世

村上 美穂
吉井 瑞希
吉川 恵美子

助産学科6期生

現在天理で3名。

奈良県内で2名。

大阪府で1名。

兵庫県で2名

東京都で1名

それぞれ助産師として働いています。

色々な妊婦さん

産婦さんとの

関わりの中で日々

学んでおります。

いずれ天理で学んだ

私たちが世界に

羽ばたく助産師として

活躍できるように

目標にしています。



天理看護学院

閉校にあたって

卒業し、2年が経ち

ましたが、助産学生として

の1年間はとても濃厚で

今までにない経験も

たくさんさせてもらいました。

今ふり返ると未熟な

私たちでしたが、

母校の皆さん、母の皆さん

教えていただき

ました事をとても有り難く

思います。

母校が閉校するので

さみしく感じますがまた

天理に立ち寄る機会が

ありましたら、天理医療大学と

なった校舎に会いに

行きたいなと思っております。



助産学科 第7期生

平成24年3月7日卒業〈9名〉

川口 恵理
神田 菜々子
志賀 加奈子

新谷 祐美
染川 真美
田中 智子

友田 果那
仲谷 依世
西上 紫萌

目力産学科

7期生☆

ぼく、
ジャーニー!!
よろしく

一生、忘れられない
一年でした...



ジャーニー!!!



濃厚な一年を
ありがとう...

川口リサ

素敵な出会いも

いっぱいありがとう...
神田♡
ななこ



謝恩会にて先生と一緒に♡



いろんな思い出
できました☆

ありがとう.. 西上いろは

皆で乗り越えた
一年、ありがとう



助産学科 第8期生

平成25年3月5日卒業 (9名)

青柳 芙由紀
石原 慶子
坂上 もも代

田中 佐世
野井 歩
久川 真貴子

南 和弥
村田 ちか子
渡辺 ひろみ



国試前日

分科試験合格、全員合格々

十イカニ!!

年間行事

目白押し (笑)

クリスマス会
先生!! 笑顔がエッセイです♡

その他、
球技大会
Birthday会
あ……
夏まきいらない……



エスパー(笑)

forever...
みなみちゃん ままちゃん
やまちゃん ちかちゃん(Boss)
さよちゃん 無限大
未だがり



のいちゃん
ういちゃん

ももちゃん

けいちゃん 謝恩会



たのしいな月

送別会

たのしいな月

アズーランド

たなばた

8期生
初産学科



助産学科 第9期生

平成26年3月5日卒業 (9名)

秋月 志保
飯塚 望水
岩本 理沙

奥田 恵美
桑原 萌
小崎 美智代

谷口 侑子
野口 玲菜
吉本 有里

9期生



学院最後の助産学生として入学し、先生方、9期生の仲間と出会いました。そして、大切な出会い、大切な時間となりました。学院生活が、感謝の気持ちでいっぱいになります。ありがとうございました。谷口侑子



天理看護学院最後の助産学生として入学したことを誇りに思います。先生方、仲間に感謝の気持ちでいっぱいになります。ありがとうございました。吉本有里



学院最後の助産学生と先生方、希望と夢とフレッシュな気持ち入学して、もうすぐ1年が過ぎました。先生方の優しさ、忘れません。開校は、涙なしではできません。桑原萌



学院で先生方、産婦人科から多くのことを学びました。Q12に一致したことで、大切な仲間に出会えたこと、一生の宝になりました。開校にして、この日は悲しいけれど、学院の思い出を大切にしたいと思います。岩本理沙



天理看護学院最後の年に入学出来たことは、何百の縁だと感じています。この学院で、この8人に出会い、素敵な先生方に出会えました。本当に感謝です。秋の学院生活の中で、一番楽しかったこと、自信と誇り、感謝です。ありがとうございました。秋月志保



学校では、看護学科、助産学科の4年間お世話になりました。開校は、とても寂しいと思います。学校での学びを活かして助産師として頑張りたいです。ありがとうございました。飯塚望水



学校の助産学科に入学して、先生方、仲間に感謝の気持ちでいっぱいになります。ありがとうございました。成長して、この日は悲しいけれど、学院の思い出を大切にしたいと思います。奥田克美



天理看護学院助産学科に入学してきました。うれしく思います。個性豊かな9期生の仲間と先生方に出会えたことは、私の一生の宝物です。開校して、この日は悲しいけれど、学院の思い出を大切にしたいと思います。野口真葉



今期限りで開校は、この日は悲しいけれど、学院の思い出を大切にしたいと思います。ありがとうございました。奥田克美

天理看護天理学院卒業生数

平成26年3月

年度	第二看護学科				第一看護学科				合計	助産学科		卒業日
	期生	女	男	計	期生	女	男	計		期生	合計	
昭和43年	1	50	0	50	—	—	—	—	50	—	—	昭和44年3月20日
44年	2	48	0	48	—	—	—	—	48	—	—	45年3月17日
45年	3	45	0	45	—	—	—	—	45	—	—	46年3月10日
46年	4	49	0	49	—	—	—	—	49	—	—	47年3月10日
47年	5	53	0	53	—	—	—	—	53	—	—	48年3月 9日
48年	6	45	0	45	—	—	—	—	45	—	—	49年3月 9日
49年	7	42	1	43	—	—	—	—	43	—	—	50年3月11日
50年	8	51	0	51	—	—	—	—	51	—	—	51年3月 9日
51年	9	28	0	28	—	—	—	—	28	—	—	52年3月10日
52年	10	39	0	39	—	—	—	—	39	—	—	53年3月10日
53年	11	62	0	62	—	—	—	—	62	—	—	54年3月10日
54年	12	56	0	56	—	—	—	—	56	—	—	55年3月10日
55年	13	56	0	56	—	—	—	—	56	—	—	56年3月10日
56年	14	57	0	57	—	—	—	—	57	—	—	57年3月10日
57年	15	51	0	51	—	—	—	—	51	—	—	58年3月10日
58年	16	55	0	55	—	—	—	—	55	—	—	59年3月 9日
59年	17	49	0	49	—	—	—	—	49	—	—	60年3月11日
60年	18	48	1	49	—	—	—	—	49	—	—	61年3月11日
61年	19	51	0	51	—	—	—	—	51	—	—	62年3月11日
62年	20	46	0	46	1	39	0	39	85	—	—	63年3月11日
63年	21	51	0	51	2	33	0	33	84	—	—	平成 1年3月11日
平成1年	22	43	0	43	3	38	0	38	81	—	—	2年3月 9日
2年	23	39	0	39	4	36	0	36	75	—	—	3年3月 9日
3年	24	40	0	40	5	43	0	43	83	—	—	4年3月10日
4年	25	30	0	30	6	39	1	40	70	—	—	5年3月11日
5年	26	33	0	33	7	37	0	37	70	—	—	6年3月 8日
6年	27	28	0	28	8	34	0	34	62	—	—	7年3月 7日
7年	28	37	0	37	9	27	1	28	65	—	—	8年3月 5日
8年	29	26	0	26	10	41	0	41	67	—	—	9年3月11日
9年	30	36	0	36	11	50	1	51	87	—	—	10年3月11日
10年	31	28	0	28	12	44	4	48	76	—	—	11年3月 8日
11年	32	29	0	29	13	44	0	44	73	—	—	12年3月 8日
12年	33	16	0	16	14	40	3	43	59	—	—	13年3月 7日
13年	34	26	0	26	15	40	2	42	68	—	—	14年3月 8日
14年	35	18	0	18	16	39	3	42	60	—	—	15年3月 7日
15年	36	11	0	11	17	42	1	43	54	—	—	16年3月 5日
16年	37	28	0	28	18	40	1	41	69	—	—	17年3月 8日
	平成17年3月31日 閉科				平成17年4月1日 看護学科へ名称変更					平成17年4月1日 開設		
17年	—	—	—	—	19	47	3	50	50	1	8	18年3月 8日
18年	—	—	—	—	20	47	2	49	49	2	6	19年3月 7日
19年	—	—	—	—	21	52	3	55	55	3	9	20年3月 7日
20年	—	—	—	—	22	62	4	66	66	4	9	21年3月 6日
21年	—	—	—	—	23	58	6	64	64	5	9	22年3月 9日
22年	—	—	—	—	24	44	4	48	48	6	9	23年3月 8日
23年	—	—	—	—	25	50	5	55	55	7	9	24年3月 7日
24年	—	—	—	—	26	63	2	65	65	8	9	25年3月 5日
25年	—	—	—	—	27	63	5	68	68	9	9	26年3月 5日
合計	—	1,500	2	1,502	—	1,192	51	1,243	2,745 (53)	—	77	—

“看護ようぼくの思いをさらに深めて”

天理看護学院閉校後の同窓会活動について

平素より、同窓会活動に対し多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。この度、平成26年3月をもって、天理看護学院は閉校となりました。今後も会員相互の親睦を図り、同窓生の絆をより深めることができるよう関係者の方々と話し合いを重ねているところです。

■ 天理看護学院同窓会の主な活動

- [1] 救護ひのきしん活動（こどもおちばがえり、天理教行事救護派遣）
- [2] レター通信（年1回程度の発行）
- [3] 住所録管理（卒業後の住所管理）
- [4] 同窓会総会（3年に1回の開催）
- [5] その他（式典出席、2か月に1回の定例幹事会、役員会）

■ 同窓会事務局について

看護学院閉校後は、天理看護学院事務室より天理医療大学の事務室に移管し、会員の会費の管理や郵便物の受け入れなど事務的な業務の支援や協力をお願いしていく予定です。会則の変更も必要ですので、幹事定例会、総会で報告させていただきます。

■ 救護ひのきしん活動について

平成25年度救護実績は、職員を含め265件（内こどもおちばがえり188件）延べ1202名、学生865名の参加がありました。看護学生とOB看護師との交流の機会になっています。救護ひのきしん参加申し込み窓口は0743-63-5611内線8647健康管理室です。

■ 今後の同窓会に関連した問い合わせ窓口

同窓会活動の問い合わせや事務的な問い合わせの窓口として、各期の幹事および天理看護学院出身の天理医療大学教員の先生方にもご協力をお願いしております。ご質問について、お返事が必要な場合は、後日、同窓会役員を通じ、再度、ご連絡させて頂くこととなりますが、遠慮なくお問い合わせください。

〔天理医療大学 住所：〒632-0018 奈良県天理市別所町80-1 TEL 0743-63-7811〕

今後の天理看護学院同窓会は、同窓会組織のあるべき姿を模索しつつ、後輩看護師に看護ようぼくの精神を伝える努力をして行きたいと考えております。

同窓会活動へのご意見や要望などお寄せいただければ幸いです。

平成26年3月
天理看護学院同窓会役員一同

編集を終えて

昭和42年に創設されてより、47年に亘り看護ようほく育成の責務を担ってきた天理看護学院が、平成26年3月をもって閉校するにあたり、思い出に残る記念誌を発刊する運びとなりました。すでに第二看護学科の閉科記念誌は発刊しておりますが、あらためて第一看護学科・第二看護学科・助産学科とも、全期生の卒業写真と名簿を掲載させて頂きました。

閉校にあたり、これまで、一方ならぬご支援を賜った関係各位や諸先生方にご寄稿をお願い致しました。頂いた文面を拝見し、長い歴史の中で、実に多くの方々を心にかけて頂き、見守り、お育て頂いた天理看護学院であったことを、自分自身の感謝も込めて、感慨深く振り返らせて頂きました。

私は、二科の5期生ですが、憩の家で定年までつとめ終え、2年前に天理看護学院の副学院長のご命をいただきました。

折しも、天理医療大学の開学と同時の着任であり、同じ校舎を使用する大学の看護学生も含めて、看護ようほくの伝統を次世代に引き継ぐことを自らの使命と心得、心を尽くしてまいりました。学院生も、歓迎会、学院祭、こどもおちぼがえり救護ひのきしんなどの行事を通して、先輩としての役割を良く果たし、モデルを示してくれました。

天理看護学院の有終の美を飾る卒業生として、恥ずかしくないようにと、朝の参拝時から、信条教育をふまえた、心づかいや態度の指導に力を注いでまいりました。

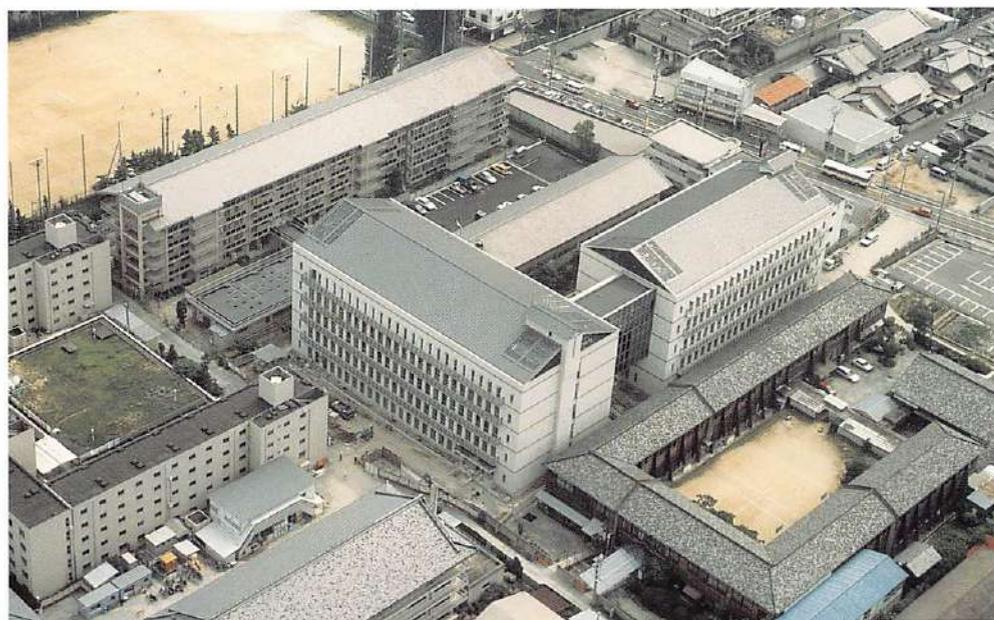
知識・技術は未熟ではありますが、患者さん思いで、純真な看護の姿勢は、どこに出しても恥ずかしくないと、誇りに思っております。どこまでも患者さんに寄り添う、真摯な態度を大切にして、先輩諸氏に続いて、立派な看護ようほくとして、大きく成長していかれることを願ってやみません。

最期になりましたが、ご多忙中にもかかわらずご寄稿いただきました諸先生方、同窓生および関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

天理看護学院 副学院長 平 葉子



旧校舎を西方より



旧校舎を東方より

最後に、旧校舎が隣接していた頃の貴重な写真を掲載します。

天理看護学院 閉校記念誌

立教177年(平成26年)4月1日 発行

編集・発行 天理看護学院

天理看護学院同窓会

奈良県天理市別所町80-1

TEL.0743-63-7811

印刷・製本 株式会社天理時報社
